市之関前田遺跡III

県営柏倉地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1992

群馬県勢多郡宮城村教育委員会

例　　言

1．本書は群馬県勢多郡宮城村大字市之関字前田795番地外に所在する柏倉遺跡群市之関前田遺跡の発掘調査報告書『市之関前田遺跡III』である。本書では縄文時代中期後半から中近世の遺構を扱う（土坑については別稿にて取り扱う）。なおⅠ《旧石器時代編》は既刊である。

2．発掘調査は県営柏倉地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として昭和62年度・昭和63年度・平成元年度と三次に渡って実施した。また整理作業並びに本書の作成は発掘調査に継続して行った。

3．発掘調査並びに整理作業は各年度の国宝重要文化財等保存整備費補助金及び前橋土地改良事務所委託金を使用して、宮城村教育委員会が行った。

4．調査組織は次のとおりである。

事務局

教　育　長　茂木利次（～平成3年9月）・平林　始（平成3年10月～）

事務局長　斎藤賢寿

課長補佐　大崎キワ（～平成3年9月）

社会教育主事　六本木　剛

主　　事　細野高伯（調査担当）

調査補助員　小川卓也（整理担当）

5．本書の編集は小川が担当し、執筆を行った。

6．現場における遺構の写真撮影は細野が行い、遺物写真は小川がこれを行った。また遺物展開写真の撮映は小川忠博氏による。

7．本報告にかかる出土品・調査記録図面及び写真等は一括して宮城村教育委員会が保存・管理している。

8．本書の作成に当たっては次の諸氏・諸機関より貴重なご指導・ご教示を賜った。ここに記して感謝の意を表します。（敬称略、五十音順）

新井喜昭、小菅将夫、関根慎二、谷藤保彦、富田孝彦、中島直樹、松田光太郎、山下歳信、綿田弘実

群馬県教育委員会文化財保護課、㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団、勢多郡社会教育部会文化財分会、前橋土地改良事務所

凡　　例

1．本書の挿図中の方位記号は座標北を示す。

2．「調査に至る経緯と経過」及び「遺跡の概要」については前書『市之関前田遺跡Ⅰ』を参照されたい。
なお前書とは数字等で異なる部分があるが、本書をもって正式な報告としたい。

3．遺構全体図等は巻末に掲載した。各遺構の位置についてはこちらで確認されたい。なお遺構全体図中の表示は次のことを意味する。

住ー住居址　　配石ー配石遺構　　土ー土坑　　掘立ー掘立柱建物址

4．本書に掲載した遺構図・遺物図の縮尺はおおむね下記のとおりだが、詳細については各図版中のスケールを参照されたい。

遺構	住居址	1/60
	配石遺構	1/20
	掘立柱建物址	1/80
	炭窯址	1/60
	溝　址	1/200～1/500・1/60
遺物	土器・陶磁器	1/2～1/5
	石製品	1/2～1/4
	貨幣	1/1

5．遺構図中の表示は次のことを意味し、このほかの表示については図中にその意味を記した。

【平面図】　＝焼土　　＝炭化物

【断面図】　＝石　　＝土器

6．遺物観察表中の（　）内の数値は推定値を表す。

目　　次

例　　言
凡　　例

Ⅰ　検出された遺構と遺物
1　縄文時代の遺構と遺物……1
A．住 居 址……1
B．配石遺構……53
2　平安時代の遺構と遺物……56
A．住 居 址……56
3　中世・近世の遺構と遺物……59
A．住 居 址……59
B．掘立柱建物址……61
C．炭 窯 址……65
D．溝　　址……66
E．井 戸 址……72
F．阿弥陀畑地区……74

市之関前田遺跡全体図……77

写真図版……85

挿図目次

第1図　第1・19号住居址……2
第2図　第1・19号住居址炉址……3
第3図　第1号住居址出土遺物①……3
第4図　第1号住居址出土遺物②……4
第5図　第19号住居址出土遺物……5
第6図　第2・14号住居址……6
第7図　第2号住居址炉址……7
第8図　第2号住居址出土遺物①……7
第9図　第2号住居址出土遺物②・
第14号住居址出土遺物……8
第10図　第3・21・4号住居址①……11
第11図　第3・21・4号住居址②……12
第12図　第4号住居址炉址……12
第13図　第3号住居址出土遺物……13
第14図　第21号住居址出土遺物①……14
第15図　第21号住居址出土遺物②……15
第16図　第4号住居址出土遺物①……15
第17図　第4号住居址出土遺物②……16
第18図　第5号住居址……18
第19図　第5号住居址出土遺物……18
第20図　第9・22号住居址……19
第21図　第9・22号住居址出土遺物……20
第22図　第10号住居址……22
第23図　第10号住居址出土遺物……22
第24図　第11号住居址A・B……24
第25図　第11号住居址A・B出土遺物①……25
第26図　第11号住居址A・B出土遺物②……26
第27図　第13号住居址・同炉址……28

第28図　第13号住居址出土遺物①……29
第29図　第13号住居址出土遺物②……30
第30図　第17号住居址……31
第31図　第17号住居址出土遺物……31
第32図　第18号住居址……32
第33図　第33号住居址・同炉址……33
第34図　第33号住居址出土遺物①……34
第35図　第33号住居址出土遺物②……35
第36図　第34号住居址……36
第37図　第35号住居址……38
第38図　第35号住居址出土遺物①……38
第39図　第35号住居址出土遺物②……39
第40図　第35号住居址出土遺物③……40
第41図　第36号住居址，同炉址・１号埋甕……42
第42図　第36号住居址出土遺物①……43
第43図　第36号住居址出土遺物②……44
第44図　第36号住居址出土遺物③……45
第45図　第36号住居址出土遺物④……46
第46図　第38号住居址・同炉址……47
第47図　第38号住居址出土遺物①……47
第48図　第38号住居址出土遺物②……48
第49図　第38号住居址出土遺物③……49
第50図　第39号住居址……51
第51図　第39号住居址出土遺物……51
第52図　第40号住居址……53
第53図　第41号住居址……54
第54図　第41号住居址出土遺物……54
第55図　第１・２号配石遺構……55
第56図　第42号住居址・同遺物出土状況……57
第57図　第42号住居址出土遺物……58
第58図　第７号住居址……59
第59図　第15号住居址……60
第60図　第15号住居址出土遺物……60
第61図　第１号掘立柱建物址①……62
第62図　第１号掘立柱建物址②……63
第63図　第１・２号掘立柱建物址出土遺物……63
第64図　第２号掘立柱建物址……64
第65図　第１号炭窯址……65
第66図　第１号溝……67
第67図　第２・３号溝……68
第68図　第４号溝……69
第69図　第５号溝……69
第70図　溝址出土遺物①……70
第71図　溝址出土遺物②……71
第72図　第３号井戸址出土遺物……73
第73図　阿弥陀畑地区出土遺物……75
第74図　遺跡周辺図……77
第75図　調査区全体図……78
第76図　遺構全体図Ⅰ……79
第77図　遺構全体図Ⅱ……80
第78図　遺構全体図Ⅲ……81
第79図　遺構全体図Ⅳ……82
第80図　遺構全体図Ⅴ……83
第81図　遺構全体図Ⅵ……84

写真図版目次

ＰＬ１－１．第２号住居址炉址完掘状況
２．第３号住居址完掘状況
３．第４号住居址完掘状況
４．同炉址検出状況
５．第５号住居址完掘状況
６．第９号住居址遺物出土状況①
７．第９号住居址遺物出土状況②
８．第11号住居址Ａ埋甕検出状況
ＰＬ２－１．第13号住居址敷石状況
２．同炉址完掘状況
３．第33号住居址敷石状況
４．同炉址完掘状況
５．同炉内遺物検出状況
６．第34号住居址完掘状況
ＰＬ３－１．第35号住居址敷石状況
２．同石囲部完掘状況
３．第36号住居址敷石状況
４．同炉址完掘状況
５．同１号埋甕検出状況
６．同２号埋甕検出状況

ＰＬ４－１．第38号住居址完掘状況
２．同敷石・遺物検出状況
３．同炉址完掘状況
４．第40号住居址完掘状況
５．同住居址付近地割れ痕検出状況
６．第41号住居址完掘状況
ＰＬ５－１．第１号配石遺構検出状況
２．第２号配石遺構検出状況
３．第42号住居址完掘状況
４．同カマド完掘状況
５．第７号住居址完掘状況
６．第15号住居址土層観察状況
７．第１号掘立柱建物址完掘状況
８．第２号掘立柱建物址完掘状況
ＰＬ６－１．第１号炭窯址土層観察状況
２．第１号溝完掘状況①
３．第１号溝完掘状況②
４．第５号溝完掘状況①
５．第５号溝完掘状況②
ＰＬ７－１．阿弥陀畑地区暗渠等検出状況
２．阿弥陀畑地区石造物集中部①
３．阿弥陀畑地区石造物集中部②
４．第３号井戸址完掘状況
ＰＬ８　第１号住居址出土遺物
第19号住居址出土遺物
第２号住居址出土遺物①
ＰＬ９　第２号住居址出土遺物②
第14号住居址出土遺物
第３号住居址出土遺物
ＰＬ10　第21号住居址出土遺物
第４号住居址出土遺物
ＰＬ11　第５号住居址出土遺物
第９号住居址出土遺物
第22号住居址出土遺物
ＰＬ12　第10号住居址出土遺物
第11号住居址Ａ・Ｂ出土遺物
ＰＬ13　第13号住居址出土遺物
第17号住居址出土遺物
ＰＬ14　第33号住居址出土遺物
ＰＬ15　第35号住居址出土遺物①
ＰＬ16　第35号住居址出土遺物②
第36号住居址出土遺物①
ＰＬ17　第36号住居址出土遺物②
ＰＬ18　第38号住居址出土遺物
ＰＬ19　第39号住居址出土遺物
第41号住居址出土遺物
第42号住居址出土遺物
第15号住居址出土遺物
ＰＬ20　第１・２号掘立柱建物址出土遺物
溝址出土遺物
阿弥陀畑地区出土遺物①
ＰＬ21　阿弥陀畑地区出土遺物②
第３号井戸址出土遺物①
ＰＬ22　第３号井戸址出土遺物②

Ⅰ　検出された遺構と遺物

1　縄文時代の遺構と遺物

本遺跡では旧石器時代から近世にかけての多くの遺構・遺物が検出された。中でもこの時代の遺構・遺物の検出数が一番多く、前期前半および中期後半を中心とする竪穴式住居址や土坑・配石遺構等が検出されている。本報告では中期後半の加曽利Ｅ３～Ｅ４式期の住居址と配石遺構を取り上げる。中期後半の所産とみられる住居址は24軒（プランが不明確だが該期の遺物が検出されたものや、遺物が検出されなかったがプランから該期の住居址と考えられるものも調査時に該期の住居址として認定している。本報告では、ほぼ調査時の認定を踏襲する）、配石遺構は２基を数える。

Ａ．住居址

第１号住居址（第１・２図）

位　置―28・29―30グリッド　**規模・形状**―掘り込みは検出されなかったが、径5.4m程の円形プランと推定される。 **柱　穴**―推定プラン内よりＰ１～Ｐ12の12本が検出されたものの、主柱穴配置は不明。 **炉**―住居址中央で検出された。長軸80cm・短軸70cm・深さ24.5cmを測り、菱形に近い円形を呈す地床炉である。炉南東脇で礫が検出されたが、炉に伴うものかは不明である。 **重　複**―第19号住居址と重複すると考えられる。

Pit番号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５	Ｐ６	Ｐ７	Ｐ８	Ｐ９	Ｐ10	Ｐ11	Ｐ12
深さ(cm)	22.0	17.5	15.5	15.5	32.5	13.0	32.5	15.0	33.5	31.0	19.0	25.0

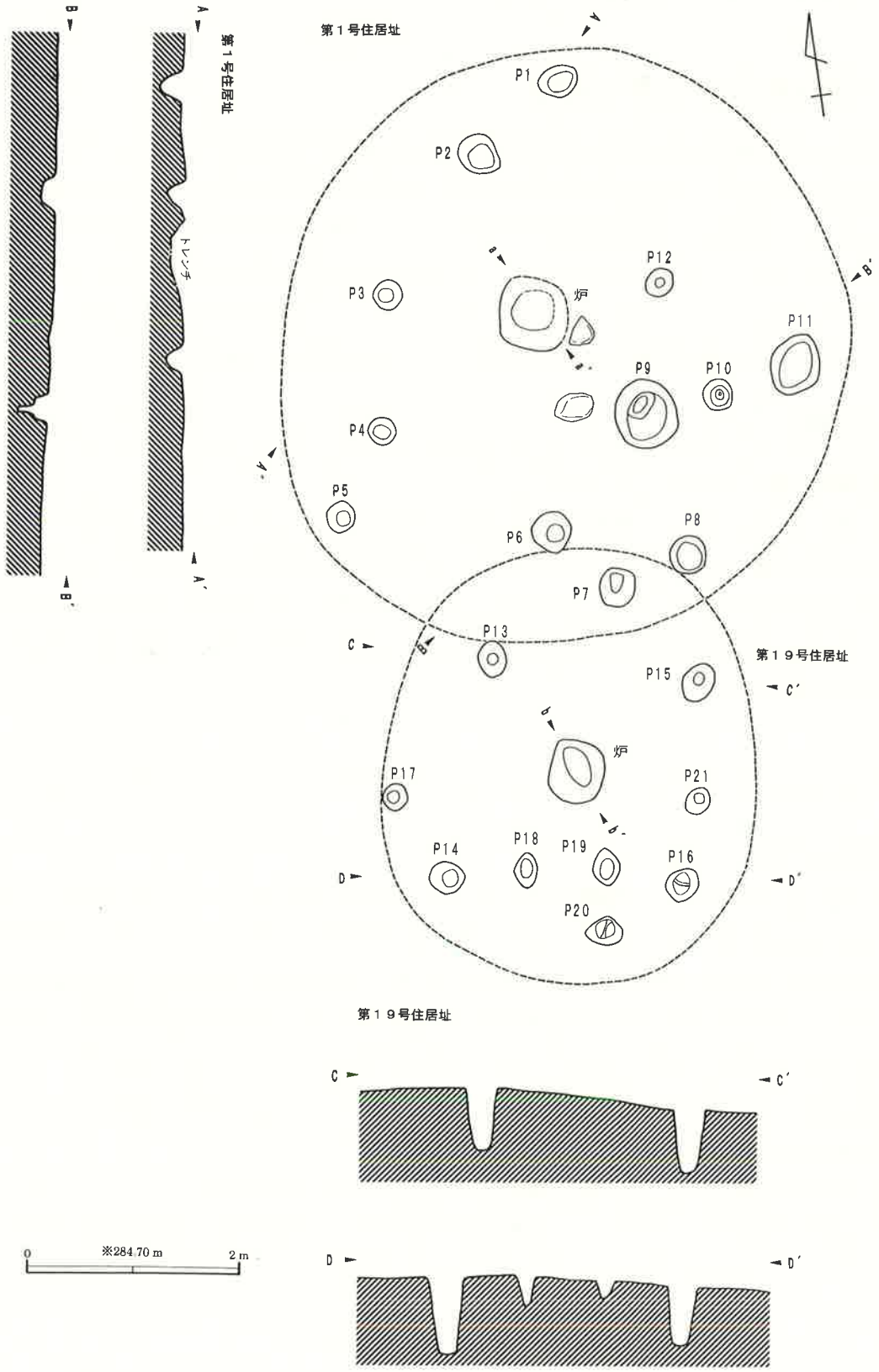
第19号住居址（第１・２図）

位　置―28・29―30グリッド　**規模・形状**―掘り込みは検出されなかったが、柱穴配置より長軸4.1m・短軸3.6mの楕円形プランと推定される。 **柱　穴**―推定プラン内よりＰ７・Ｐ13～Ｐ21の10本が検出され、Ｐ13～Ｐ16の４本が主柱穴と考えられる。**炉**―住居址中央で検出された。長軸62cm・短軸57cm・深さ14cmを測り、円形を呈す地床炉である。 **重　複**―第１号住居址と重複すると考えられる。

Pit番号	Ｐ７	Ｐ13	Ｐ14	Ｐ15	Ｐ16	Ｐ17	Ｐ18	Ｐ19	Ｐ20	Ｐ21
深さ(cm)	32.5	54.5	69.0	57.0	53.6	22.0	27.5	16.5	28.0	13.5

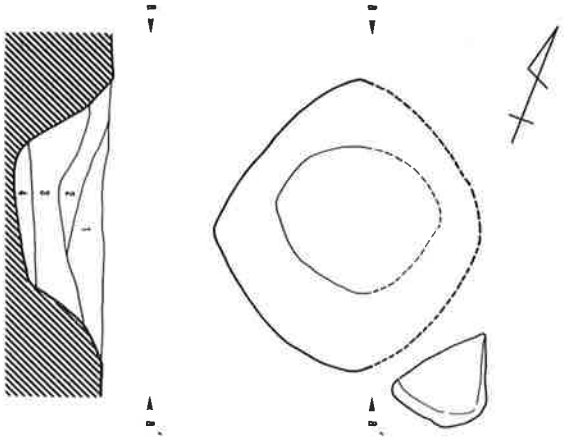
第１号住居址出土土器観察表（第３・４図）

番号	部位	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	備考
1	口縁部～胴部	細粒の砂	橙色	普通	口縁部は内湾する。口唇部直下に若干無文帯を持つ。以下LR(？)縄文を施文後沈線によりＵ字状等に区画。	口径22.9cm
2	口縁部	細粒の砂	灰黄褐色	良好	波状口縁部破片。隆線と沈線により楕円形等に区画。RL縄文を施文。	
3	口縁部	中粒の砂	浅黄橙色	良好	隆線と沈線により楕円形等に区画。Ｌ縄文を施文。	
4	口縁部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	波状口縁部破片。RL縄文施文後沈線により曲線文等を施す。	



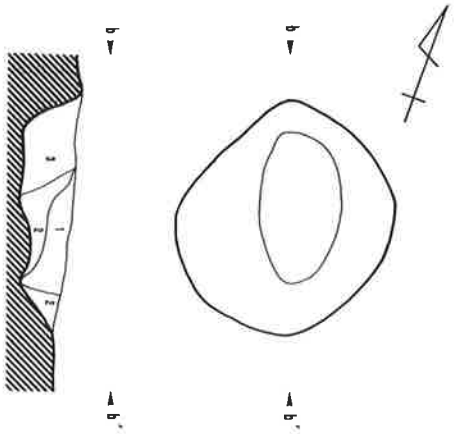
第１図　第１・19号住居址（S＝1/60）

第１号住居址炉址



土層説明（ａ・ａ′）
1　暗褐色土：若干砂質。ローム粒混じる。
2　暗褐色土：粘性あり。ロームブロック混じる。
3　暗褐色土：若干砂質。粘性あり。焼土・炭化物混じる。
4　焼土　　：若干ロームブロック混じる。

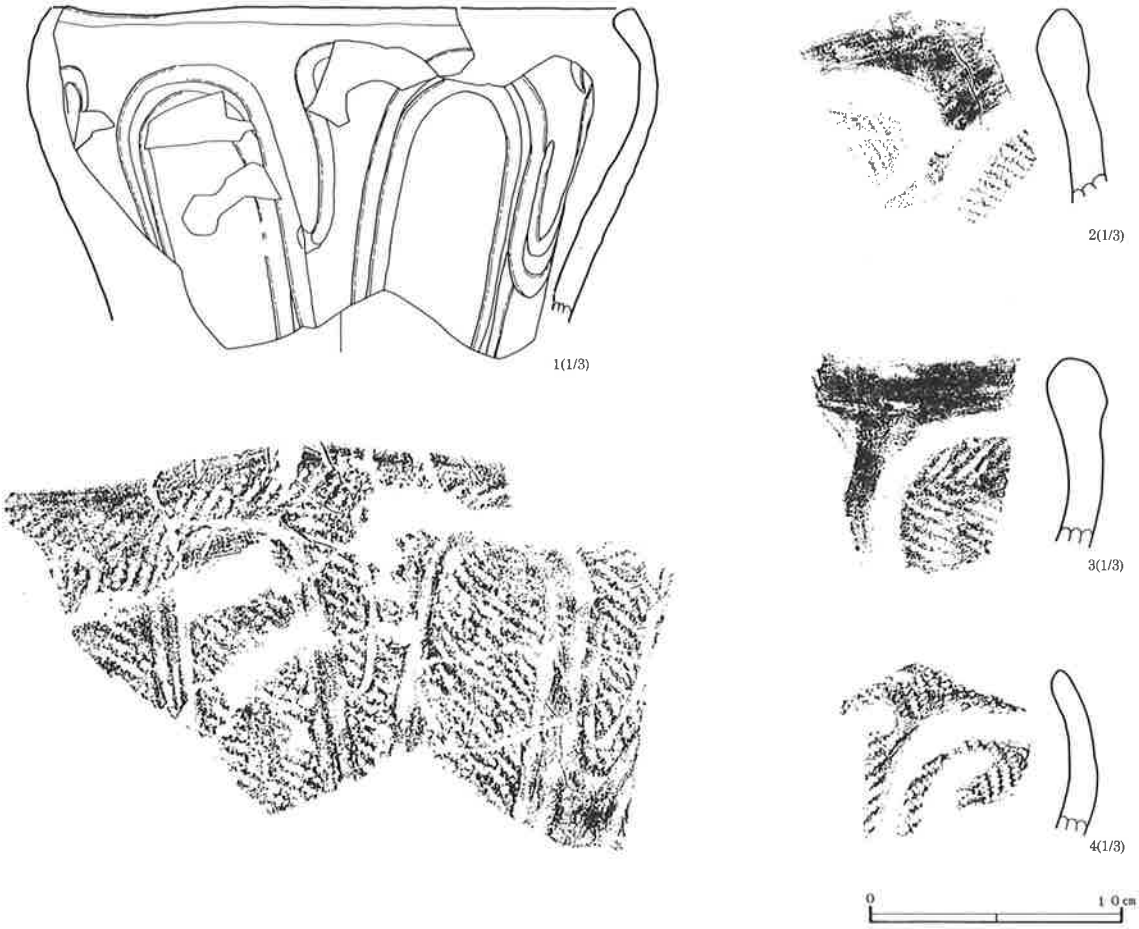
第19号住居址炉址



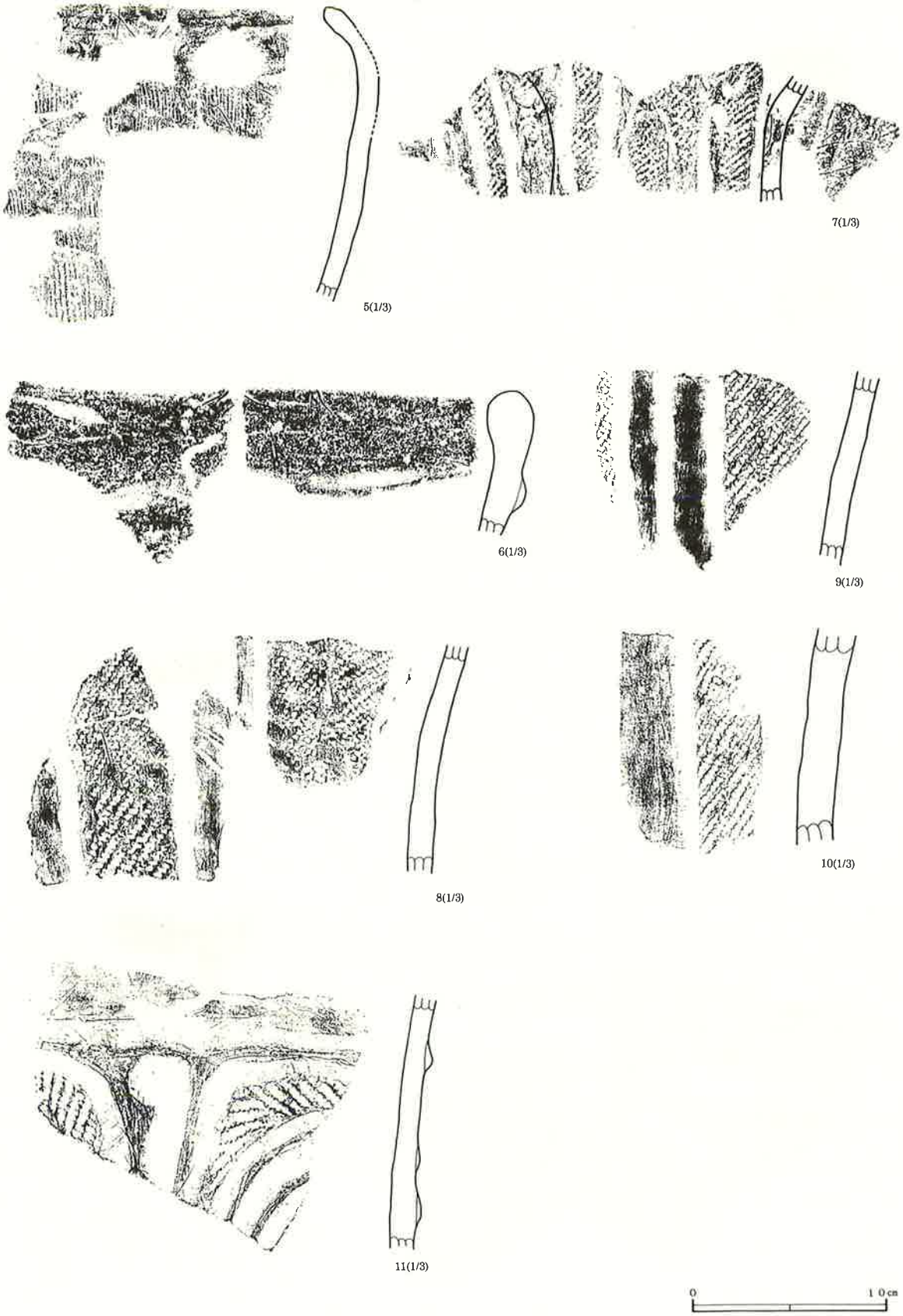
土層説明（ｂ・ｂ′）
1　暗褐色土：若干砂質。焼土ブロック混じる。
2　暗褐色土：色調明るい。若干粘性あり。
3　褐 色 土：ロームブロック主体。

0　※284.70 m　50cm

第２図　第１・19号住居址炉址（Ｓ＝１/20）

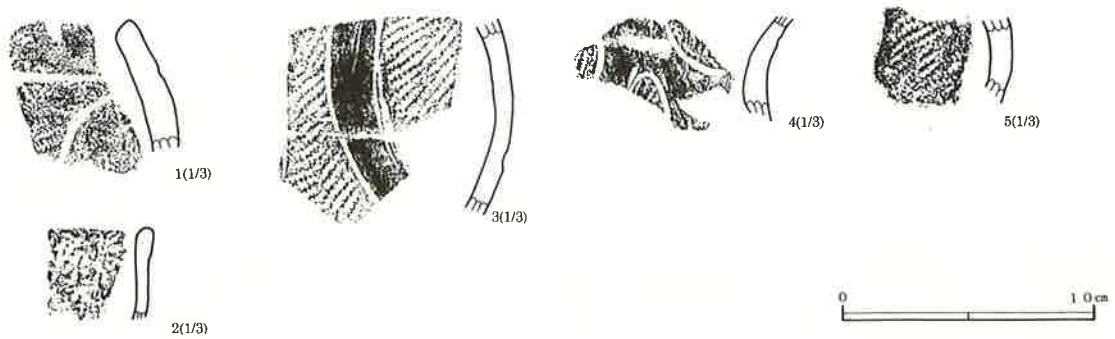


第３図　第１号住居址出土遺物①（Ｓ＝１/３）



第４図　第１号住居址出土遺物②（Ｓ＝１／３）

5	口縁部～胴部	細粒の砂	褐灰色	普通	口縁部は内湾する。口唇部直下に無文帯を持ち、以下条線を縦位に施す。	
6	口縁部	細粒の砂	橙色	普通	口縁部に隆線を巡らせる。	
7	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	くびれを持つ胴部破片。RL 縄文施文後沈線により縦位区画し、区画内に蕨手状懸垂文を施す。	
8	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
9	胴部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。磨消部に１条の沈線が垂下する。	
10	胴部	中粒の砂	浅黄橙色	良好	沈線により縦位区画。LR 縄文を施文。	
11	胴部	中粒の砂	橙色	良好	隆線を巡らせ頸部無文帯と胴部文様帯を区画。胴部文様帯は沈線を伴う隆線により縦位区画され、区画内には隆線による曲線文および RL 縄文を施文。区画間には蕨手状懸垂文を施す。	



第５図　第19号住居址出土遺物（Ｓ＝１/３）

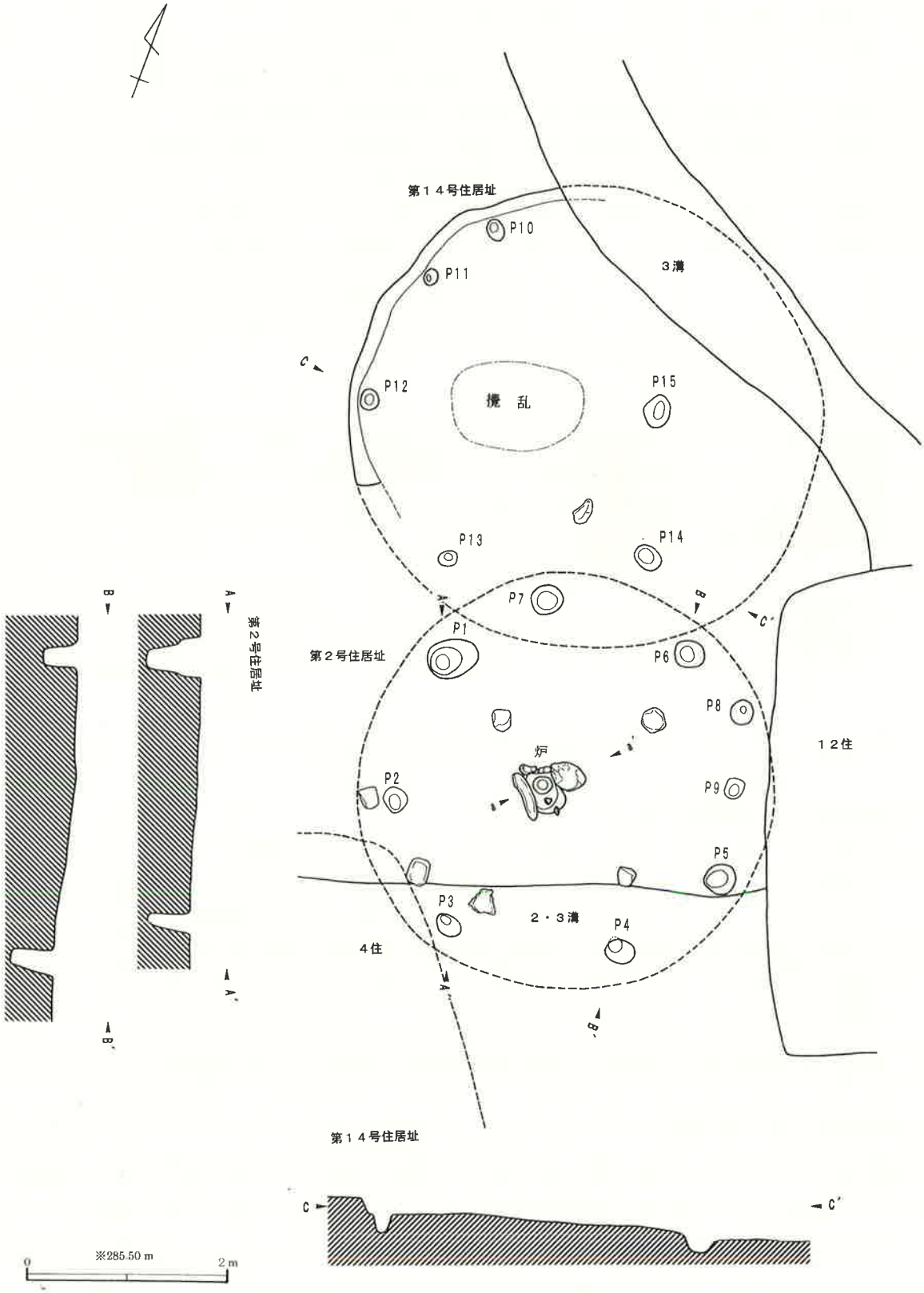
第19号住居址出土土器観察表（第５図）

番号	部 位	胎 土	色 調	焼成	器形・文様の特徴	備 考
1	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下沈線により曲線文等を施す。RL 縄文施文。	
2	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	小型土器の口縁部破片。全面に縄文を施す。	
3	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により曲線文等を施す。RL 縄文施文。	
4	胴部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	沈線により∪・∩字状に区画。RL 縄文施文。	
5	把手	細粒の砂	浅黄橙色	普通	橋状把手破片。橋状部に RL 縄文を施文。	

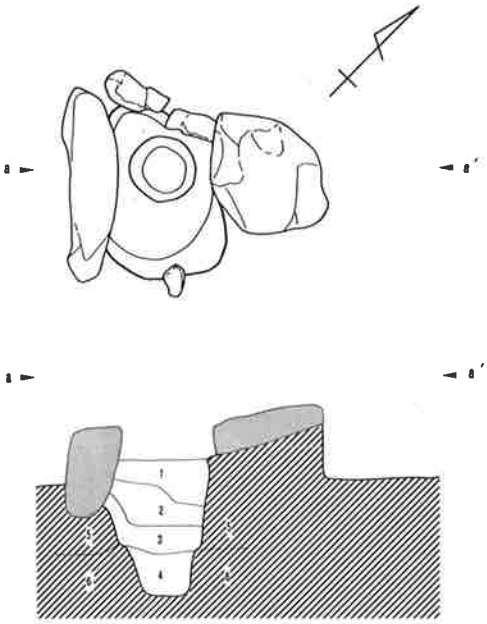
第２号住居址（第６・７図）

位　置―27―27グリッド　**規模・形状**―掘り込みは検出されなかったが、柱穴配置より径4.1m程の円形プランと推定される。 **柱　穴**―推定プラン内よりＰ１～Ｐ９の９本が検出された。壁周辺を巡るものと考えられる。 **炉**―住居址中央で検出された。長軸90cm・短軸70cm・深さ31.5cmを測り楕円形を呈す。東西に大きめの石を１個ずつ、北側に小さめの石を２個配する石囲炉である。 **重　複**―第４・12・14号住居址・第２・３号溝と重複すると考えられる。

Pit番号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５	Ｐ６	Ｐ７	Ｐ８	Ｐ９
深さ(cm)	54.5	42.5	41.0	43.0	38.0	34.0	46.5	17.0	19.0



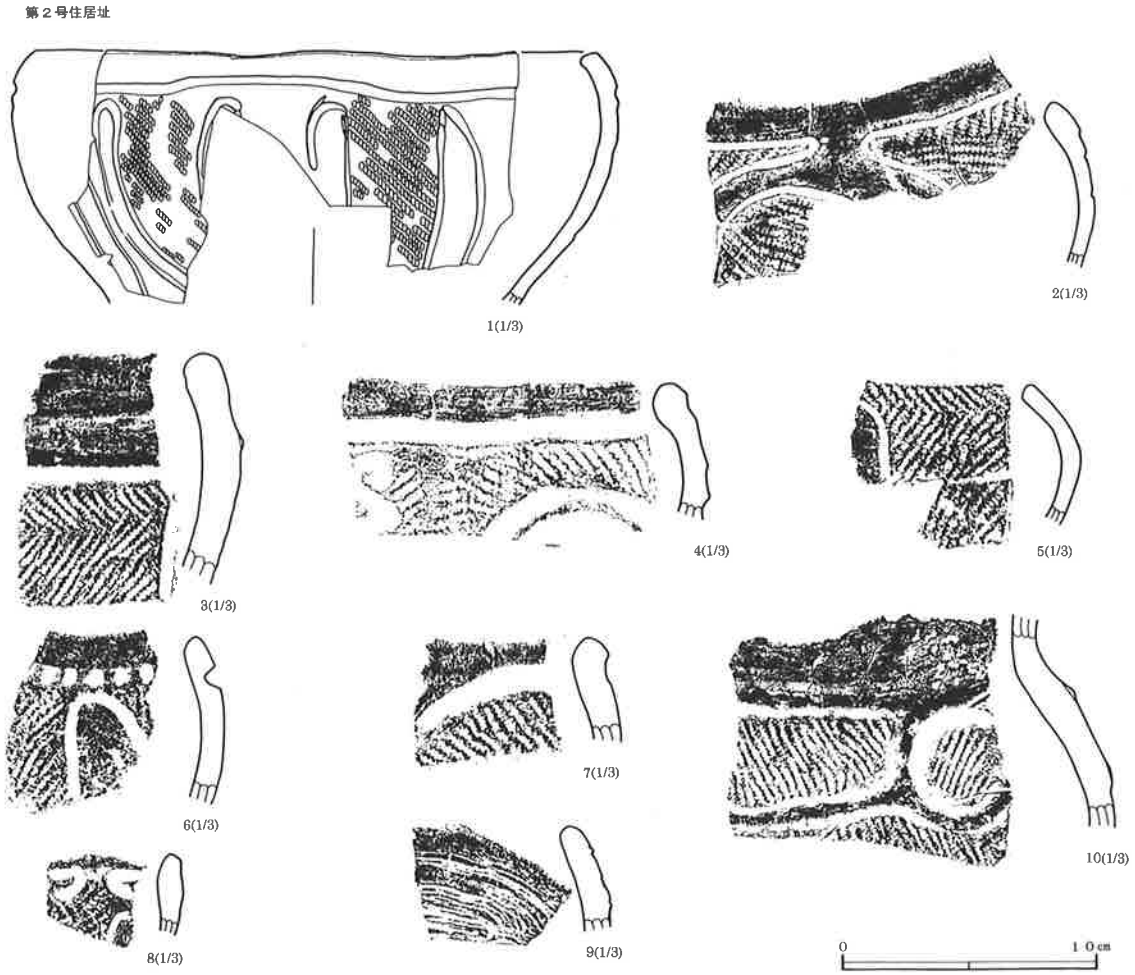
第６図　第２・14号住居址（Ｓ＝１/60）



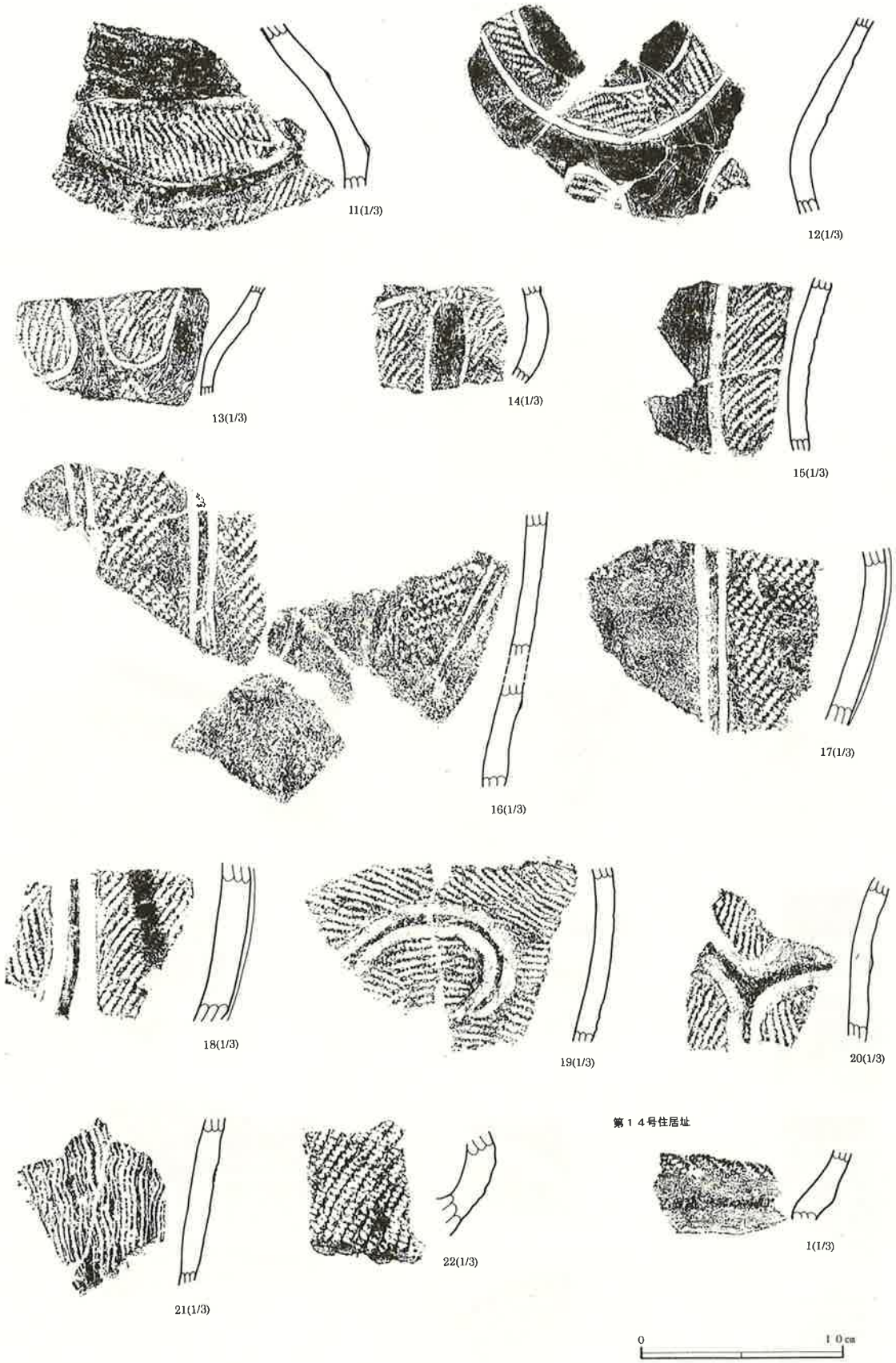
土層説明（a・a′）
1　茶褐色砂質土：しまりなし。
2　褐色土　　：若干粘性・しまりあり。ロームブロック混じる。
3　暗褐色土　　：粘性・しまりあり。ローム粒混じる。
4　焼土
5　暗褐色土　　：粘性・しまりあり。
6　黄褐色ハードローム

0　※285.50 m　5 0 cm

第７図　第２号住居址炉址（S＝１/20）



第８図　第２号住居址出土遺物①（S＝１/３）



第９図　第２号住居址出土遺物②・第14号住居址出土遺物（Ｓ＝１／３）

第14号住居址（第６図）

位　置―27―27グリッド　**規模・形状**―住居址北西部に９～13.5cmの掘り込みが検出された。長軸4.7m・短軸4.6mの円形プランと推定される。 **柱　穴**―推定プラン内よりＰ７・Ｐ10～Ｐ15の７本が検出された。壁周辺を巡るものであろうか。 **炉**―検出されなかった。 **重　複**―第２号住居址・第３号溝と重複する。

Pit番号	Ｐ７	Ｐ10	Ｐ11	Ｐ12	Ｐ13	Ｐ14	Ｐ15
深さ(cm)	46.5	27.0	31.0	18.0	16.0	14.0	21.5

第２号住居址出土土器観察表（第８・９図）

番号	部 位	胎　土	色　調	焼成	器形・文様の特徴	備　　考
1	口縁部～胴部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	口縁部は内湾し、胴部中位にくびれを持つ。口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下沈線により∩字状に区画。LR 縄文を施文。	口径22.2cm
2	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線によりＪ字状(？)に区画。LR 縄文を施文。	
3	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線を伴う隆線を巡らせ無文帯を作る。以下沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
4	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部に沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下沈線による曲線文・蛇行懸垂文および RL 縄文を施文。	
5	口縁部	細粒の砂	鈍い橙色	普通	沈線により∩字状に区画。RL 縄文を施文。	
6	口縁部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	口縁部に刺突をもつ沈線を巡らせ、無文帯をつくる。以下沈線により∩字状に区画。RL(？)縄文を施文。	
7	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により楕円形に区画。RL 縄文を施文。	
8	口縁部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	波状口縁部破片。口縁部は沈線により楕円形に区画し、以下沈線により∩字状(？)に区画。RL 縄文を施文。	
9	口縁部	細粒の砂	褐灰色	良好	波状口縁部破片。条線を横位に施す。	
10	頸部～胴部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	両耳壺の頸部～胴部破片。頸部に無文帯を持つ。隆線と沈線により円形・楕円形に区画。RL 縄文を施文。	
11	頸部～胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	両耳壺の頸部～胴部破片。頸部に無文帯を持つ。沈線を伴う隆線により楕円形に区画。RL 縄文充塡施文。	
12	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	２条対の沈線により弧状に区画。以下沈線により∩字状に区画。LR 縄文を施文。	
13	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により∪・∧字状に区画。RL 縄文を施文。	
14	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	ゆるやかな波状の沈線を横位に巡らせる。以下沈線により∩字状に区画。RL 縄文を施文。	
15	胴部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
16	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	両脇に沈線を伴う隆線により∪字状に区画。RL 縄文を施文。	17と同一個体
17	〃	〃	〃	〃	〃	16と同一個体
18	胴部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	両脇に沈線を伴う隆線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
19	胴部	細粒の砂	橙色	良好	隆線により曲線文等を施す。RL 縄文を施文。	20と同一個体

20	胴部	細粒の砂	橙色	良好	隆線により曲線文等を施す。RL 縄文を施文。	19と同一個体
21	胴部	中粒の砂	明褐色	良好	ゆるやかな波状の条線を縦位に施す。	
22	把手	細粒の砂	鈍い橙色	良好	橋状把手破片。橋状部に RL 縄文を施文。	

第14号住居址出土土器観察表（第９図）

番号	部 位	胎 土	色 調	焼成	器形・文様の特徴	備 考
1	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	隆線を巡らせて上下に区画。LR 縄文を施文。	

第３号住居址（第10図）

位　置―26・27―28グリッド　**規模・形状**―掘り込みは検出されなかったが、柱穴配置より長軸4.0m・短軸3.7mの円形プランと推定される。 **柱　穴**―推定プラン内よりＰ１～Ｐ９の９本が検出され、Ｐ８を除き壁周辺を巡るものと考えられる。 **炉**―検出されなかった。 **重　複**―第21号住居址・第18・42号土坑と重複する。

Pit番号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５	Ｐ６	Ｐ７	Ｐ８	Ｐ９
深さ(cm)	30.1	27.3	33.3	22.3	33.6	31.3	23.5	31.5	44.1

第21号住居址（第10・11図）

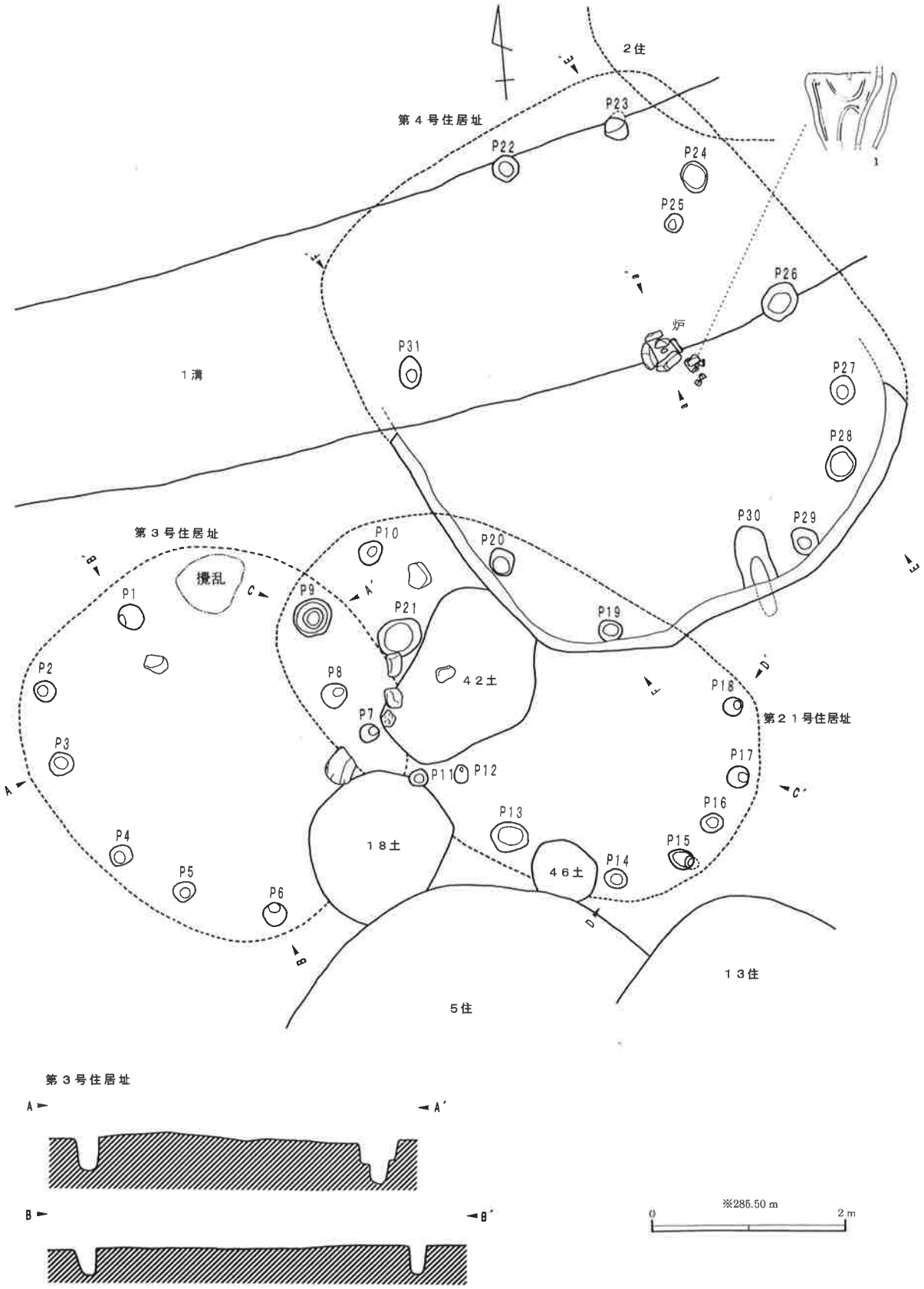
位　置―27―28グリッド　**規模・形状**―掘り込みは検出されなかったが、柱穴配置より長軸5.2m・短軸3.0mの楕円形プランと推定される。 **柱　穴**―推定プラン内よりＰ７～Ｐ21の15本が検出された。Ｐ12・Ｐ21を除き、壁周辺を巡るものと考えられる。 **炉**―検出されなかった。 **重　複**―第３・４号住居址・第18・42・46号土坑と重複する。

Pit番号	Ｐ７	Ｐ８	Ｐ９	Ｐ10	Ｐ11	Ｐ12	Ｐ13	Ｐ14	Ｐ15	Ｐ16	Ｐ17	Ｐ18	Ｐ19	Ｐ20	Ｐ21
深さ(cm)	23.5	31.5	44.1	24.5	13.5	26.5	33.0	21.5	31.5	15.5	18.0	27.0	25.0	45.0	16.0

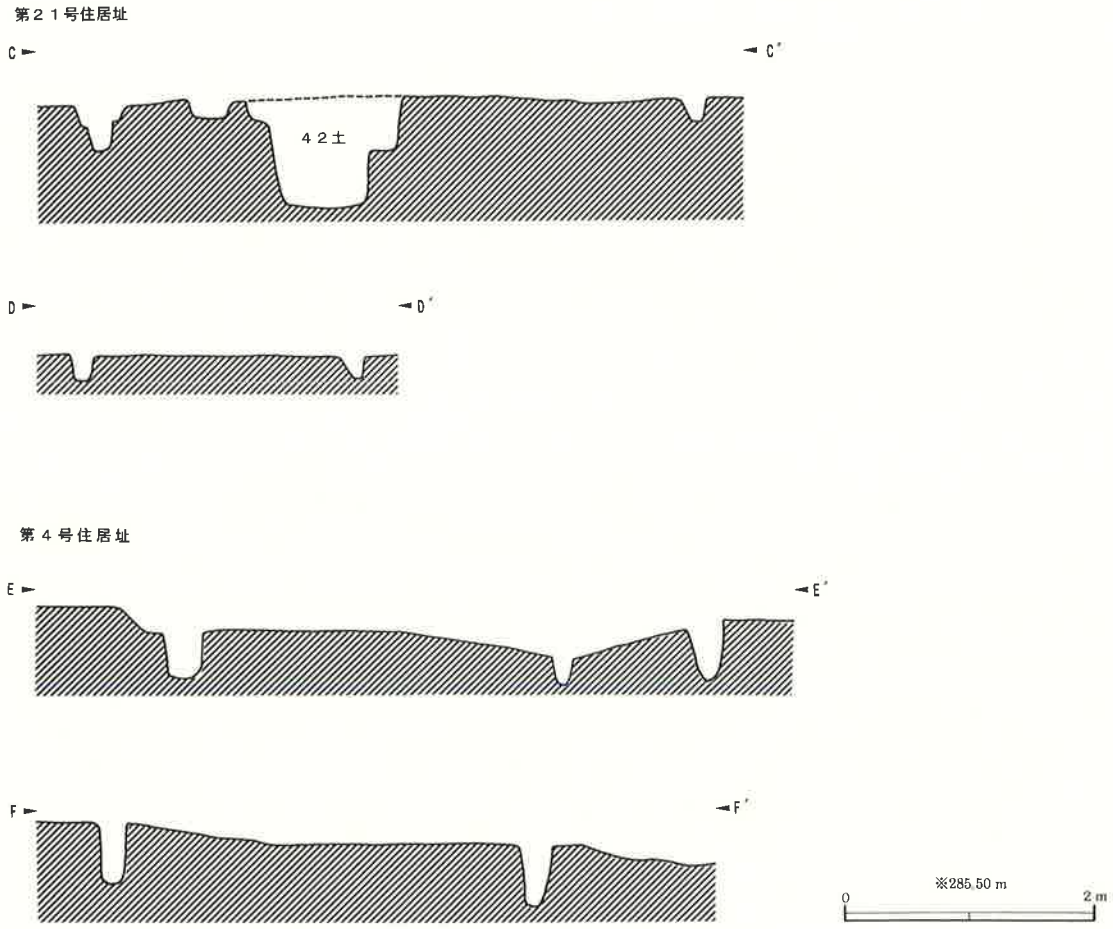
第４号住居址（第10～12図）

位　置―27―27・28グリッド　**規模・形状**―住居址西側から南側にかけて12～27.5cmの掘り込みが検出された。長軸5.5m・短軸4.8mの隅丸長方形プランと推定される。 **柱　穴**―推定プラン内より、Ｐ19・Ｐ20・Ｐ22～Ｐ31の12本が検出された。Ｐ25を除き壁面を巡るものと考えられる。 **炉**―住居址中央やや東寄りで検出された。４個の石を方形に配し、炉内からも２個の礫が検出された。炉の南東脇より小型の深鉢（第16図１）が検出された。 **重　複**―第２・21号住居址・第42号土坑・第１号溝と重複する。

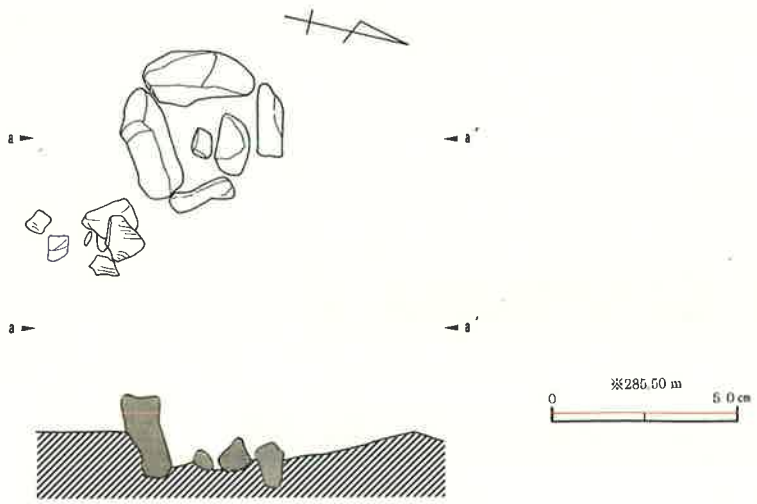
Pit番号	Ｐ19	Ｐ20	Ｐ22	Ｐ23	Ｐ24	Ｐ25	Ｐ26	Ｐ27	Ｐ28	Ｐ29	Ｐ30	Ｐ31
深さ(cm)	25.0	45.0	24.5	46.0	50.0	24.0	19.5	14.0	32.0	35.5	44.0	46.5



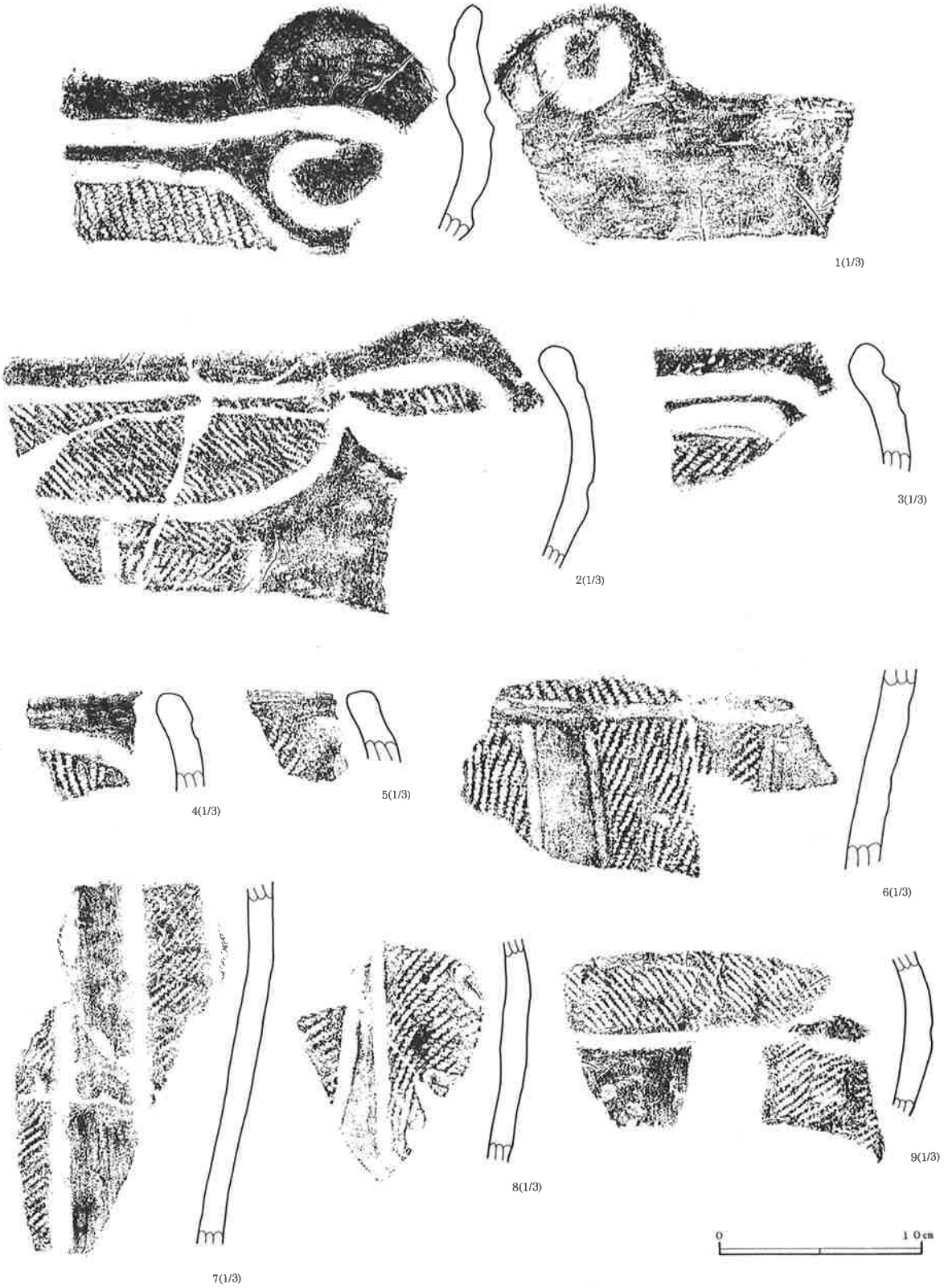
第10図　第３・21・４号住居址①（S＝1/60）



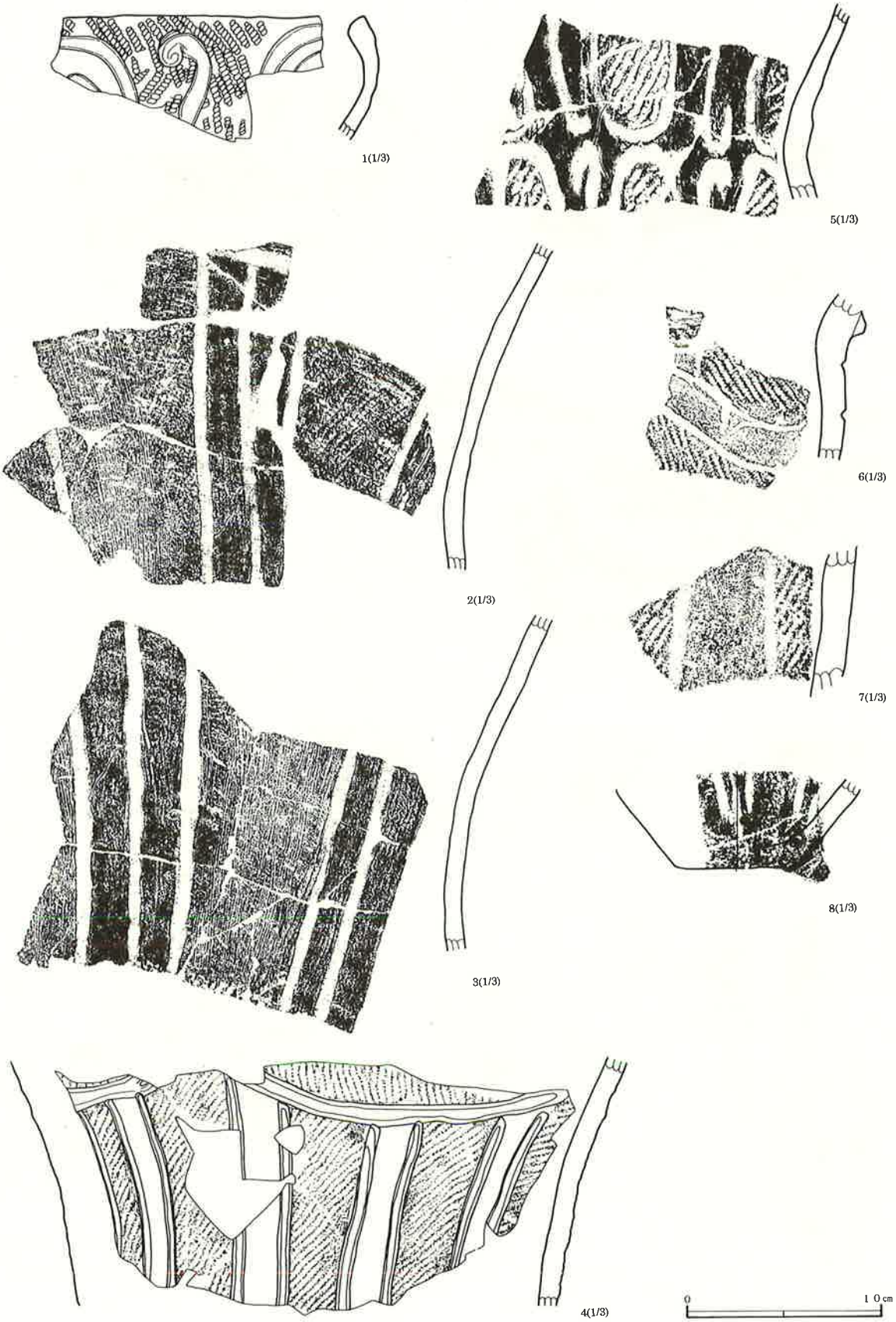
第11図　第３・21・４号住居址②（S＝１/60）



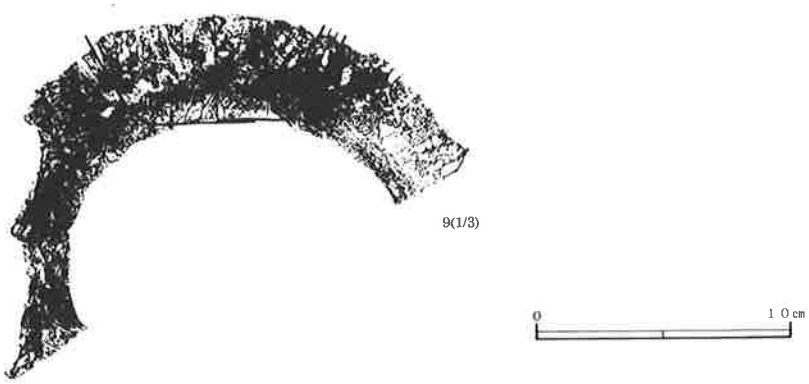
第12図　第４号住居址炉址（S＝１/20）



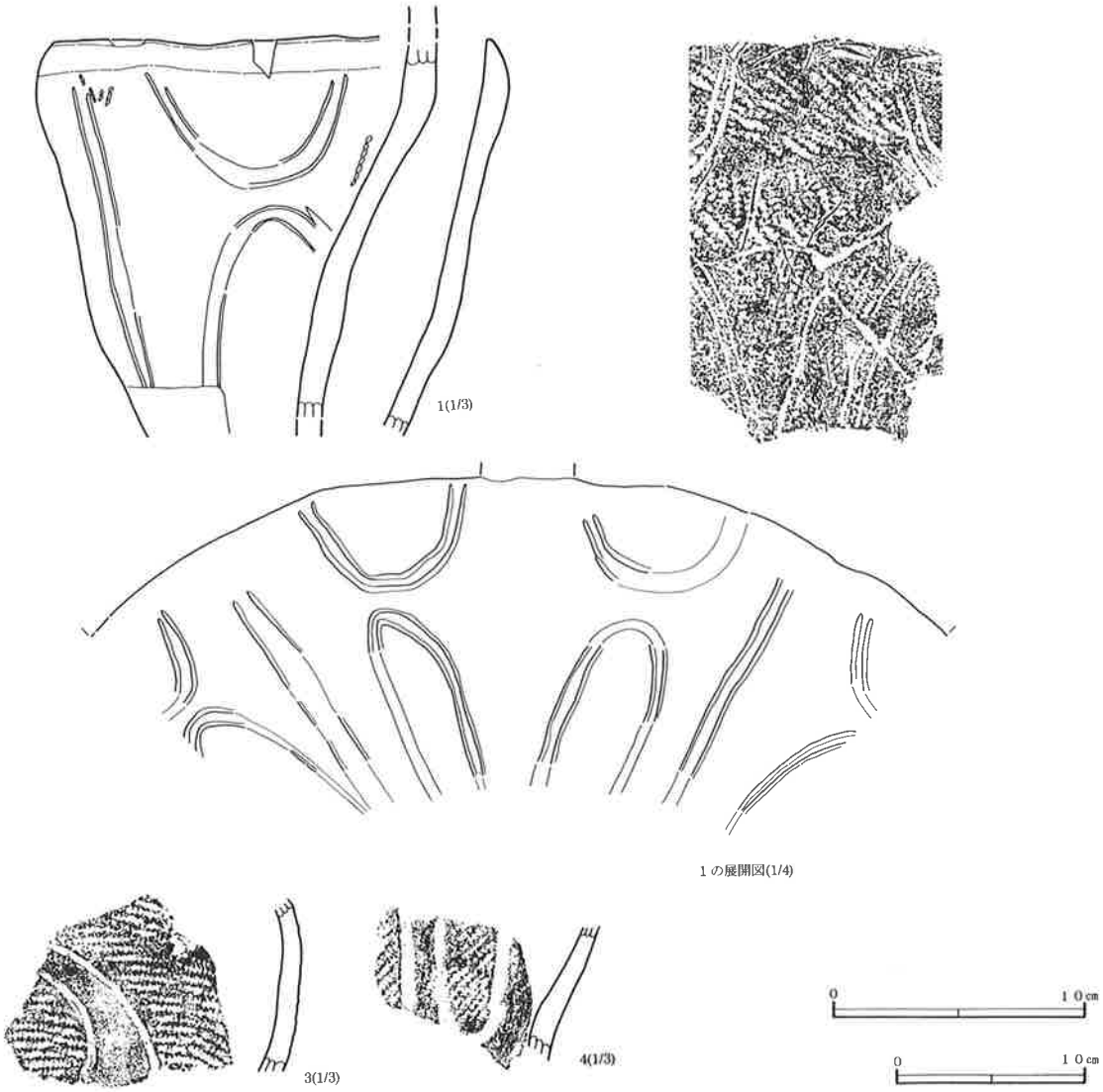
第13図　第３号住居址出土遺物（Ｓ＝１／３）



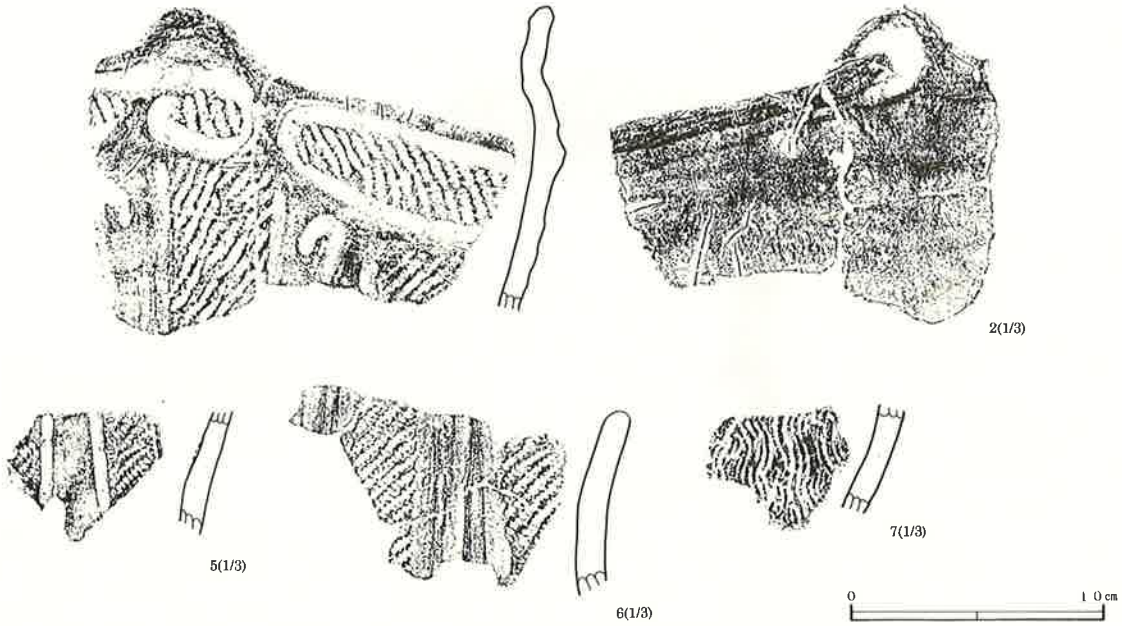
第14図　第21号住居址出土遺物①（S＝1／3）



第15図　第21号住居址出土遺物②（S＝1／3）



第16図　第4号住居址出土遺物①（S＝1／3・1／4）



第17図　第４号住居址出土遺物②（Ｓ＝１／３）

第３号住居址出土土器観察表（第13図）

番号	部 位	胎　土	色　調	焼成	器形・文様の特徴	備　　考
1	口縁部	中粒の砂	浅黄橙色	良好	口唇部に突起を持つ。沈線により渦巻文および区画文を施す。RL 縄文を施文。突起部内面には沈線により円形文が施される。	
2	口縁部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	口唇部に突起を持つ。口縁部は沈線により楕円形等に区画。胴部は沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
3	口縁部	細粒の砂	橙色	普通	隆線と沈線により楕円形に区画。口唇部まで RL 縄文を施文。	
4	口縁部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により楕円形に区画。RL 縄文を施文。	
5	口縁部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	RL 縄文施文後沈線により文様を施す。	
6	胴部	中粒の砂	浅黄橙色	良好	沈線により横位区画し、以下沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
7	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
8	胴部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	沈線により∪字状に区画。RL 縄文を施文後沈線による蛇行懸垂文を施す。	
9	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	沈線を巡らせ横位区画し、以下は沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	

第21号住居址出土土器観察表（第14・15図）

番号	部 位	胎　土	色　調	焼成	器形・文様の特徴	備　　考
1	口縁部	細粒の砂	赤色	良好	RL 縄文を施文後沈線により曲線文・蕨手状懸垂文を施す。	
2	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により縦位区画。縦位の条線および RL 縄文を施す。磨消部に１条の沈線を垂下させる。	３と同一個体
3	〃	〃	〃	〃	〃	２と同一個体
4	胴部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	上部は沈線により弧状に区画。以下沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	

5	胴部	中粒の砂	橙色	良好	沈線によりU・∩字状に区画。区画間には蕨手状懸垂文を施す。RL 縄文充塡施文。	
6	胴部	細粒の砂	橙色	良好	隆線および沈線により文様を施す。RL 縄文を施文。	
7	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	沈線により縦位区画。縄文を施文。	
8	底部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により縦位区画。	底径(5.8)cm
9	底部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により縦位区画。縄文を施文。	底径6.2cm

第 4 号住居址出土土器観察表（第16・17図）

番号	部 位	胎 土	色 調	焼成	器形・文様の特徴	備 考
1	口縁部～胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	胴部中位から緩やかに外傾し、直線的に開く。底部欠損。口唇部に１単位の突起を持つと考えられる。胴部上半に RL 縄文施文後２条対の沈線により３単位に縦位区画。突起部直下では沈線が省略される。区画内に２条対の沈線によりU・∩字状文を施す。	口径15.2cm
2	口縁部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	口唇部に突起を持つ。口縁部は沈線により円形・楕円形に区画。胴部は沈線により縦位区画し、磨消部に蕨手状懸垂文を施す。RL 縄文を施文。突起部内面には沈線により円形文を施す。	
3	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により曲線文を施す。LR 縄文を施文。	
4	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	沈線によりU字状に区画し、区画内に縄文を施文。	
5	胴部	細粒の砂	橙色	良好	沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
6	胴部	細粒の砂	橙色	良好	沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。磨消部に１条の沈線を垂下させる。	
7	胴部	中粒の砂	橙色	良好	波状の条線を縦位に施す。	

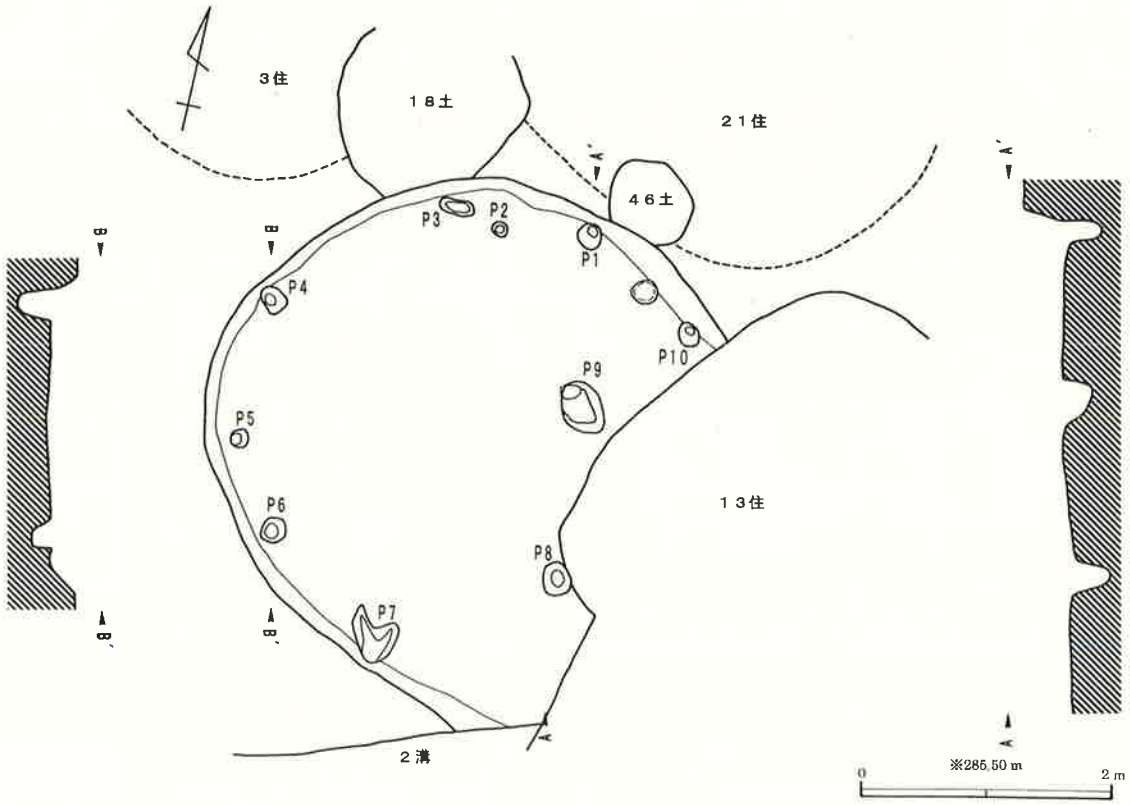
第 5 号住居址（第18図）

位　置―27－28・29グリッド　**規模・形状**―第13号住居址と重複する東側を除き、8.3～28.3cmの掘り込みが検出された。径4.0mの円形プランと推定される。 **柱　穴**―Ｐ１～Ｐ10の10本が検出された。Ｐ８・Ｐ９を除き壁面を巡るように配置される。 **炉**―検出されなかった。 **重　複**―第13号住居址・第２号溝・第18・46号土坑と重複する。

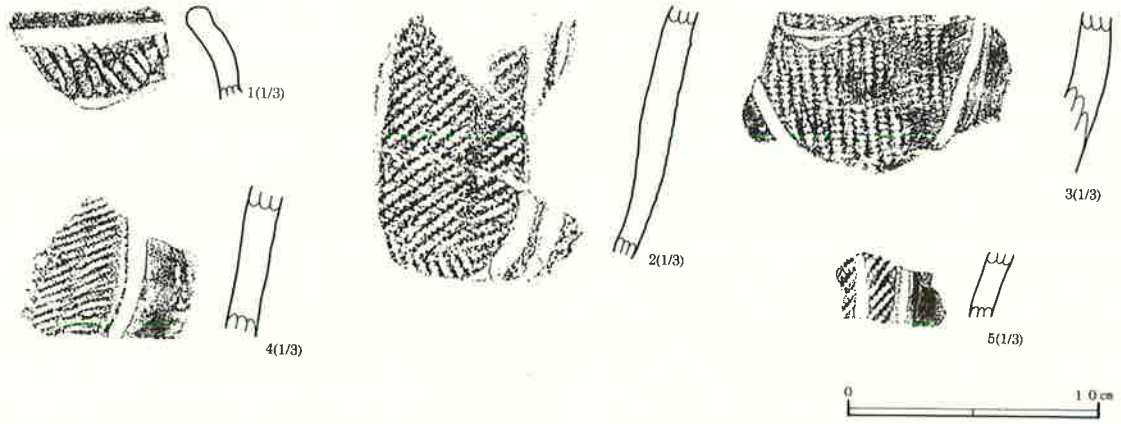
Pit 番号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５	Ｐ６	Ｐ７	Ｐ８	Ｐ９	Ｐ10
深さ(cm)	36.3	27.4	22.8	32.3	26.4	15.1	17.0	26.6	35.9	27.6

第 5 号住居址出土土器観察表（第19図）

番号	部 位	胎 土	色 調	焼成	器形・文様の特徴	備 考
1	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部に沈線を巡らせ幅の狭い無文帯をつくる。以下沈線により文様を施す。RL縄文を施文。	
2	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	２条対の沈線によりU字状に区画。RL 縄文を施文。	
3	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により文様を施す。RL 縄文を施文。	
4	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により文様を施す。RL 縄文を施文。	
5	胴部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	沈線により縦位区画。RL 縄文施文後、縄文施文部に１条の沈線を垂下させる。	



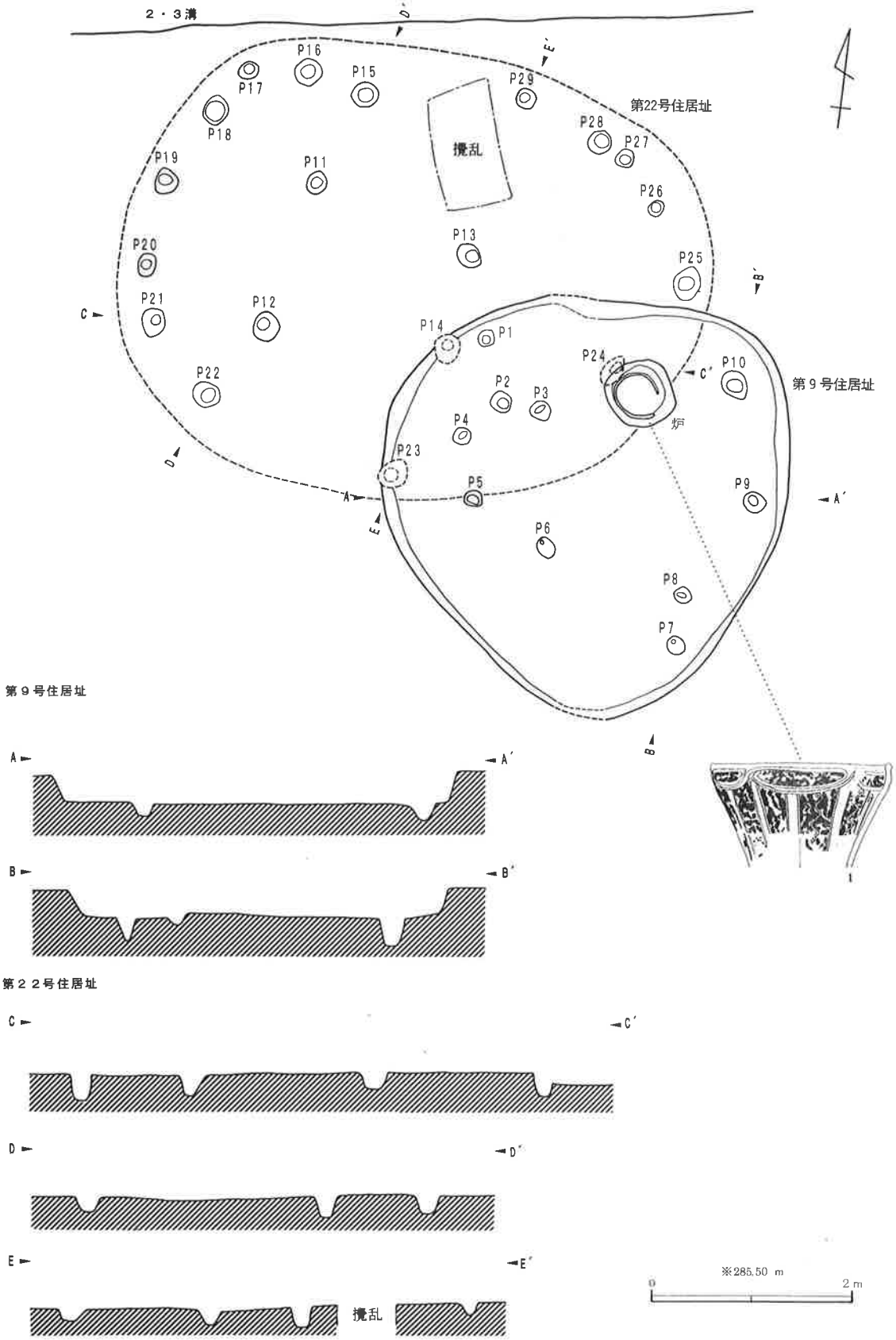
第18図　第５号住居址（Ｓ＝１/60）



第19図　第５号住居址出土遺物（Ｓ＝１/３）

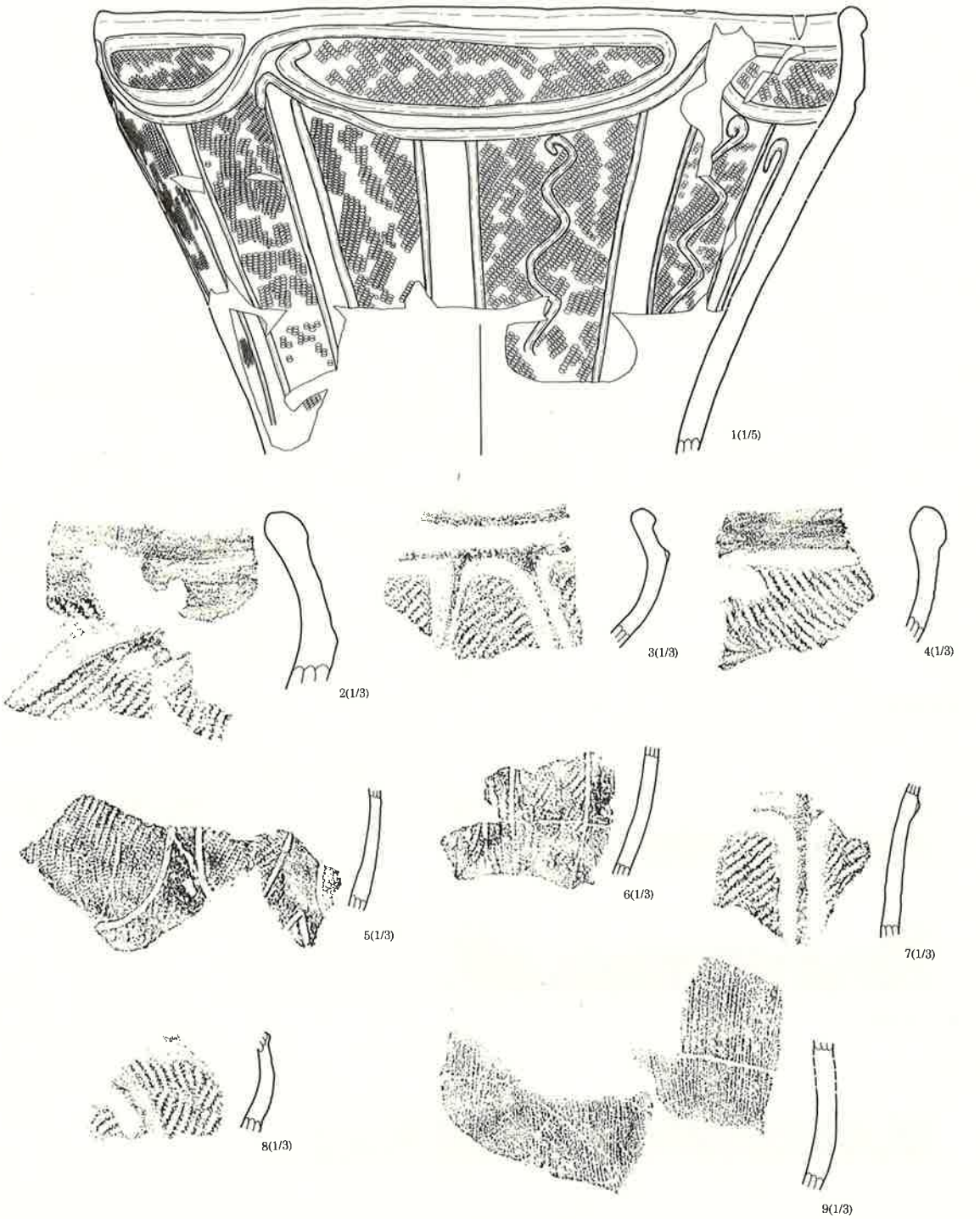
第９号住居址（第20図）

位　置―25・26―28グリッド　**規模・形状**―長軸4.2m・短軸4.0m・深さ22.7～32cmの掘り込みを持ち、南に若干張り出しを持つ不整円形プランを呈する。 **柱　穴**―Ｐ１～Ｐ10の10本が検出されたが、柱穴配置に規則性はみられない。 **炉**―住居址北側やや東寄りで検出された。長軸70cm・短軸70cm・深さ22cmの隅丸方形に近い円形を呈する。中央に胴部下半を欠いた大型の深鉢（第21図１）が逆位に据

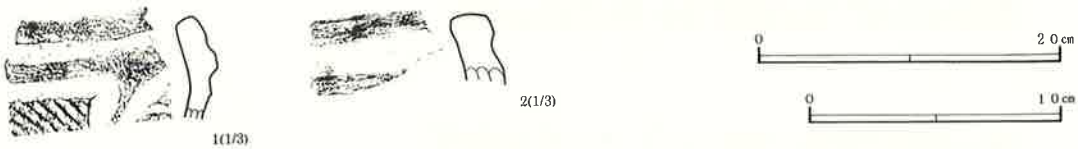


第20図　第９・22号住居址（S＝1/60）

第９号住居址



第２２号住居址



第21図　第９・22号住居址出土遺物（S＝1/3・1/5）

えられていた。 **重　複**—第22号住居址と重複する。

Pit番号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10
深さ(cm)	10.0	9.0	14.0	22.5	13.0	10.8	22.0	9.5	16.5	10.0

第22号住居址（第20図）

位　置—25—28グリッド　**規模・形状**—掘り込みは検出されなかったが、柱穴配置より長軸5.8m・短軸4.5mを測り、楕円形プランを呈する大型の住居址と推定される。 **柱　穴**—推定プラン内よりＰ１～Ｐ４、Ｐ11～Ｐ29の23本が検出された。このうちＰ３・Ｐ４・Ｐ15～Ｐ29は壁周辺を巡るものと考えられる。 **炉**—検出されなかった。 **重　複**—第９号住居址と重複する。

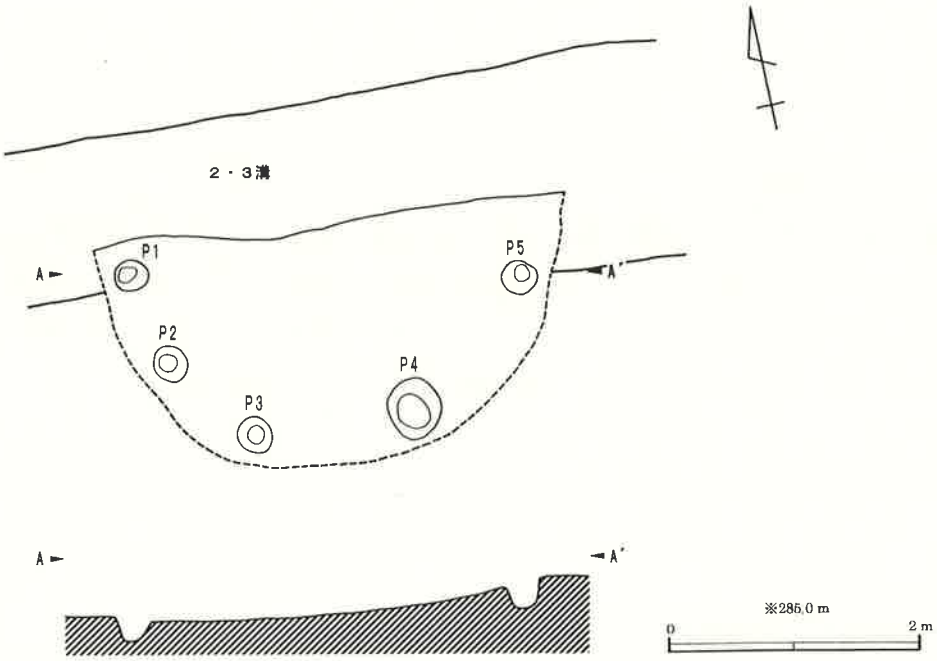
Pit番号	P 1	P 2	P 3	P 4	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18
深さ(cm)	10.0	9.0	14.0	22.5	22.0	21.0	19.0	15.0	19.0	11.0	20.0	20.5
	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	
	20.5	15.5	26.5	14.0	12.0	24.0	20.5	19.5	10.3	16.0	13.0	

第９号住居址出土土器観察表（第21図）

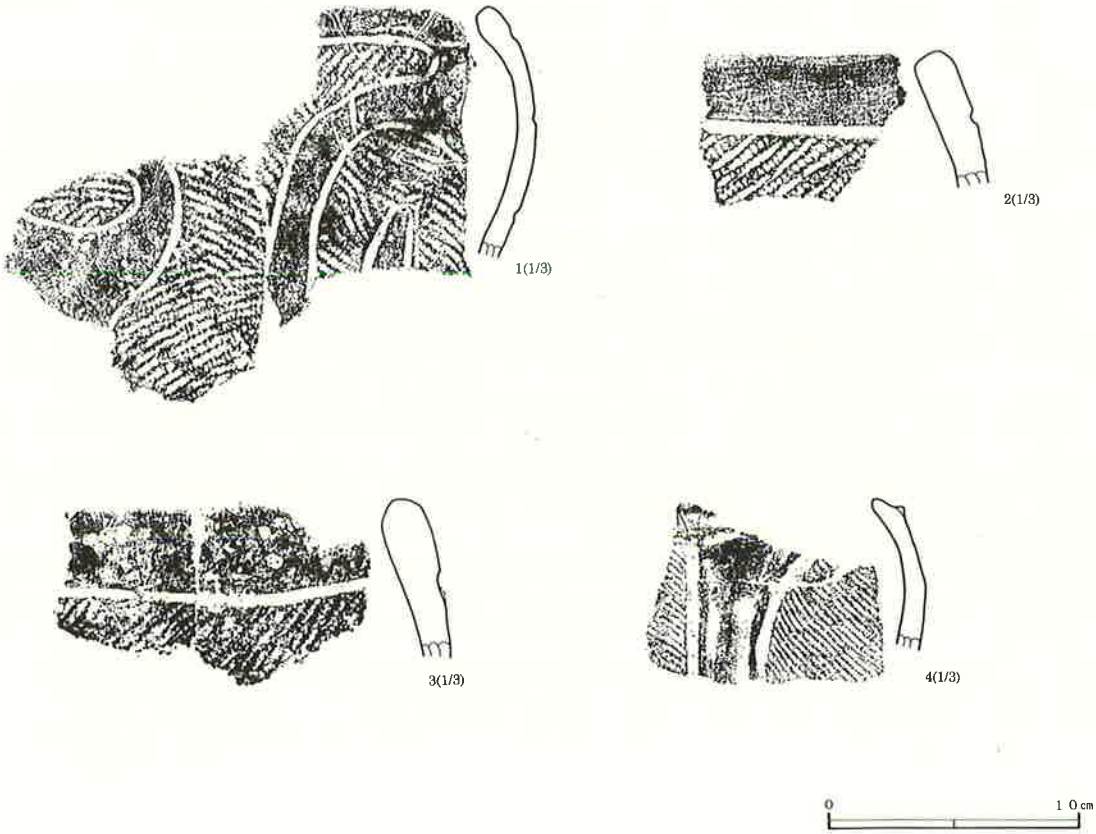
番号	部 位	胎　土	色　調	焼成	器形・文様の特徴	備　　考
1	口縁部～胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部は若干内湾する。胴部下半を欠損。口縁部は隆線と沈線により楕円形に区画。胴部は沈線を垂下させて縦位区画。RL 縄文を施文。磨消部と縄文施文部を交互に持つ。磨消部の一部には蕨手状懸垂文を、縄文施文部の一部には蛇行懸垂文を施文。	口径58.7cm
2	口縁部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	隆線と沈線により文様を施す。RL 縄文施文。	
3	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部は沈線を伴う隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下沈線を伴う隆線により文様を施す。RL 縄文を施文。	
4	口縁部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	口縁部に沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下は RL 縄文(０段多縄)を施文。	
5	胴部	細粒の砂	鈍い褐色	良好	沈線により∪・∧字状に区画。RL 縄文を施文。	
6	胴部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
7	胴部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	隆線により縦位および横位に区画。RL 縄文を施文。	
8	胴部	細粒の砂	橙色	良好	隆線により文様を施す。RL(？)縄文を施文。	
9	胴部	中粒の砂	浅黄橙色	良好	条線を縦位に施す。	

第22号住居址出土土器観察表（第21図）

番号	部 位	胎　土	色　調	焼成	器形・文様の特徴	備　　考
1	口縁部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	隆線および沈線により文様を施す。RL 縄文を施文。	
2	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部に沈線を巡らせる。	



第22図　第10号住居址（S＝1/60）



第23図　第10号住居址出土遺物（S＝1/3）

第10号住居址（第22図）

位　置―24―28グリッド　**規模・形状**―掘り込みは検出されなかったが、柱穴配置より住居址と認定した。北半が検出されていないため規模は不明だが、円形ないし楕円形プランと推定される。 **柱　穴**―推定プラン内よりＰ１～Ｐ５の５本が検出された。壁周辺を巡るものと考えられる。 **炉**―検出されなかった。 **重　複**―第２・３号溝と重複する。

Pit番号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５
深さ(cm)	17.5	8.0	17.0	36.5	22.0

第10号住居址出土土器観察表（第23図）

番号	部 位	胎　土	色　調	焼成	器形・文様の特徴	備　　考
1	口縁部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線によりＪ字状等に区画。RL 縄文を施文。	
2	口縁部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下は LR 縄文を施文。	
3	口縁部	中粒の砂	橙色	普通	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下は LR(？)縄文を施文。	
4	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部は隆線を巡らせ幅の狭い無文帯をつくる。以下沈線を伴う隆線により文様を施す。細かい LR 縄文を施文。	

第11号住居址Ａ（第24図）

位　置―26―26・27グリッド　**規模・形状**―掘り込みは検出されなかったが、柱穴配置より長軸4.3ｍ・短軸4.1ｍの円形プランと推定される。 **柱　穴**―推定プラン内よりＰ１～Ｐ10・Ｐ24の11本が検出された。Ｐ１～Ｐ４の４本が主柱穴と考えられる。 **炉**―住居址中央やや南寄りで検出された。長軸85cm・短軸60cm・深さ18cmの楕円形を呈す地床炉である。 **埋　甕**―住居址南側の地点で検出された。長軸90cm・短軸50cm・深さ55cmで∩字形を呈し、中央に深鉢（第25図１）が埋設されていた。 **重　複**―第11号住居址Ｂ・第48号土坑と重複する。

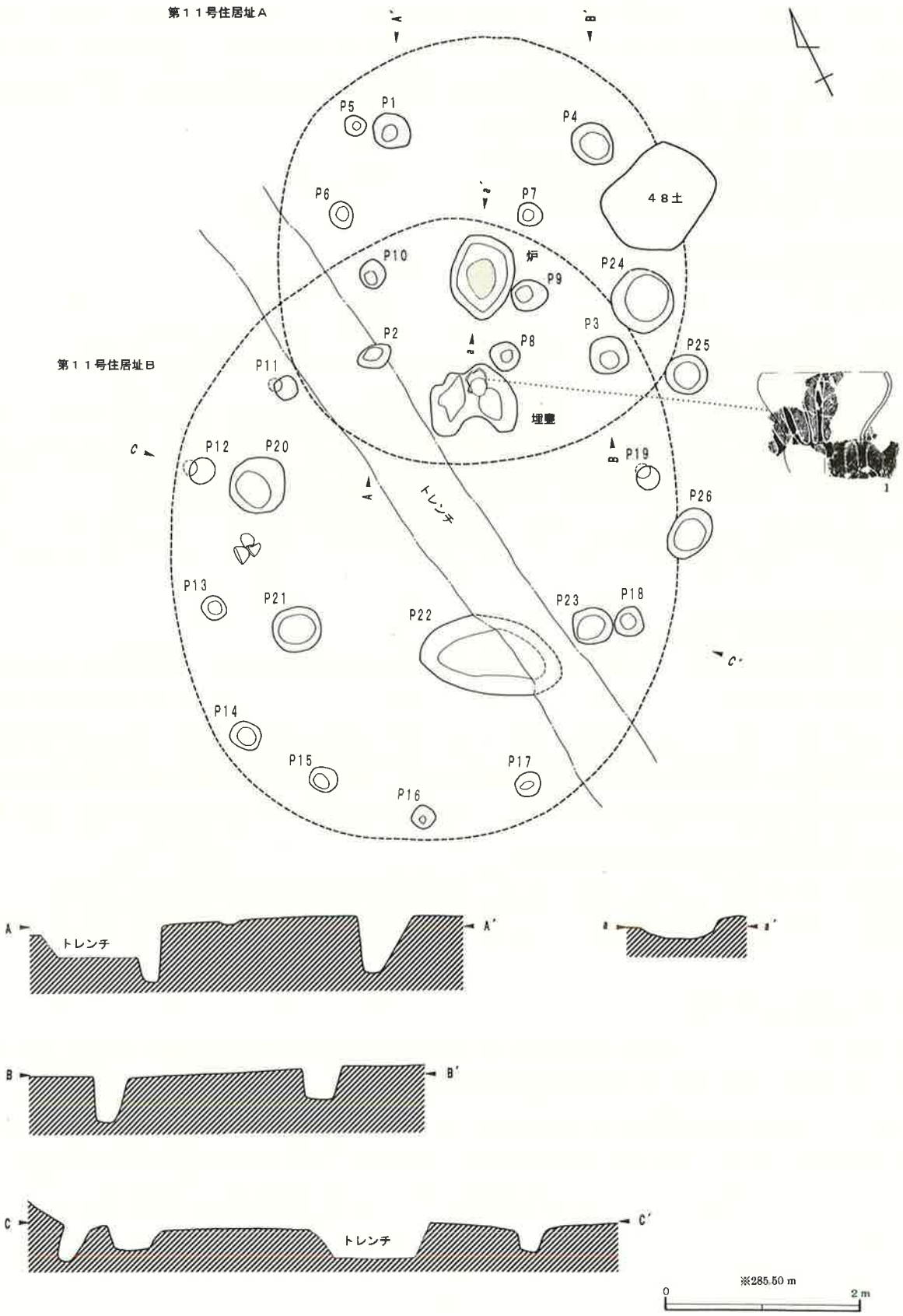
Pit番号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５	Ｐ６	Ｐ７	Ｐ８	Ｐ９	Ｐ10	Ｐ24
深さ(cm)	59.0	38.0	47.5	32.5	23.0	38.0	15.5	27.0	22.0	23.5	52.0

第11号住居址Ｂ（第24図）

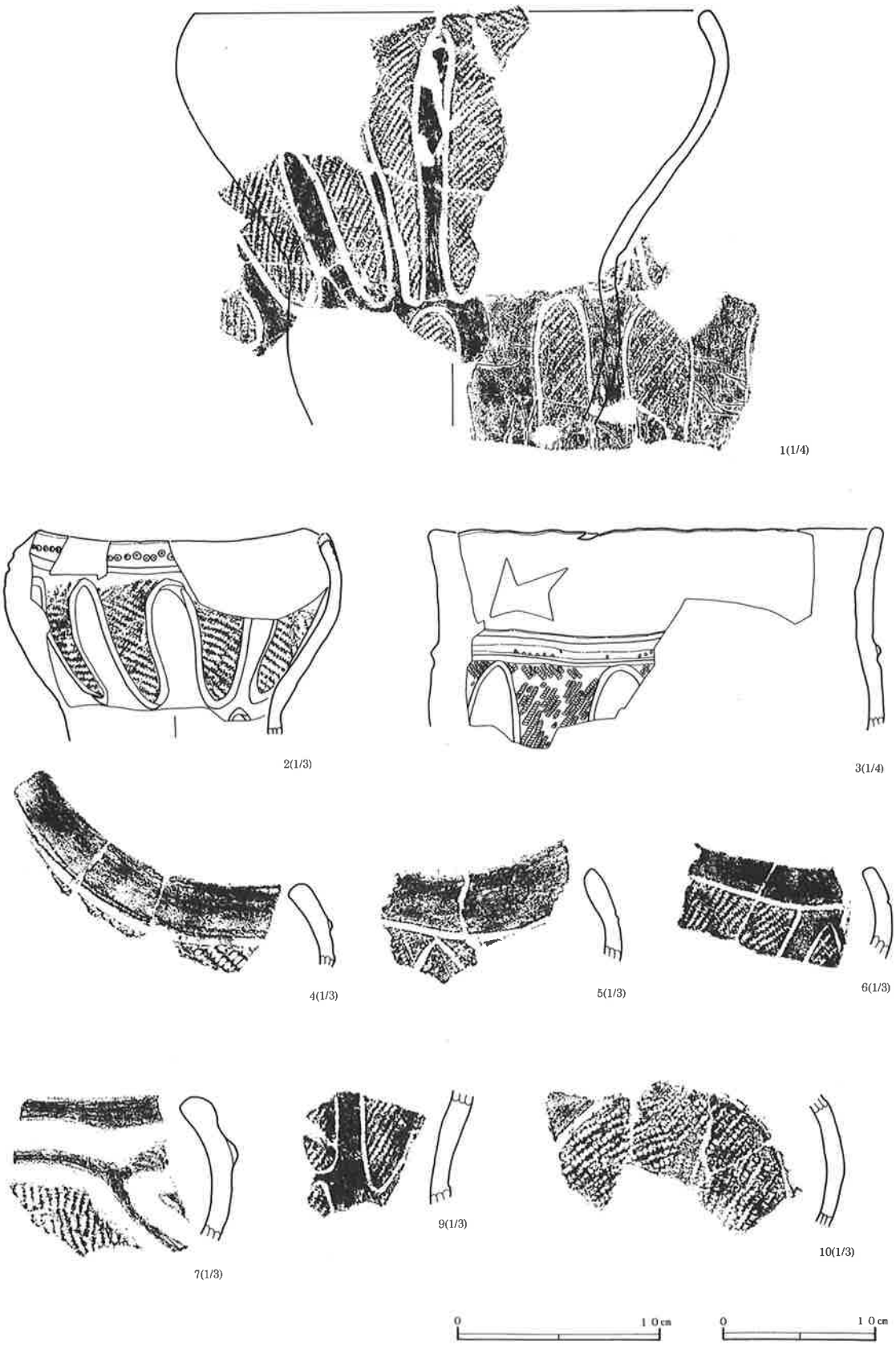
位　置―26―27グリッド　**規模・形状**―掘り込みは検出されなかったが、柱穴配置より長軸6.3ｍ・短軸5.3ｍを測り、円形プランを呈する大型の住居址と推定される。 **柱　穴**―推定プラン内よりＰ２・Ｐ３・Ｐ８～Ｐ23の18本が検出された。このうちＰ３・Ｐ９～Ｐ19は壁周辺を巡るものと考えられる。 **炉**―検出されなかった。 **重　複**―第11号住居址Ａと重複する。 **備　考**―本住居址東側から南側にかけて多くのピットが検出されている（第80図参照）。そのため複数軒の住居址の重複も想定される。

Pit番号	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ８	Ｐ９	Ｐ10	Ｐ11	Ｐ12	Ｐ13	Ｐ14	Ｐ15	Ｐ16	Ｐ17
深さ(cm)	38.0	47.5	27.0	22.0	23.5	25.0	34.0	40.5	23.0	15.5	32.0	34.5

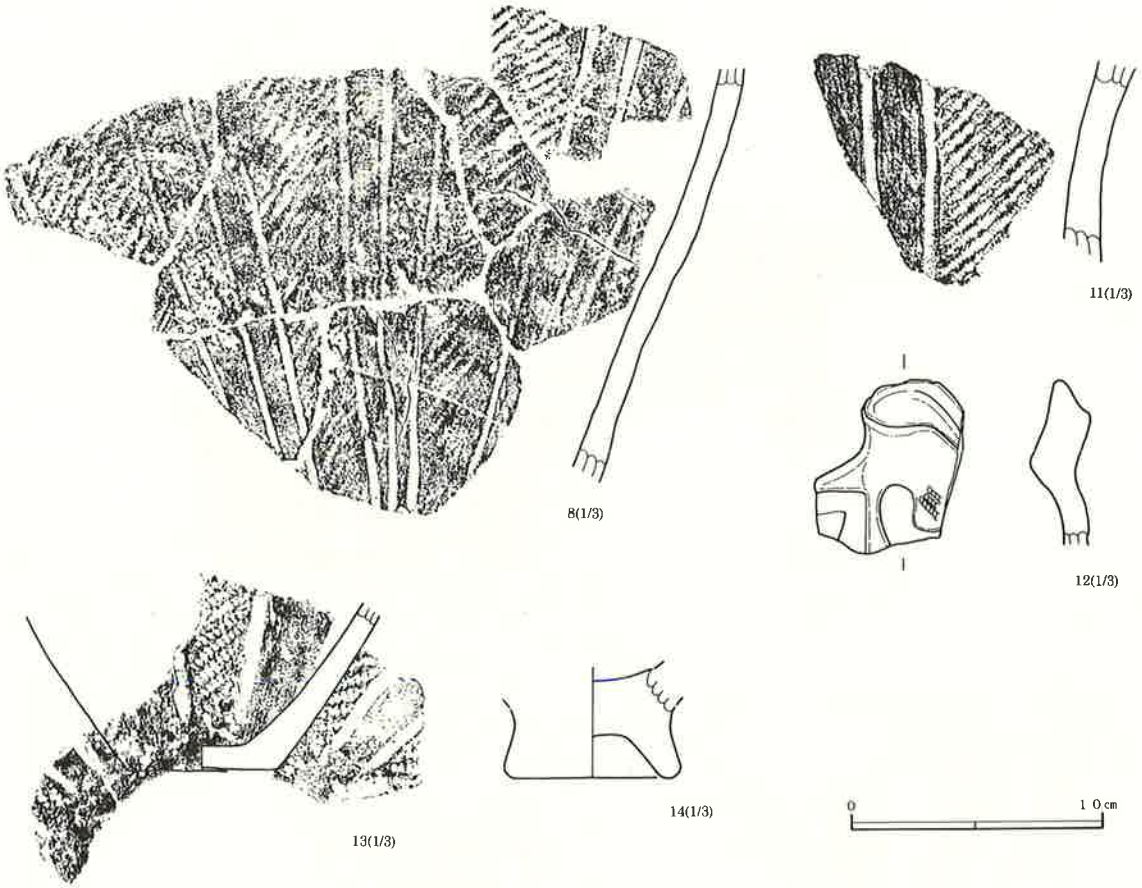
	Ｐ18	Ｐ19	Ｐ20	Ｐ21	Ｐ22	Ｐ23
	21.5	29.0	23.0	27.0	28.0	24.5



第24図　第11号住居址Ａ・Ｂ（Ｓ＝１/60）



第25図　第11号住居址A・B出土遺物①（S＝1/3・1/4）



第26図　第11号住居址A・B出土遺物②（S＝1/3）

第11号住居址A・B出土土器観察表（第25・26図）

番号	部 位	胎 土	色 調	焼成	器形・文様の特徴	備 考
1	口縁部～胴部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	口縁部は内湾し、胴部中位で強くくびれる。口縁部～胴部上半には沈線により波状に区画。胴部下半には沈線により∩字状に区画。RL 縄文を施文。	口径(33.6)cm
2	口縁部～胴部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	口縁部は内湾し、胴部中位にくびれを持つ。4単位の波状口縁を呈すとみられる。口縁部に沿って沈線を巡らせ区画し、区画内に1段の刺突文を施す。胴部上半は沈線により波状に区画。胴部下半は沈線により∩字状に区画。LR 縄文を施文。	口径(14.4)cm
3	口縁部～胴部	細粒の砂	灰白色	良好	口縁部はほぼ直立し、胴部に若干膨らみを持つ。口縁部は両脇に沈線を伴う隆線を巡らせ幅広の無文帯をつくる。胴部は沈線により∩字状に区画。RL 縄文を施文。	口径28.8cm
4	口縁部	細粒の砂	橙色	良好	口縁部は沈線を伴う隆線により無文帯をつくる。以下は RL 縄文を施文。	
5	口縁部	細粒の砂	橙色	良好	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下は沈線により∧字状に区画。LR(？)縄文を施文。	
6	口縁部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下は2条対の沈線により∧字状に区画。RL 縄文を施文。	

7	口縁部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部は沈線および隆線により文様を施す。RL縄文を施文。	
8	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	沈線により縦位区画。RL縄文を施文し、磨消部と縄文施文部を交互に持つ。磨消部には1条の沈線が垂下する。	
9	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	沈線により∪・∩字状に区画。RL縄文を施文。	
10	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により文様を施す。RL縄文を施文。	
11	胴部	中粒の砂	橙色	良好	沈線により縦位区画。LR縄文(0段多縄?)を施文。磨消部に沈線を垂下させる。	
12	突起	細粒の砂	浅黄橙色	普通	口縁部は沈線により文様を施す。RL(?)縄文を施文。	
13	底部	中粒の砂	橙色	良好	沈線により縦位区画。RL縄文を施文。	底径5.8cm
14	底部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	台付深鉢の脚部。	底径(6.2)cm

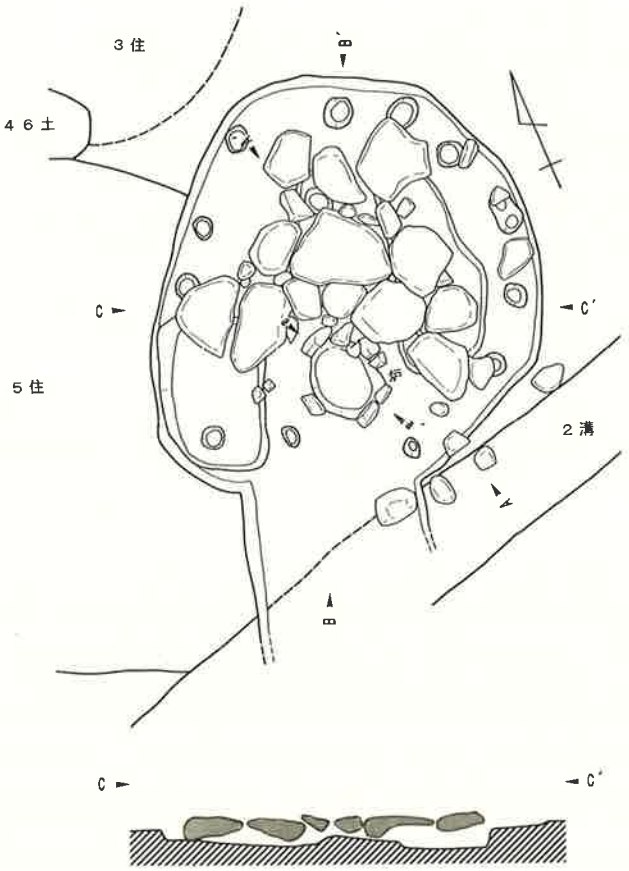
第13号住居址（第27図）

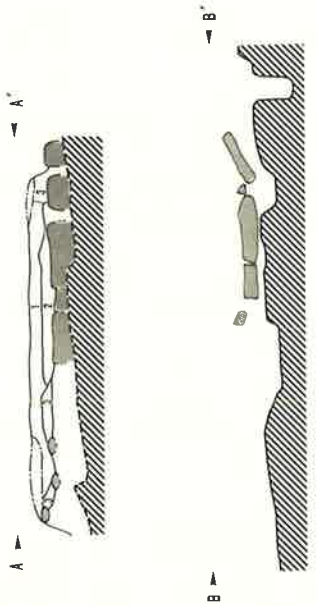
位　置—27—28・29グリッド　**規模・形状**—南北方向に長軸を持つ柄鏡形敷石住居である。張出部の先端を第2号溝に切られているため不明だが、現状で全長4.4mを測る。主体部の規模は長軸3.4m・短軸3.1m・深さ2～24cmを測り、円形を呈する。張出部の規模は短軸1.5m・深さ11cm前後を測る。 **敷石状況**—炉以北の主体部中央を中心に敷石が施される。大型～中型の石を中心に配し、間隙に小型の石を詰める。接続部から張出部にはあまり敷石は認められない。 **柱　穴**—堀り方より土坑状のものを含めＰ１～Ｐ21の21本が検出された。このうちＰ１～Ｐ14は壁周辺を巡る。張出部ではピットは検出されなかった。 **炉**—住居址中央やや南寄りで検出された。長軸60cm・短軸50cm・深さ12.5cmの楕円形を呈する石囲炉である。炉石は北辺・東辺を中心にまばらに配される。 **埋　甕**—検出されなかった。 **重　複**—第5号住居址・第2号溝と重複している。

Pit番号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５	Ｐ６	Ｐ７	Ｐ８	Ｐ９	Ｐ10	Ｐ11	Ｐ12
深さ(cm)	36.5	36.0	27.5	30.0	18.5	34.5	26.0	20.5	16.0	22.5	29.0	18.5
	Ｐ13	Ｐ14	Ｐ15	Ｐ16	Ｐ17	Ｐ18	Ｐ19	Ｐ20	Ｐ21			
	17.5	29.0	15.5	15.0	19.0	35.0	26.0	30.0	31.0			

第13号住居址出土土器観察表（第28・29図）

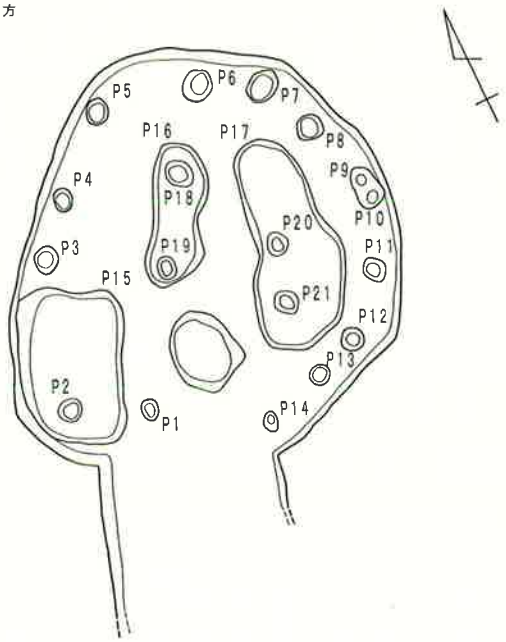
番号	部位	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	備考
1	口縁部	細粒の砂	黄橙色	良好	4単位の波状口縁を呈すと考えられる。波頂部は肥厚するが、うち1～2単位には環状の突起を付す。口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は沈線により曲線文等を施す。RL縄文を施文。	2・3・4と同一個体
2	〃	〃	〃	〃	〃	1・3・4と同一個体
3	〃	〃	〃	〃	〃	1・2・4と同一個体
4	〃	〃	〃	〃	〃	1・2・3と同一個体
5	口縁部	中粒の砂	橙色	普通	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下はRL(?)縄文を施文。	



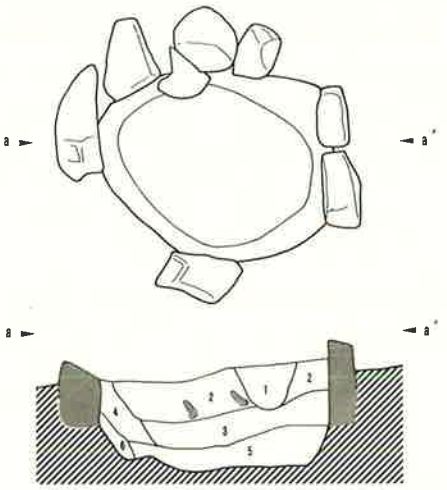


土層説明（A・A'）
1　暗褐色土　：しまりなし。部分的に黒褐色土・暗茶褐色土混じる（撹乱？）。
2　暗褐色土　：色調暗い。しまりあり。
3　暗茶褐色土：砂質。若干しまりあり。

掘り方



炉址

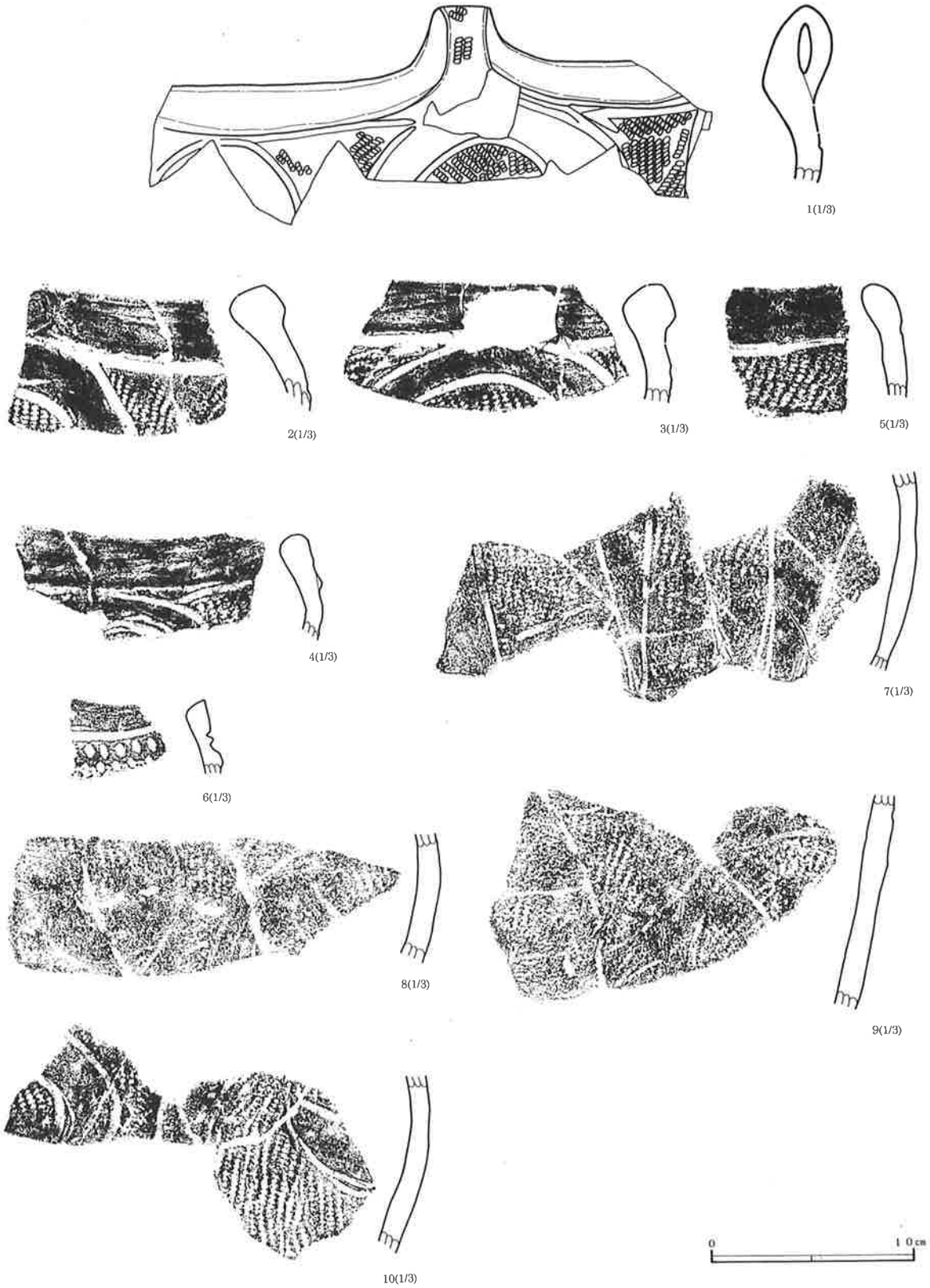


土層説明（a・a'）
1　褐色土　　：しまりあり。ロームブロック・炭化物混じる。
2　褐色砂質土：しまりなし。
3　褐色砂質土：焼土混じる。
4　褐色土　　：若干しまりあり。ロームブロック混じる。
5　焼土
6　褐色土　　：ハードローム中心。若干褐色土混じる。

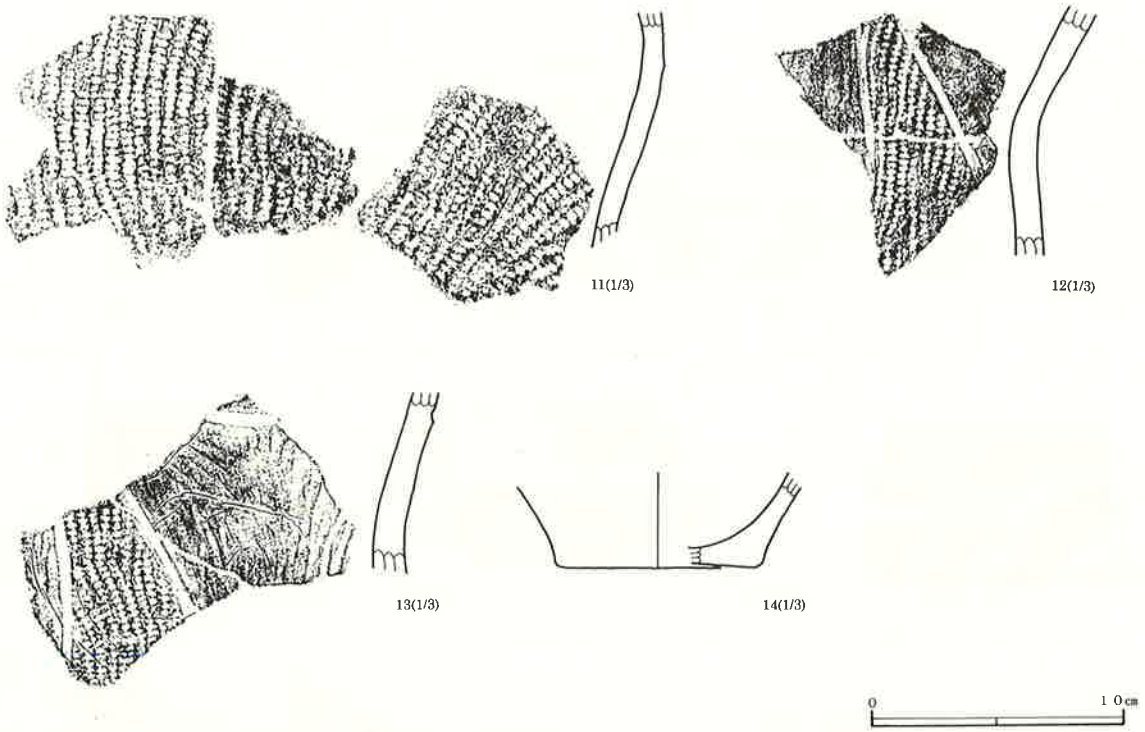
0　※285.40 m　2 m

0　※285.20 m　50 cm

第27図　第13号住居址・同炉址（S＝1/60・1/20）



第28図　第13号住居址出土遺物①（S＝1／3）



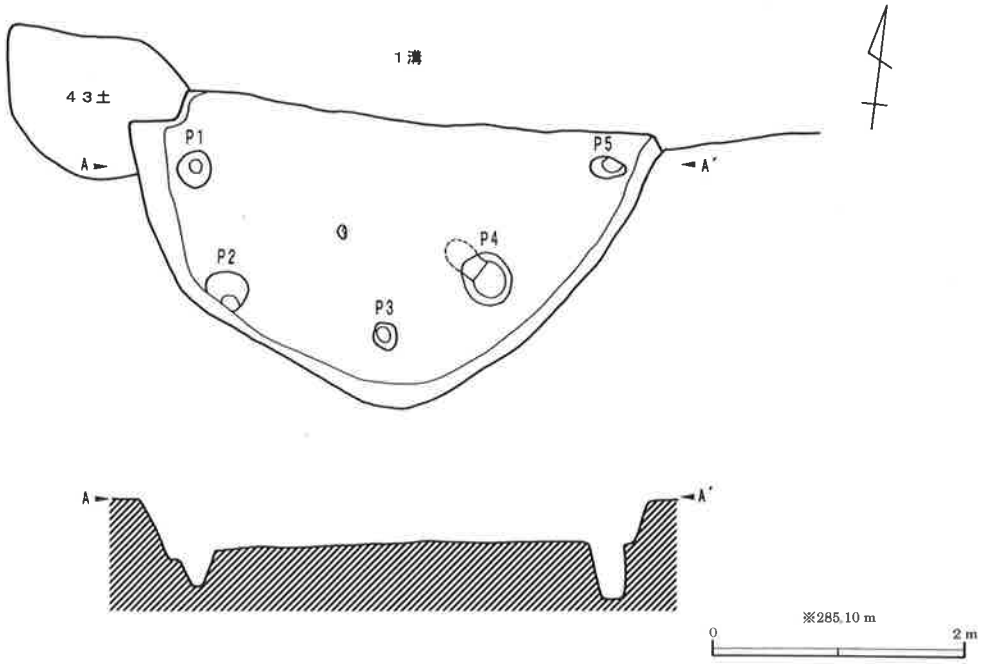
第29図　第13号住居址出土遺物②（S＝1／3）

6	口縁部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	波状口縁部破片。口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下は2段の刺突文を施す。	
7	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	不良	沈線により波状(？)に区画。RL縄文を施文。器面の磨滅著しい。	
8	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	沈線により曲線文等を施す。RL縄文を施文。器面の磨滅著しい。	9と同一個体
9	〃	〃	〃	〃	〃	8と同一個体
10	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	沈線により曲線文等を施す。RL縄文を施文。	
11	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	全面にRL縄文を施文。	
12	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により八字状等に区画。RL縄文を施文。	13と同一個体
13	〃	〃	〃	〃	〃	12と同一個体
14	底部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	無文。	底径7.9cm

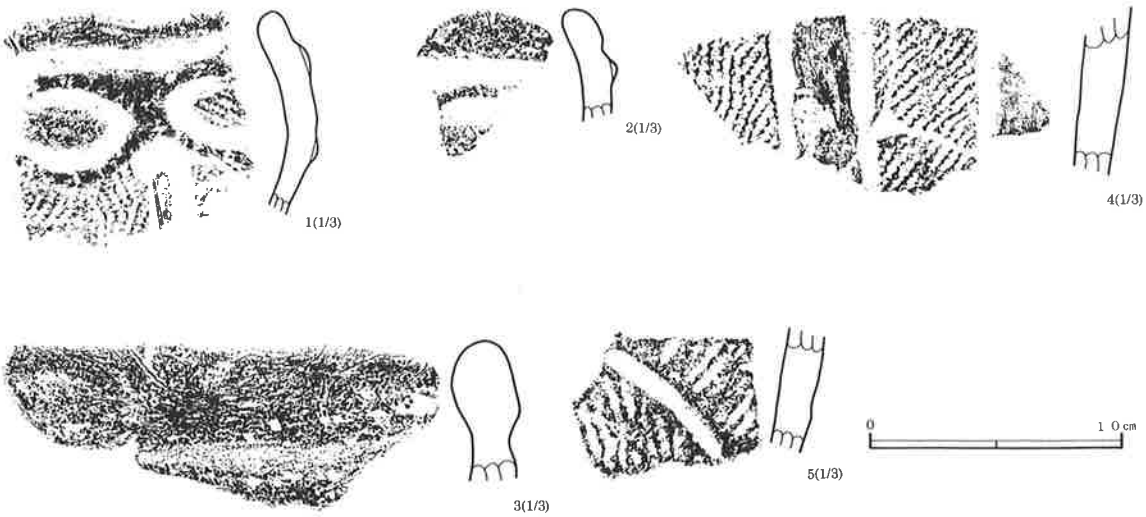
第17号住居址（第30図）

位　置—25—30グリッド　**規模・形状**—北半を第1号溝に切られ不明だが、円形ないし楕円形プランと推定される。27.5～35cmのしっかりとした掘り込みを持つ。**柱　穴**—P1～P5の5本が検出され、壁周辺を巡る。**炉**—検出されなかった。**重　複**—第1号溝・第43号土坑と重複する。また第1号溝をはさんで第18号住居址と一部重複すると考えられる。

Pit番号	P1	P2	P3	P4	P5
深さ(cm)	26.0	38.0	42.5	56.0	44.5



第30図　第17号住居址（S＝1/60）



第31図　第17号住居址出土遺物（S＝1/3）

第17号住居址出土土器観察表（第31図）

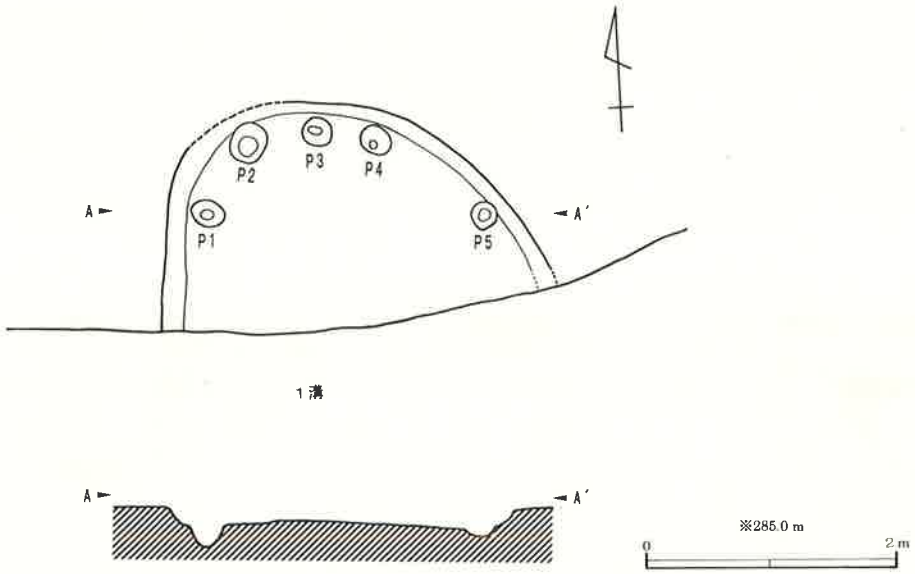
番号	部 位	胎 土	色 調	焼成	器形・文様の特徴	備 考
1	口縁部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	ゆるやかな波状を呈する口縁部破片。隆線と沈線により楕円形に区画。胴部は蕨手状懸垂文を施す。RL(？)縄文を施文。	

2	口縁部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	波状口縁部破片。隆線と沈線により文様を施す。	
3	口縁部	細粒の砂	鈍い橙色	普通	口縁部は沈線を伴う隆線を巡らせ無文帯をつくる。	
4	胴部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	沈線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
5	胴部	細粒の砂	橙色	普通	沈線により曲線文を施す。RL 縄文を施文。	

第18号住居址（第32図）

位　置―24・25―29グリッド　**規模・形状**―南半を第１号溝に切られているため不明だが、円形ないし楕円形プランと推定される。2.5～27cmの掘り込みを持つ。 **柱　穴**―Ｐ１～Ｐ５の５本が検出され、壁周辺を巡る。 **炉**―検出されなかった。 **重　複**―第１号溝と重複する。また第１号溝をはさんで第17号住居址に隣接しており、一部重複するものと考えられる。

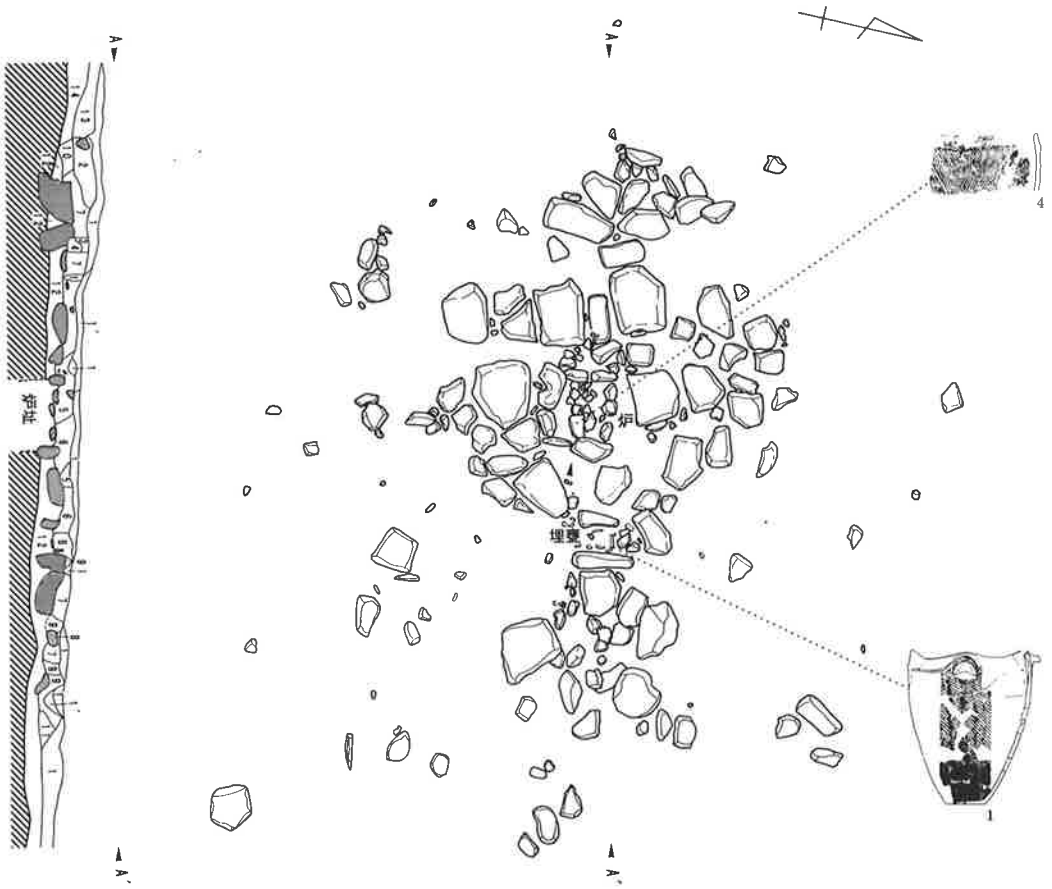
Pit 番号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５
深さ(cm)	14.5	19.5	11.0	38.5	16.5



第32図　第18号住居址（Ｓ＝１/60）

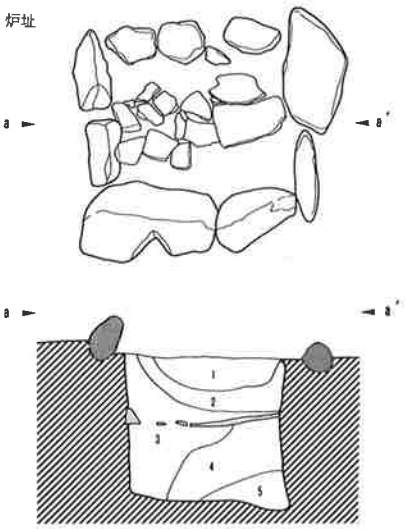
第33号住居址（第33図）

位　置―21―20グリッド　**規模・形状**―東西方向に長軸を持つ柄鏡形敷石住居であり、全長5.1mを測る。主体部の規模は長軸3.3m・短軸3.1mを測り、円形を呈す。張出部の規模は長軸1.8m・短軸1.5mを測る。 **敷石状況**―主体部・張出部ともほぼ全面にまばらに敷石が施される。主体部では炉を中心に比較的大きめの石を配す。張出部では壁周辺を中心に大きめの石を配し、内部は小さめな石を配す。 **柱　穴**―検出されなかった。 **炉**―主体部ほぼ中央で検出された。大小の石を方形に配し、80cm程の深さを持つ。炉中層より押しつぶされたような状況で土器が検出された（第34図４）。 **埋　甕**―主体部と張出部の接続部で検出された。東西辺に大きめの石を、北辺に小さめの石を配し、これらの石に囲まれた中央に深鉢が正位で据えられていた（第34図１）。 **重　複**―なし。



土層説明（A・A′）
1　黒褐色土　：若干ローム粒混じる。田の床土。
1′　黒褐色土　：しまりなし。１層＋茶褐色土。
2　暗茶褐色土：13層に類し、13層よりも軟質。ロームブロック混じる。
3　暗褐色土　：砂質。しまりなし。根穴か？
4　暗褐色土　：３層より明るい。砂質。しまりなし。根穴か？
5　暗茶褐色土：しまりあり。若干焼土粒混じる。
6　黒褐色土　：やや粘性あり。しまりあり。ローム粒・焼土粒・９層混じる。
7　茶褐色土　：色調明るい。砂質。しまりなし。若干橙色スコリア混じる。
8　暗茶褐色土：７層に類すが７層より色調暗い。砂質。しまりなし。
9　暗褐色土　：色調暗い。しまりなし。
10　暗褐色土　：14層に類し、14層より軟質。若干２層混じる。
11　暗茶褐色土：やや砂質。しまりあり。
12　茶褐色土　：７層に類し、７層よりややしまりあり。砂質。二次堆積。
13　茶褐色土　：ややしまりあり。二次堆積ソフトローム。
14　暗褐色土　：粘性・しまりあり。二次堆積ソフトローム。

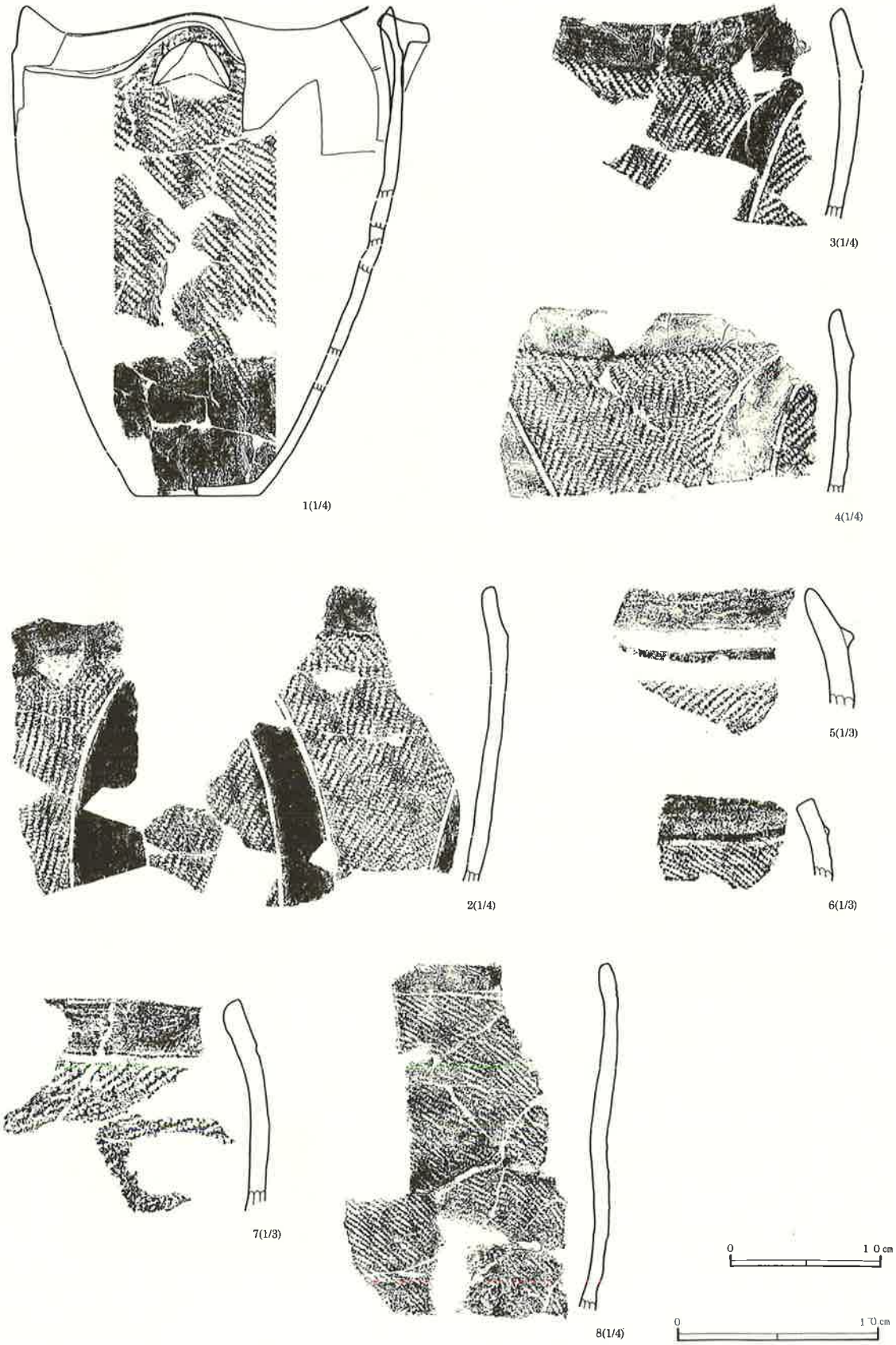
※287.50 m
0　2 m



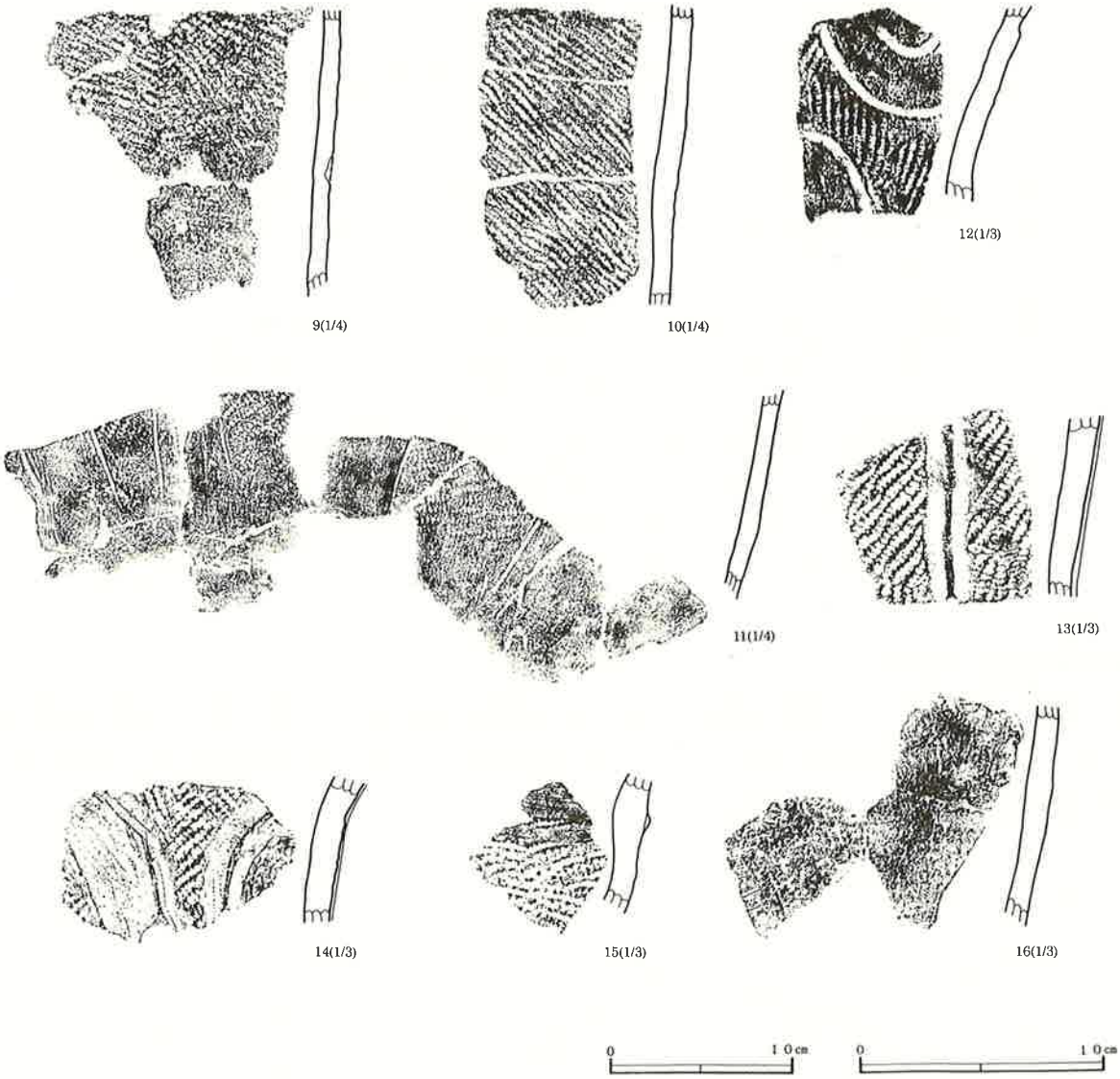
土層説明（a・a′）
1　暗褐色土＋茶褐色土：軟質。しまりなし。
2　黒褐色土：しまりなし。若干ローム粒混じる。
3　暗褐色土：１層に類す。やや粘性あり。
　　茶褐色土の割合少ない。
4　暗褐色土：色調明るい。軟質。
5　暗褐色土：しまりあり。ロームブロック混じる。

0　※287.10 m　50 cm

第33図　第33号住居址・同炉址（S＝1/60・1/20）



第34図　第33号住居址出土遺物①（S＝1／3・1／4）



第35図　第33号住居址出土遺物②（S＝1/3・1/4）

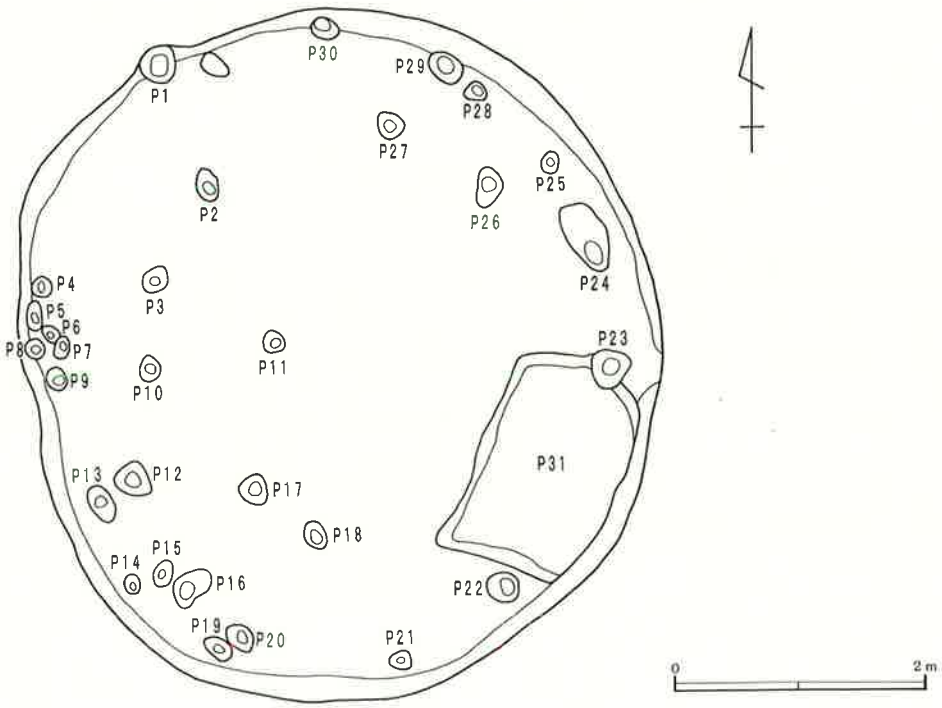
第33号住居址出土土器観察表（第34・35図）

番号	部 位	胎 土	色 調	焼成	器形・文様の特徴	備 考
1	口縁部～底部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	胴部上半にやや膨らみを持ち、口縁部は若干内湾する。4単位の緩やかな波状口縁を持ち、うち相対する2単位には∩字状の突起を付す。口縁部は隆線を巡らせて無文帯をつくる。胴部中位までLR縄文を施す。胴部下半は無文。	口径24.3cm 底径8.2cm 器高32.7cm
2	口縁部～胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部は波状を呈すと考えられる。口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。胴部は2条対の沈線により∩字状に区画。RL縄文充填施文。	3・4と同一個体
3	〃	〃	〃	〃	〃	2・4と同一個体
4	〃	〃	〃	〃	〃	2・3と同一個体
5	口縁部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	口縁部は高い隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下はRL縄文を施文。	

6	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口唇部は角頭状を呈す。口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下はLR縄文を施文。	
7	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下はLR縄文を施文。	
8	口縁部～胴部	中粒の砂	鈍い黄橙色	普通	口縁部は幅の狭い沈線を巡らせ無文帯をつくる。胴部は全面にLR(？)縄文を施文。	
9	胴部	中粒の砂	鈍い橙色	普通	LR縄文を施文。	
10	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	LR縄文を施文。	
11	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	沈線により縦位区画。RL縄文を施文。	
12	胴部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	沈線により曲線文を施す。RL縄文(直前段多縄？)を施文。	
13	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により縦位区画。RL縄文を施文。	
14	胴部	中粒の砂	灰黄褐色	良好	隆線により曲線文を施す。RL縄文を施文。	
15	胴部	中粒の砂	灰黄褐色	良好	隆線により文様を施す。LR縄文を施文。	
16	胴部	中粒の砂	橙色	良好	無文。	

第34号住居址（第36図）

位　置―18―22グリッド　**規模・形状**―長軸5.8m・短軸5.1mを測り、円形プランを呈する大型の住居址。**柱　穴**―土坑状のものを含めＰ１～Ｐ31の31本が検出された。壁周辺を巡るものであろうか。**炉**―検出されなかった。**重　複**―なし。



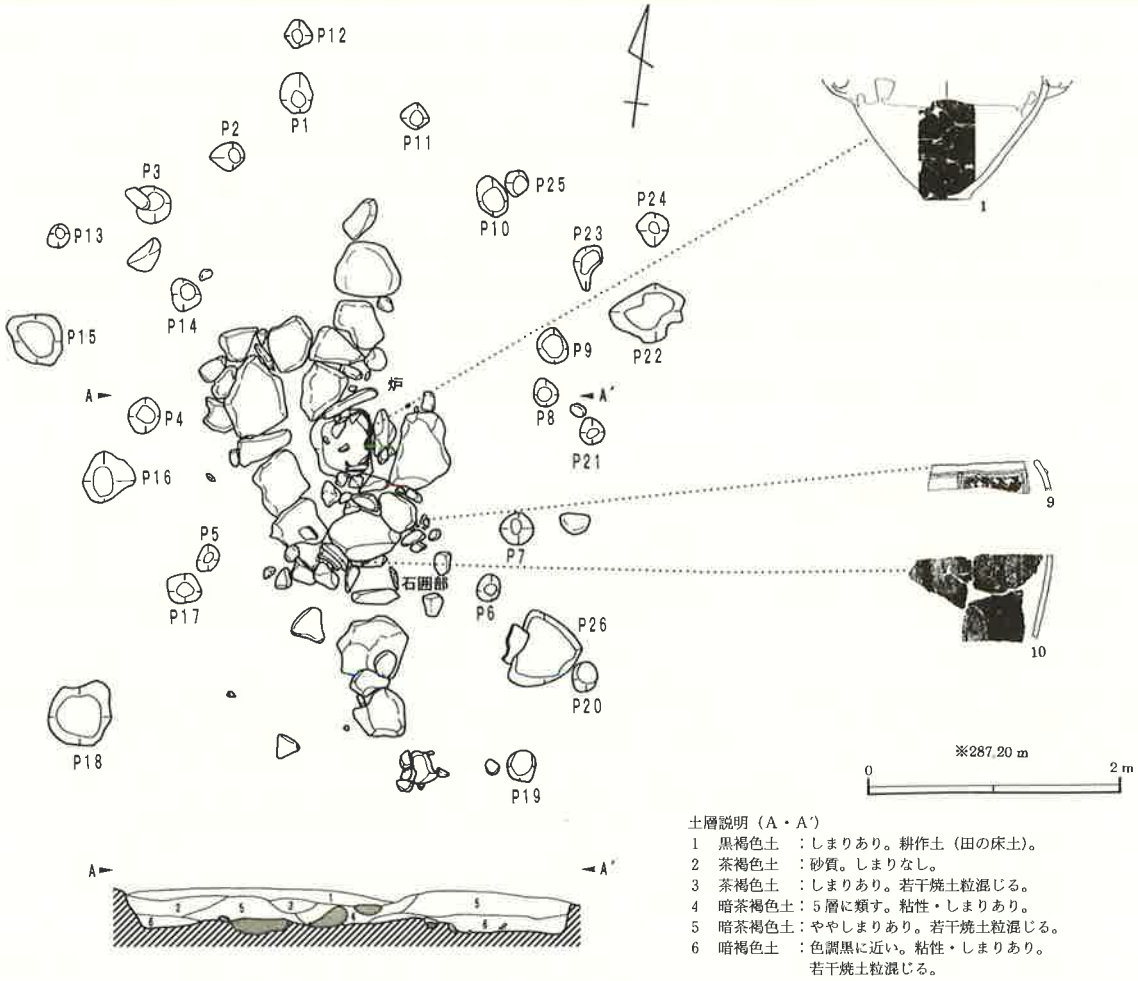
第36図　第34号住居址（Ｓ＝１/60）

第35号住居址（第37図）

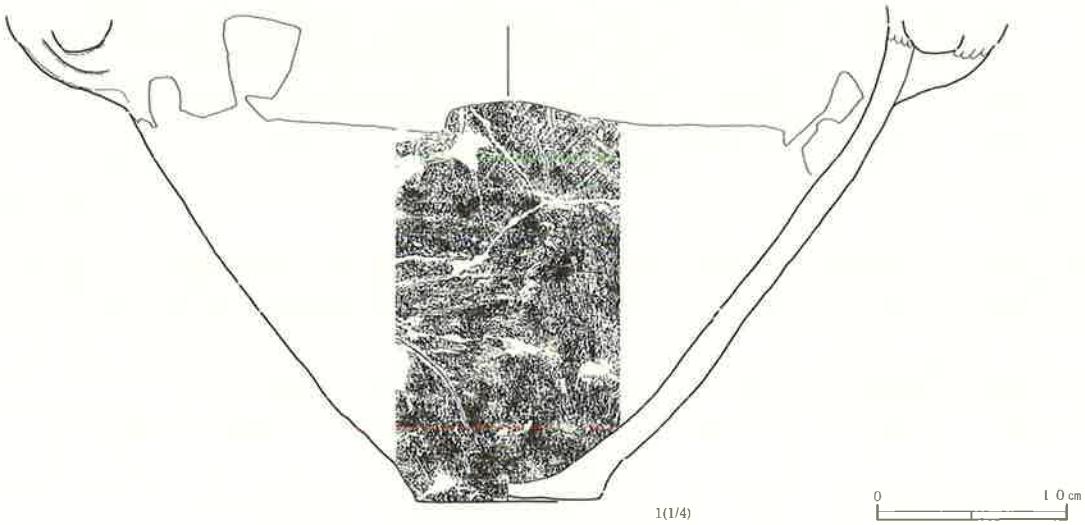
位　置―22―19グリッド　**規模・形状**―南北方向に長軸を持つ柄鏡形敷石住居であり、現状で全長6.0mを測る。主体部の規模は長軸4.2m・短軸3.6mを測り、楕円形を呈す。張出部の規模は長軸1.8m・短軸0.9mを測る。 **敷石状況**―主体部は炉周辺の中央部を中心に大きめの石を配し、周辺のピット付近、特に北側には認められない。張出部では石囲部付近に大きめな石を施す。 **柱　穴**―敷石周辺よりＰ１～Ｐ26の26本が検出され、このうちＰ１～Ｐ11は主体部の壁周辺を巡るものと考えられる。 **炉**―主体部中央やや南寄りで検出された。長軸50cm・短軸40cmの方形を呈す。西辺を除く３辺に大小の石を「コ」字状に配す。炉内より口縁部を欠いた両耳壺が検出された（第38図１）。 **埋　甕**―検出されなかった。 **石囲部**―主体部と張出部の接続部で検出された。４個の石を方形に配す。 **重　複**―なし。

第35号住居址出土土器観察表（第38～40図）

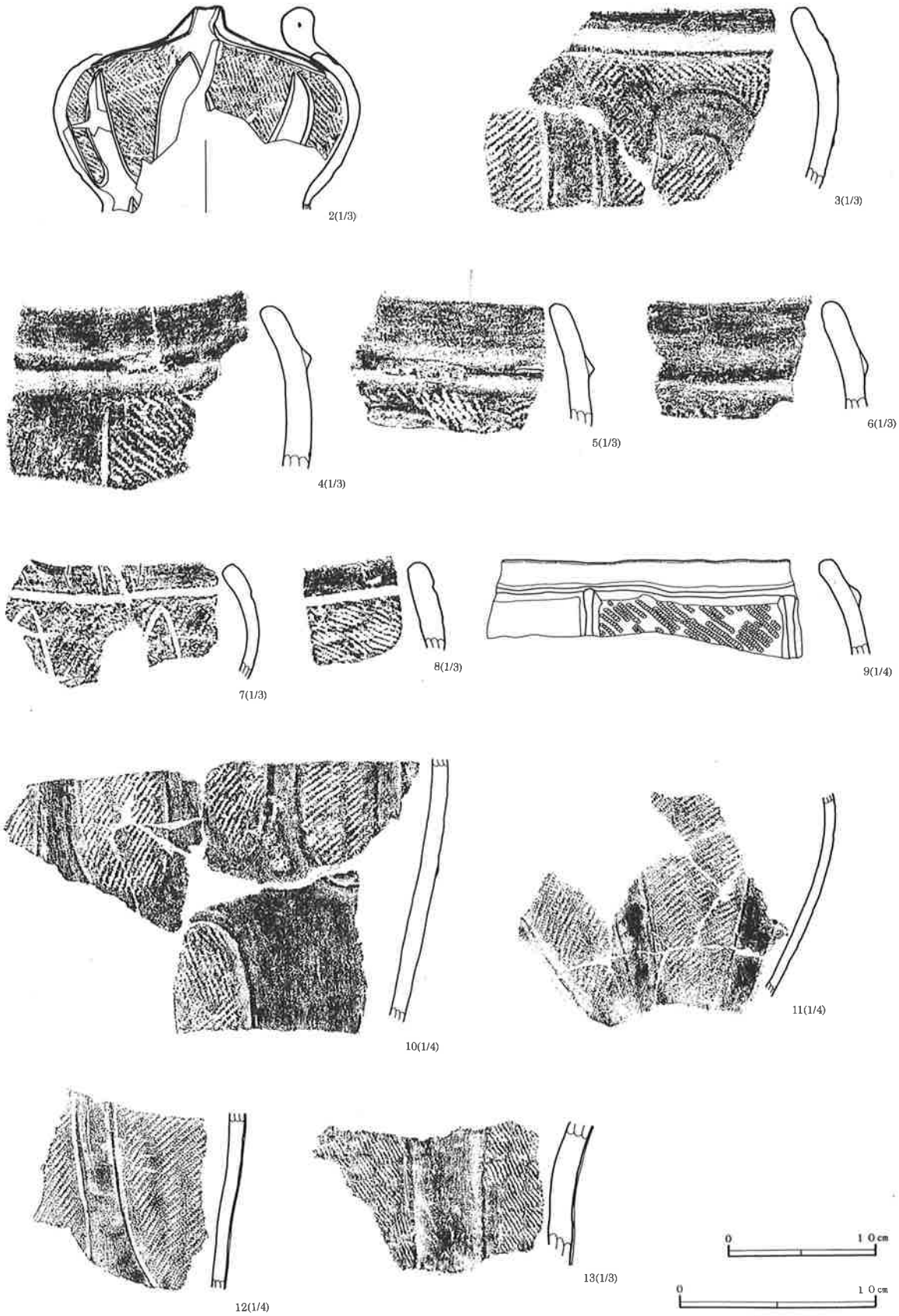
番号	部 位	胎　土	色　調	焼成	器形・文様の特徴	備　　考
1	胴部～底部	中粒の砂	黄橙色	良好	底部から大きく開く。口縁部欠損。２単位の橋状把手を持つ両耳壺。胴部上半はRL縄文を施文。胴部下半は無文。	底径9.7cm
2	口縁部～胴部	細粒の砂	橙色	良好	環状突起を持つ小型の深鉢。口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。胴部上半は波状に区画し、胴部下半は∧字状に区画。細かいLR縄文を施文。	口径(11.2)cm
3	口縁部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	口縁部は沈線を伴う隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は隆線により曲線文等を施す。RL縄文を施文。	
4	口縁部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は沈線により縦位区画。LR縄文を施文。	
5	口縁部	中粒の砂	橙色	良好	口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は隆線により曲線文等を施す。RL縄文を施文。	６と同一個体
6	〃	〃	〃	〃	〃	５と同一個体
7	口縁部	細粒の砂	鈍い褐色	普通	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下は沈線により∧字状に区画。RL縄文を施文。	
8	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下はＬ縄文を施文。	
9	口縁部	細粒の砂	橙色	普通	口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は隆線により縦位区画。LR縄文を施文。	
10	胴部	中粒の砂	橙色	普通	隆線により∪・∩字状に区画。RL縄文を施文。	
11	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線を伴う隆線により∪字状等に区画。RL縄文を施文。	12と同一個体
12	〃	〃	〃	〃	〃	11と同一個体
13	胴部	中粒の砂	鈍い橙色	普通	隆線により縦位区画。Ｌ(？)縄文を施文。	
14	胴部	細粒の砂	橙色	普通	沈線を伴う隆線により縦位区画。RL縄文を施文。	
15	胴部	細粒の砂	浅黄橙色	普通	隆線により縦位区画。LR縄文を施文。	
16	胴部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	隆線ははがれたとみられる。隆線により文様を施す。Ｌ縄文を施文。	
17	胴部	細粒の砂	橙色	良好	沈線により縦位区画。RL縄文を施文。	
18	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	全面にＬ縄文を施文。	
19	底部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	無文。	底径5.8cm



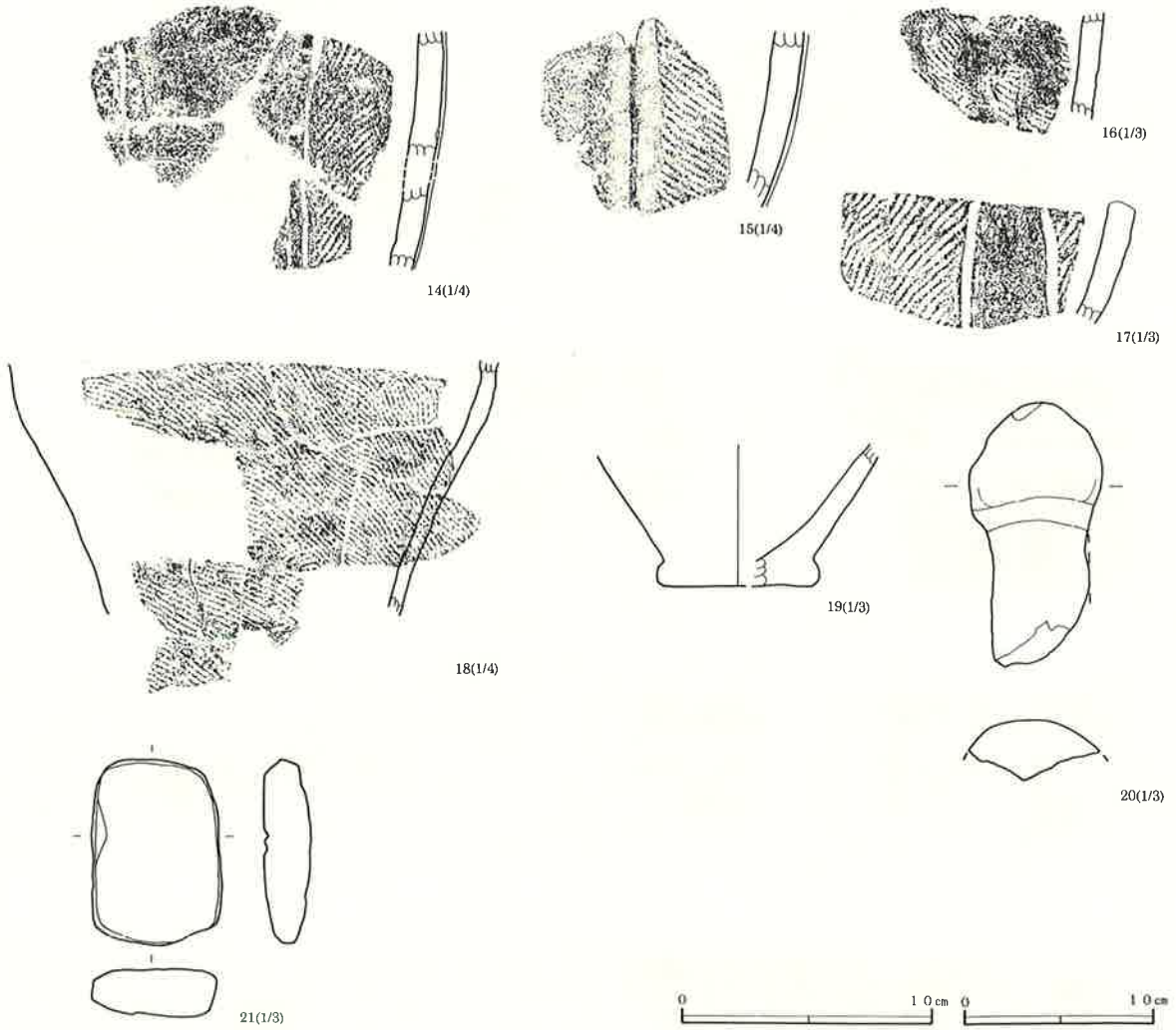
第37図　第35号住居址（S＝1/60）



第38図　第35号住居址出土遺物①（S＝1/4）



第39図　第35号住居址出土遺物②（S＝1/3・1/4）



第40図　第35号住居址出土遺物③（S＝1/3・1/4）

第35号住居址出土石製品観察表（第40図）

番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　　考
20	石　棒	11.5cm	5.2cm	—	143g	緑泥片岩製。頭部のみ残存。
21	不　明	7.3cm	5.1cm	1.9cm	31g	軽石製

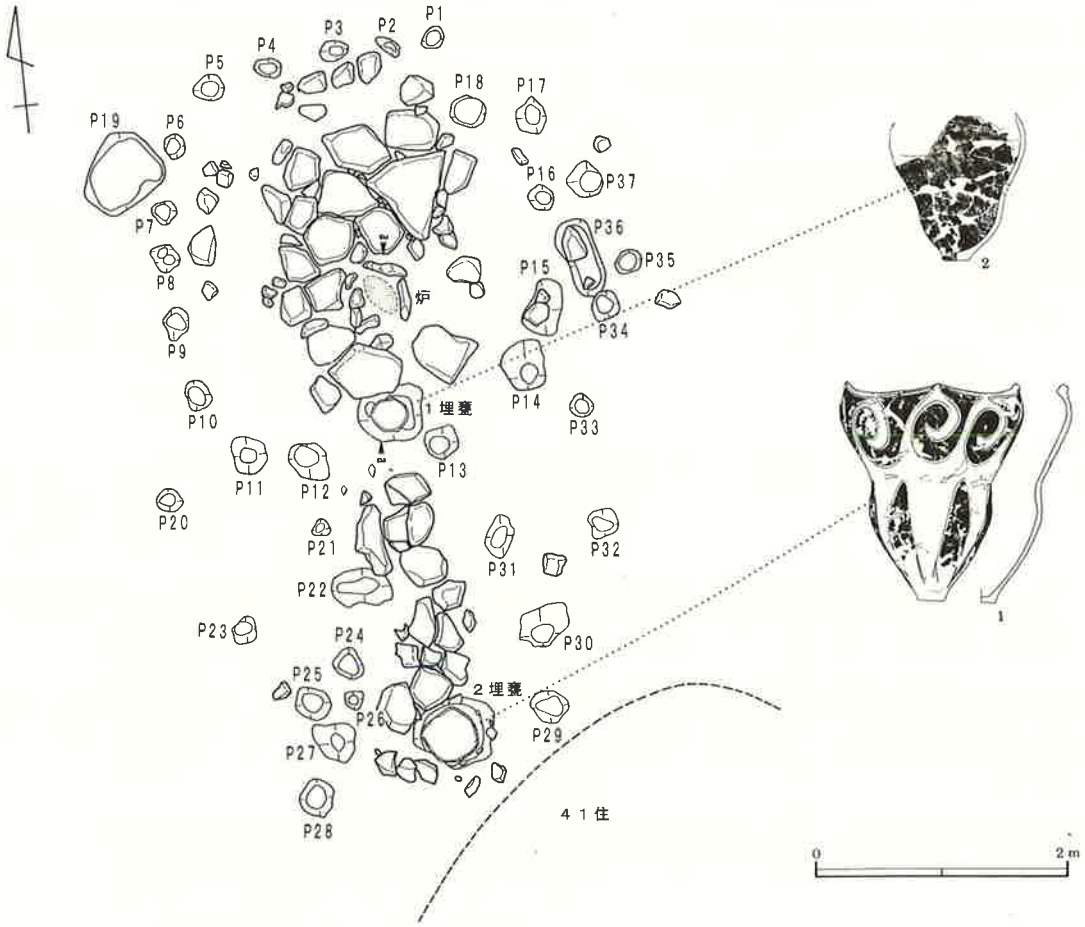
第36号住居址（第41図）

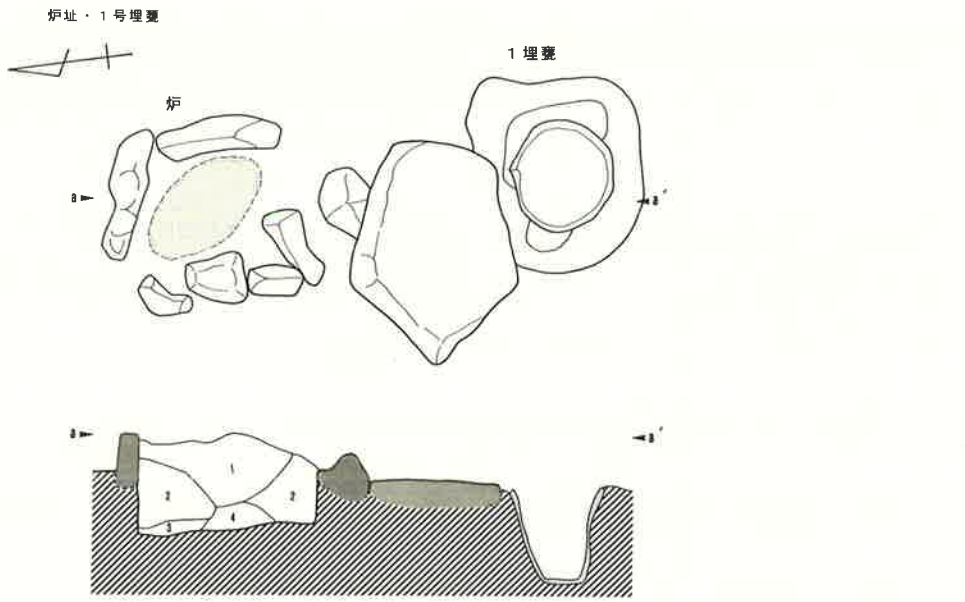
位　置—22・23—18・19グリッド　**規模・形状**—南北に長軸を持つ柄鏡形敷石住居であり、全長6.1mを測る。主体部の規模は長軸3.5m・短軸3.4mを測り、円形を呈す。張出部の規模は長軸2.6m・短軸1.3mを測る。 **敷石状況**—主体部は炉の北側・南側を中心に大きめの石を施し、北半には縁石が施される。炉の東側・南側では周辺のピットとの間に大きな間隙がみられる。張出部では2基の埋甕をつなぐように直線的に大きめの石を配す。 **柱　穴**—敷石周辺よりＰ１～Ｐ37の37本が検出された。このうちＰ１～Ｐ18は主体部の壁周辺を巡るものと考えられる。 **炉**—主体部ほぼ中央で検出された。大小

の石を方形に配し、30cm程の深さを持つ。 **埋　甕**―２基検出された。１号埋甕は主体部と張出部の接続部で検出され、中型の深鉢（第42図２）が正位で埋設されていた。２号埋甕は張出部先端で検出され、大型の深鉢（第42図１）が正位で埋設されていた。 **重　複**―第41号住居址と隣接ないし一部重複する。

第36号住居址出土土器観察表（第42～45図）

番号	部 位	胎　土	色　調	焼成	器形・文様の特徴	備　　考
1	口縁部～底部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	口縁部は内湾し、胴部中位にくびれを持つ。４単位の波状口縁を持つ。胴部上半には沈線による８単位のＪ字状区画を施す。相対する２単位の波頂部では、隣り合うＪ字状区画が連結する。胴部下半には沈線による７単位の∩字状区画を施す。RL 縄文充塡施文。	口径44.6cm 底径7.2cm 器高58.3cm
2	口縁部～底部	中粒の砂	橙色	普通	口縁部は内湾し、胴部中位にくびれを持つ。胴部下半から底部に向かって強くすぼまる。口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。隆線および胴部全面にＬ縄文を施文。	口径(25.8)cm 底径5.8cm 器高31.3cm
3	口縁部～胴部	細粒の砂	明黄褐色	普通	口縁部は緩やかに内湾する。口唇部に小突起を持つ。口縁部は両脇に刺突を伴う隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は沈線により∩字状に区画。RL 縄文を施文。	口径(31.4)cm
4	口縁部～胴部	中粒の砂	浅黄橙色	普通	口縁部は直立し、胴部中位にくびれを持つ。口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は沈線により弧状の文様を施す。	口径(18.8)cm
5	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	波頂部に平坦面を持つ波状口縁部破片。口唇部は内削状。口縁部に沿って沈線を巡らせ文様帯をつくる。以下は沈線により円形等に区画。細かい LR 縄文をを施文。内外面に赤彩が施される。	
6	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	波状口縁部破片。波頂部に円形(？)の突起を持つ。波頂部から口縁部に沿って、両脇に刺突を伴う隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は沈線により曲線文を施す。RL 縄文を施文。	７と同一個体
7	〃	〃	〃	〃	〃	６と同一個体
8	口縁部	中粒の砂	橙色	良好	環状突起をもつ波状口縁部破片。口縁部に沿って沈線を伴う隆線を巡らせ無文帯をつくる。胴部は沈線を伴う隆線により弧状に区画。LR(？)縄文を施文。	９・10と同一個体
9	〃	〃	〃	〃	〃	８・10と同一個体
10	〃	〃	〃	〃	〃	８・９と同一個体
11	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下は RL 縄文を施文。	
12	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部は隆線を巡らせ幅広の無文帯をつくる。以下は沈線による斜格子目状の文様を施す。	
13	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	幅広の無文帯を持つ口縁部破片。	
14	口縁部～胴部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	胴部中位から外傾し、直線的に立ち上がる。４単位の波状口縁を持つ。口唇部は内削状を呈する。２条対の沈線により、上端に横位連結帯を持つＪ字状の区画文を２段施す。区画内には LR 縄文充塡施文。	口径21.8cm 15～22と同一個体

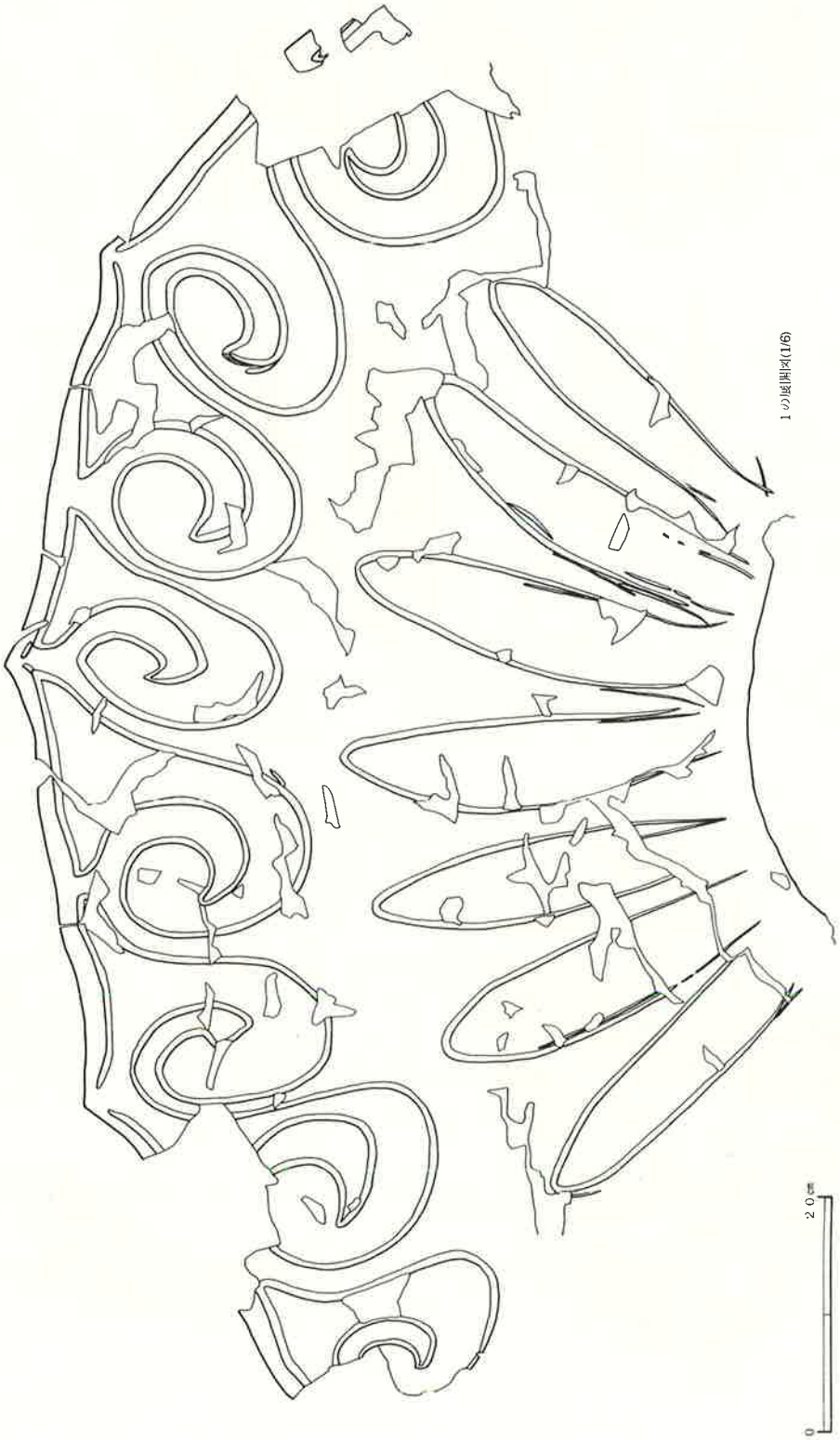




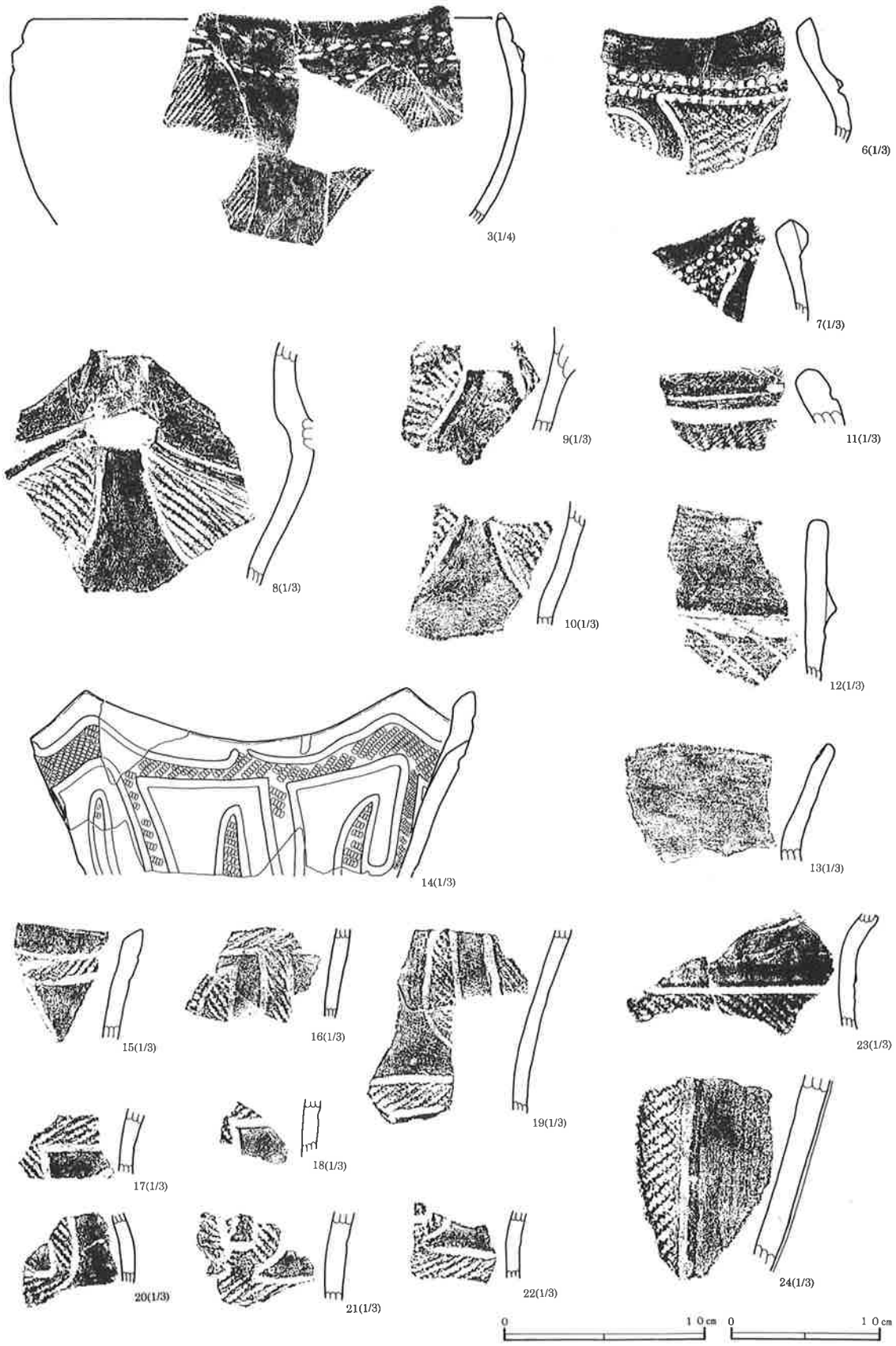
土層説明（a・a′）
1　黒褐色土：軟質。しまりなし。若干ローム粒・焼土粒混じる。
2　黒褐色土：軟質。しまりなし。ローム粒・焼土粒混じる。
3　焼土
4　暗褐色土：軟質。しまりなし。ロームブロック混じる。

第41図　第36号住居址，同炉址・1号埋甕（S＝1/60・1/20）

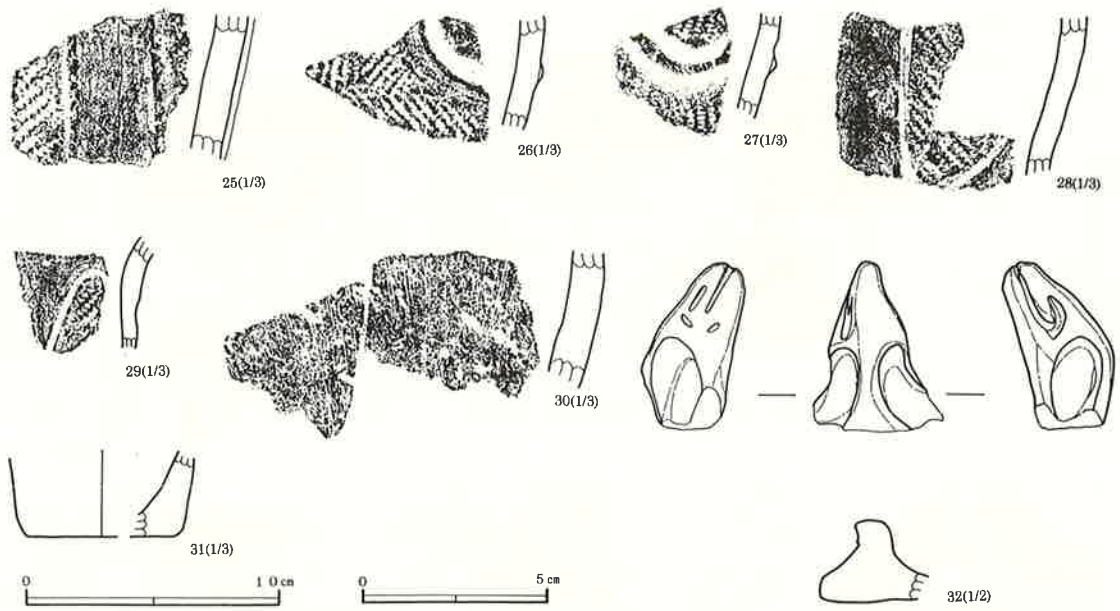
第42図　第36号住居址出土遺物①（S＝1/3・1/4・1/5）



第43図　第36号住居址出土遺物②（S＝1／6）



第44図　第36号住居址出土遺物③（S＝1／3・1／4）

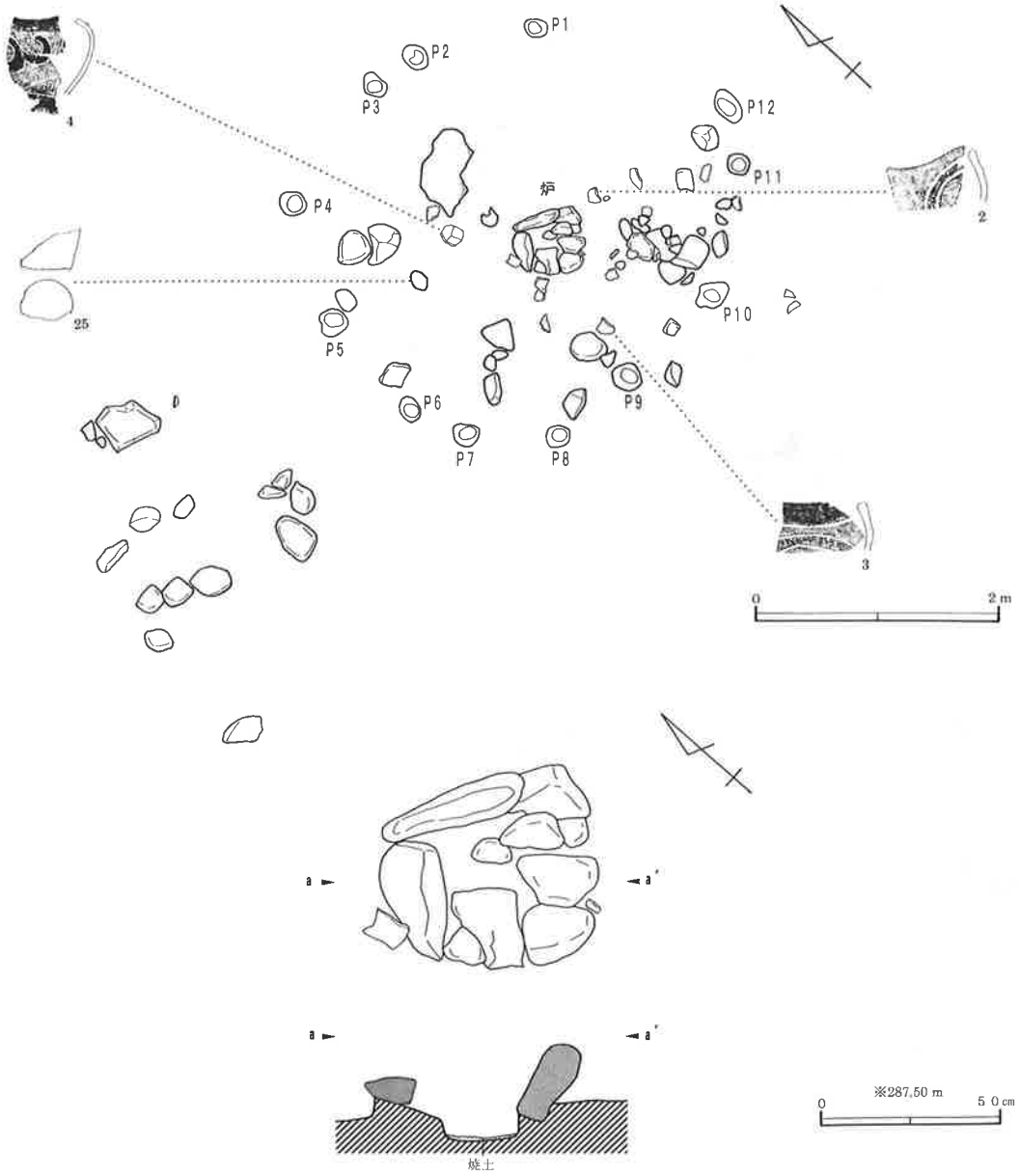


第45図　第36号住居址出土遺物④（S＝1/3・1/2）

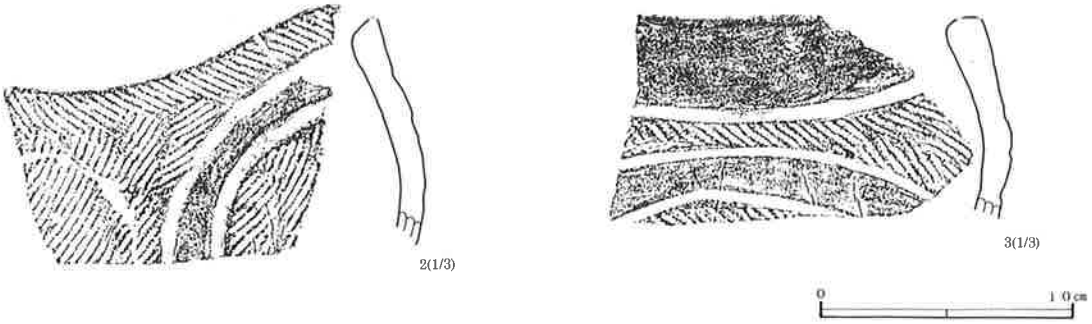
15	口縁部～胴部	細粒の砂	浅黄橙色	良好	胴部中位から外傾し、直線的に立ち上がる。4単位の波状口縁を持つ。口唇部は内削状を呈する。2条対の沈線により、上端に横位連結帯を持つJ字状の区画文を2段施す。区画内にはLR縄文充填施文。	
16	〃	〃	〃	〃	〃	
17	〃	〃	〃	〃	〃	
18	〃	〃	〃	〃	〃	
19	〃	〃	〃	〃	〃	
20	〃	〃	〃	〃	〃	
21	〃	〃	〃	〃	〃	
22	〃	〃	〃	〃	〃	
23	胴部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線を横位に巡らせ上下に区画。上部は無文、下部は縄文を施文。	
24	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線を伴う隆線により縦位区画。RL縄文を施文。	
25	胴部	細粒の砂	明赤褐色	良好	隆線により縦位区画。RL縄文を施文。	
26	胴部	細粒の砂	橙色	良好	隆線により文様を施し、縄文を施文。	
27	胴部	中粒の砂	浅黄橙色	良好	隆線により文様を施し、縄文を施文。	
28	胴部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	沈線によりU字状に区画。LR縄文を施文。	
29	胴部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	沈線により∩字状に区画。RL縄文を施文。	
30	胴部	中粒の砂	鈍い黄橙色	普通	条線を縦位に施文。	
31	底部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	直線的に立ち上がる。無文。	底径5.8cm
32	突起	細粒の砂	鈍い褐色	良好	動物意匠を持つ突起。	

第38号住居址（第46図）

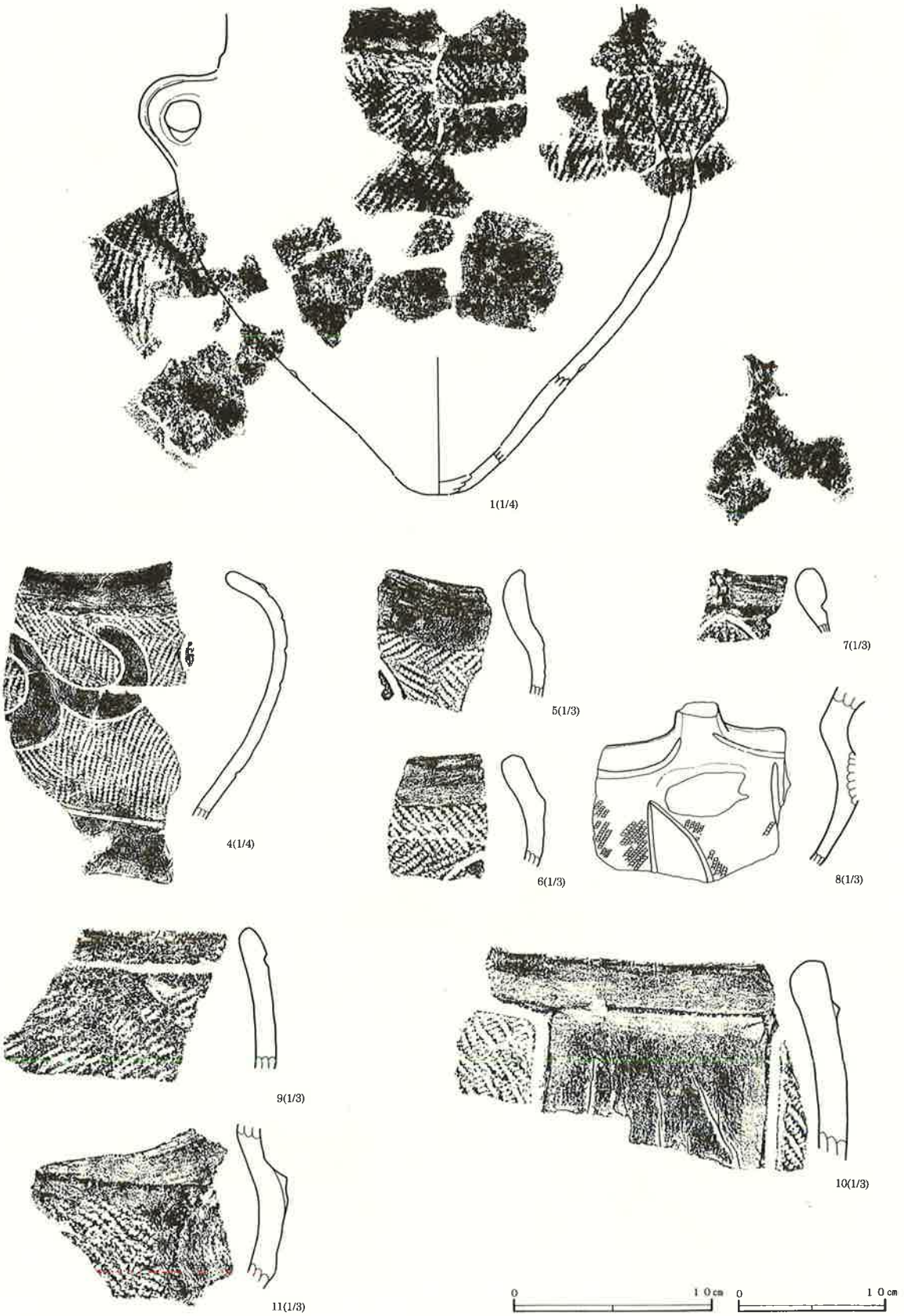
位　置―21―18グリッド　**規模・形状**―柱穴配置より円形の敷石住居とみられ、長軸4.0m・短軸3.7mを測る。　**敷石状況**―炉以南にまばらに施され、北側ではあまり認められない。また本住居址南西にも石がまとまりを持って検出されているが、炉の主軸方向からはずれるため本住居址に伴うものではないと判断した。　**柱　穴**―P1～P12の12本が敷石を囲むように検出された。壁周辺を巡るものと考えられる。　**炉**―住居址中央で検出された。大小の石を方形に組み、深さは22cmを測る。　**埋　甕**―検出されなかった。　**重　複**―なし。



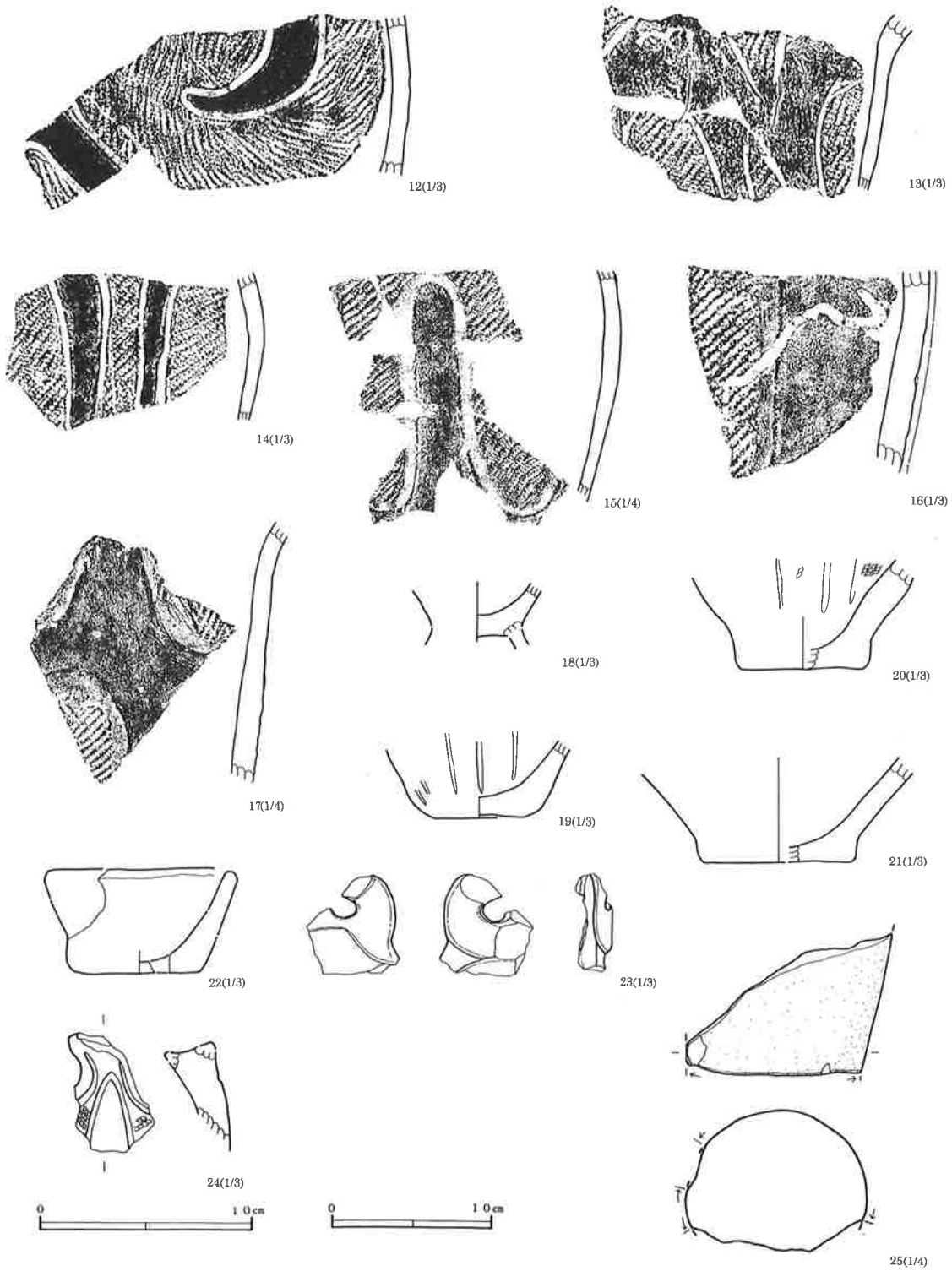
第46図　第38号住居址・同炉址（S＝1/60・1/20）



第47図　第38号住居址出土遺物①（S＝1/3）



第48図　第38号住居址出土遺物②（S＝1／3・1／4）



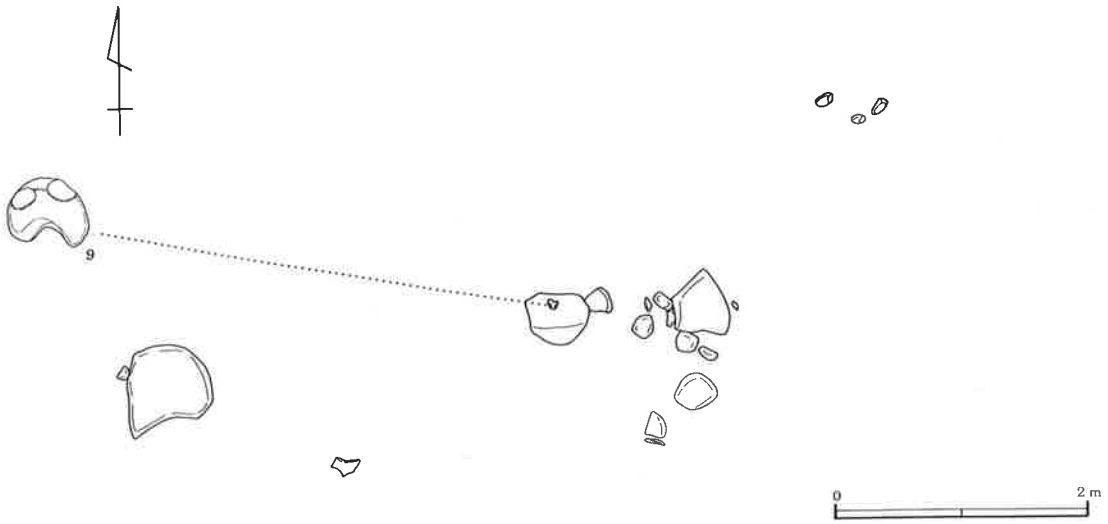
第49図　第38号住居址出土遺物③（S＝1／3・1／4）

第38号住居址出土土器観察表（第47～49図）

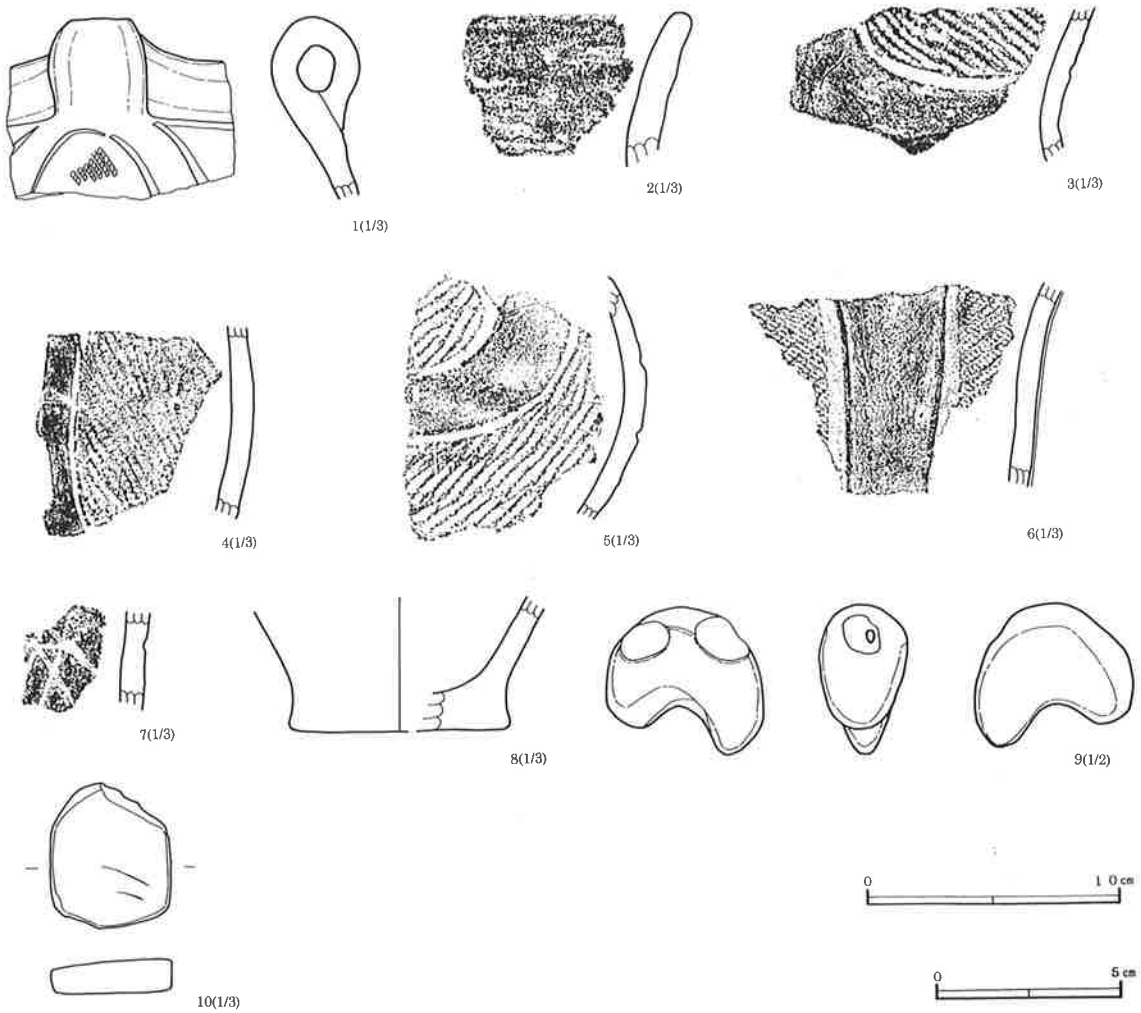
番号	部 位	胎 土	色 調	焼成	器形・文様の特徴	備 考
1	胴部～底部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	2単位の橋状把手を持つ両耳壺。頸部に隆線を巡らせ口縁部に無文帯をつくる。隆線および胴部にはRL縄文を施文。	
2	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	波状口縁部破片。2条対の沈線により曲線文を施す。RL縄文を施文。	
3	口縁部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	口縁部は沈線を巡らせやや幅広の無文帯をつくる。以下は2条対の沈線により曲線文を施す。RL縄文を施文。	
4	口縁部～胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	口縁部は強く内湾する。口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。胴部上半には沈線により曲線文を施す。胴部中位には沈線を巡らせ無文帯をつくる。RL縄文を施文。	
5	口縁部	細粒の砂	鈍い赤褐色	良好	波状口縁部破片。口縁部には無文帯を持つ。以下沈線により文様を施す。LR縄文を施文。	
6	口縁部	細粒の砂	鈍い黄褐色	良好	口縁部には無文帯を持つ。以下沈線により曲線文を施す。RL縄文を施文。	
7	口縁部	細粒の砂	橙色	良好	波状口縁部破片。波頂部は肥厚する。口縁部は無文帯を持つ。以下沈線により∩字状に区画。RL縄文を施文。	
8	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	口縁部には環状突起を付す。口縁部に沿って沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下は沈線により∧字状等に区画。RL(？)縄文を施文。	
9	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	口縁部は沈線を巡らせ無文帯をつくる。以下はRL(？)縄文を施文。器面の摩滅著しい。	
10	口縁部	細粒の砂	橙色	良好	口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は隆線により縦位区画。RL縄文を施文。	
11	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	普通	波状口縁部破片。口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下隆線により曲線文等を施す。LR縄文を施文。	
12	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により曲線文等を施す。RL縄文を施文。	
13	胴部	中粒の砂	明赤褐色	良好	沈線により∨・∩・∧字状に区画。RL縄文を施文。	
14	胴部	中粒の砂	明赤褐色	良好	沈線により縦位区画。RL縄文を施文。	
15	胴部	中粒の砂	橙色	良好	隆線により波状に区画。RL縄文を施文。	
16	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	隆線により縦位区画。RL縄文を施文。	
17	胴部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	隆線により∪・∩字状に区画。RL縄文を施文。	
18	底部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	台付深鉢の脚部。一部LR縄文を施文。	
19	底部	中粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により縦位区画。	底径4.1cm
20	底部	中粒の砂	鈍い褐色	普通	沈線により縦位区画。	底径5.8cm
21	底部	細粒の砂	鈍い橙色	良好	無文。大きく開いて立ち上がる。	底径7.0cm
22	底部	細粒の砂	橙色	普通	深鉢の底部。底部に焼成後のものとみられる穿孔が施される。無文。	底径6.0cm
23	突起	細粒の砂	鈍い橙色	良好	円形の突起。	
24	突起	中粒の砂	明赤褐色	良好	頂部に平坦面を持つ突起。沈線により∩字状に区画。RL縄文を施文。	

第38号住居址出土石製品観察表（第49図）

番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考
25	石 棒	8.9cm	11.3cm	11.3cm	1,165g	石英斑岩製。尾部のみ残存。



第50図　第39号住居址（S＝1/60）



第51図　第39号住居址出土遺物（S＝1/3・1/2）

第39号住居址（第50図）

位　置—22—18・19グリッド　**規模・形状**—不明。 **柱　穴**—周辺でピットが検出されているが、配置に規則性はみられないため伴うものかは不明。 **炉**—検出されなかった。 **重　複**—なし。 **備　考**—配石遺構等の可能性も考えられる。

第39号住居址出土土器観察表（第51図）

番号	部 位	胎　土	色　調	焼成	器形・文様の特徴	備　　考
1	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	環状突起を持つ。口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は２条対の沈線により∩字状に区画。LR(？)縄文を施文。	
2	口縁部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	両耳壺の口縁部破片。無文	
3	胴部	中粒の砂	橙色	良好	沈線により曲線文を施す。LR 縄文を施文。	
4	胴部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	沈線により縦位区画。LR 縄文を施文。	
5	胴部	中粒の砂	橙色	良好	２条対の沈線により曲線文を施す。LR(？)縄文を施文。	
6	胴部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	隆線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
7	胴部	中粒の砂	鈍い黄橙色	普通	沈線により斜格子目状の文様を施す。	
8	底部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	無文。	底径(8.5)cm

第39号住居址出土石製品観察表（第51図）

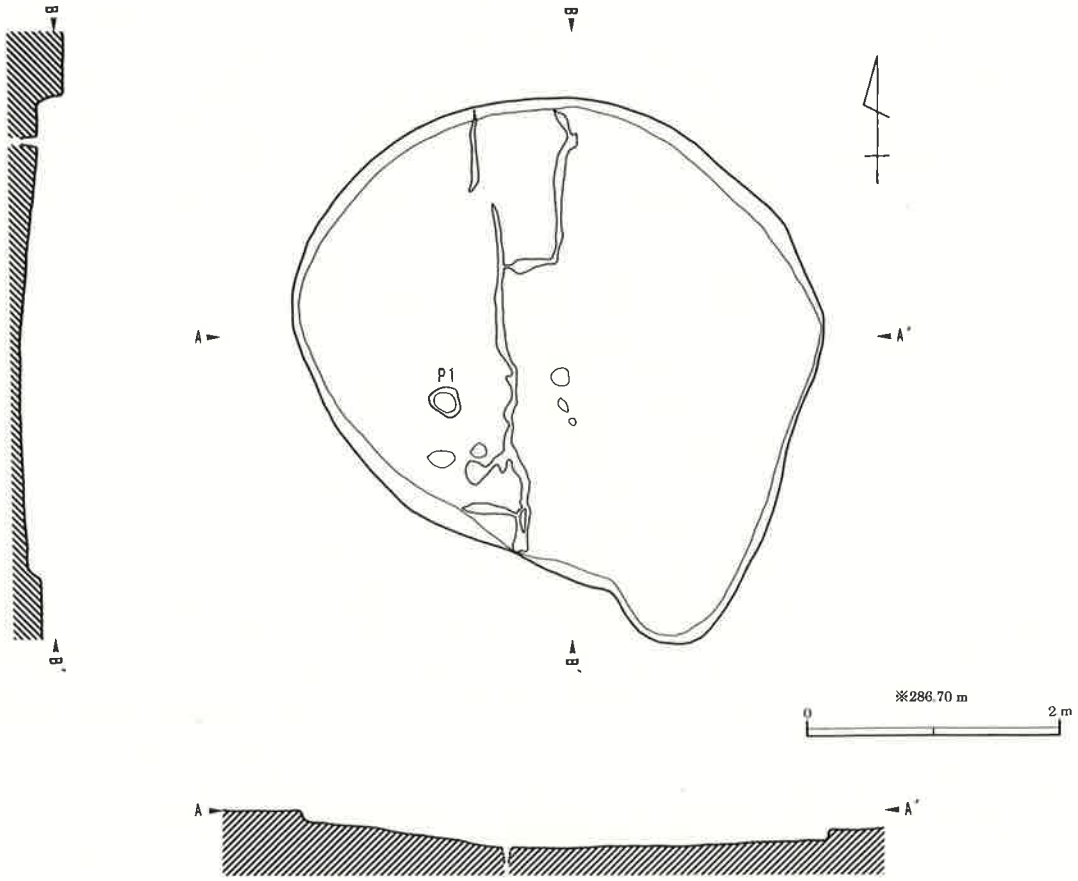
番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　　考
9	垂　飾	4.1cm	2.6cm	2.3cm	30ｇ	完形。
10	不　明	5.7cm	4.7cm	1.3cm	20ｇ	軽石製。

第40号住居址（第52図）

位　置—20—21・22グリッド　**規模・形状**—長軸4.2m・短軸3.8m・深さ9.2～19.7cmを測る。南東部に一部張り出しを持つ不整円形プランを呈する。 **柱　穴**—Ｐ１の１本が検出された。 **炉**—検出されなかった。 **重　複**—なし。 **備　考**—南北方向に地震によるとみられる地割れ痕が検出されている（PL．４—４・５参照)。

第41号住居址（第53図）

位　置—22・23—19グリッド　**規模・形状**—掘り込みは検出されなかったが、柱穴配置より長軸5.3m・短軸3.6mの楕円形プランと推定される。 **柱　穴**—推定プラン内よりＰ１～Ｐ20の20本が検出された。このうちＰ１～Ｐ10は壁周辺を巡るものと考えられる。 **炉**—住居址中央やや西寄りで検出された。長軸56cm・短軸54cm・深さ10cmで、円形を呈す。 **重　複**—第36号住居址と隣接ないし一部重複すると考えられる。



第52図　第40号住居址（S＝1/60）

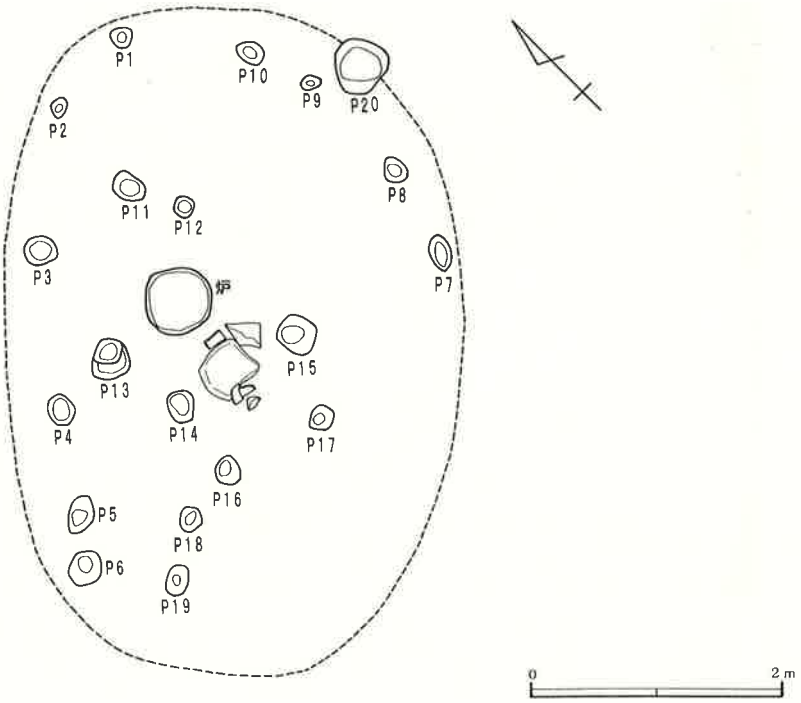
第41号住居址出土土器観察表（第54図）

番号	部 位	胎 土	色 調	焼成	器形・文様の特徴	備 考
1	口縁部	細粒の砂	灰褐色	良好	口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は隆線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
2	口縁部	中粒の砂	鈍い橙色	良好	口縁部は隆線を巡らせ無文帯をつくる。以下は隆線により縦位区画。RL 縄文を施文。	
3	胴部	中粒の砂	鈍い黄橙色	普通	沈線により斜格子目状の文様を施す。	4と同一個体
4	〃	〃	〃	〃	〃	3と同一個体
5	底部	細粒の砂	鈍い黄橙色	良好	無文。	底径6.6cm

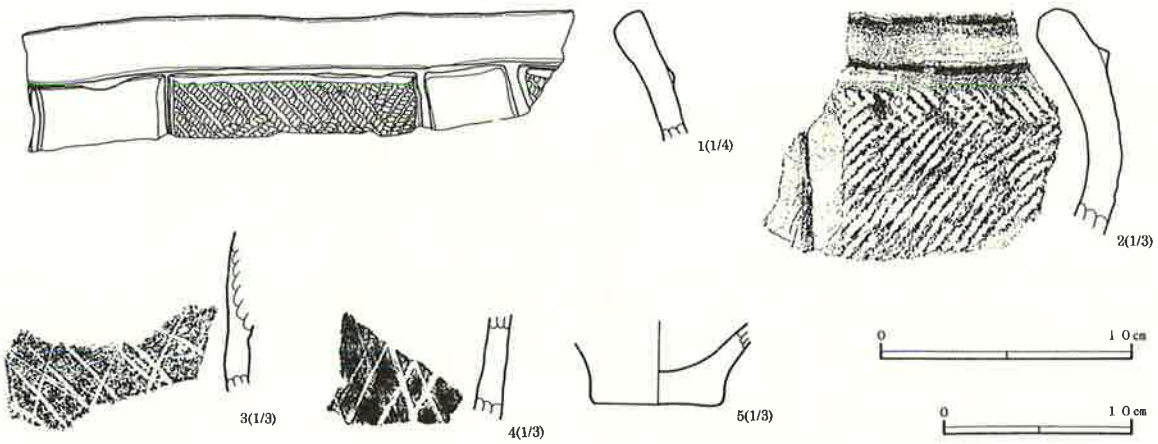
B．配石遺構

第1号配石遺構（第55図）

位　置―28―28グリッド　**規模・配石状況**―長軸1.1m・短軸0.66mの範囲に12点の石が長方形に配される。**重　複**―第2号溝と重複する。



第53図　第41号住居址（S＝1/60）

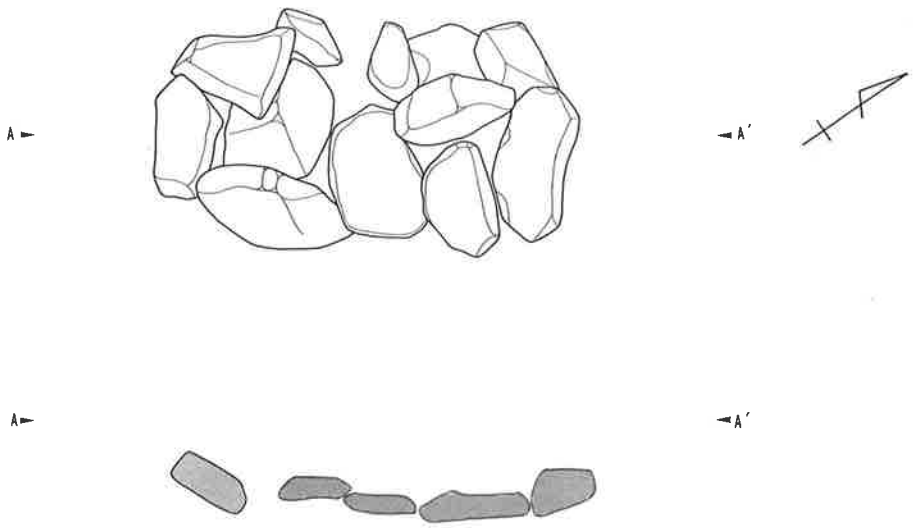


第54図　第41号住居址出土遺物（S＝1/3・1/4）

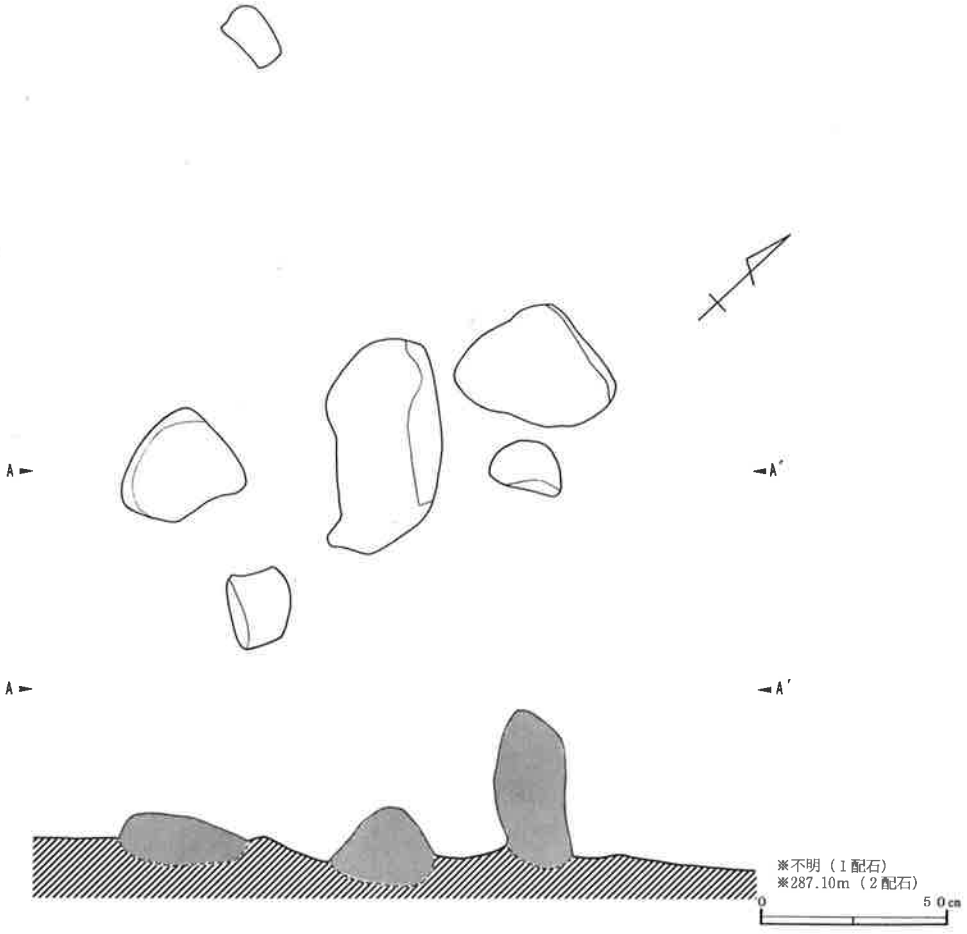
第2号配石遺構（第55図）

位　置―23―21グリッド　**規模・配石状況**―6点の石から構成される。東側5点の石は長方形に配置され、うち北東の1点は立石である。ここから約1m西側に1点配石される。**重　複**―なし。

第１号配石遺構



第２号配石遺構



第55図　第１・２号配石遺構（S＝1/20）

2　平安時代の遺構と遺物

本遺跡では平安時代の遺構として住居址・土坑等が検出された。本報告では住居址を取り上げる。検出された住居址は１軒である。

A．住居址

第42号住居址（第56図）

位　置―11・12―15グリッド　**規模・形状**―長方形を呈し、長軸3.5m・短軸3.0m・深さ25.8～45.9cmを測る。周溝は全周し、幅13～28cm・深さ5.9～31.7cmを測る。 **柱　穴**―Ｐ１～Ｐ４の４本が検出された。 **カマド**―東壁南寄りで検出された。長軸1.5m・短軸0.84mを測る。 **重　複**―なし。 **備　考**―本住居址は焼失住居とみられ、部材と考えられる炭化材が検出された。また炭化材やその周辺から釘とみられる鉄製品が多量に出土している。

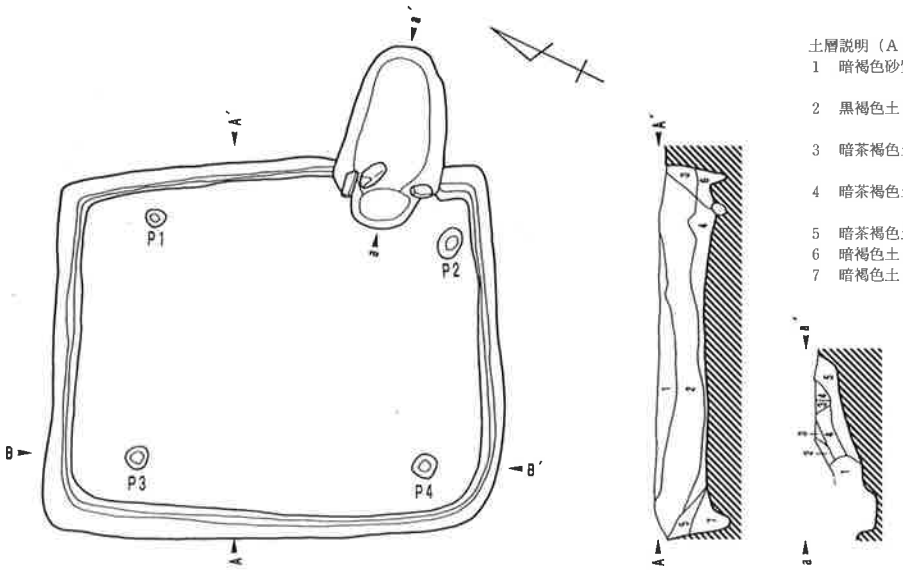
Pit 番号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４
深さ(cm)	12.4	28.0	14.4	19.9

第42号住居址出土土器観察表（第57図）

番号	種類 器種	法量(cm)	釉薬または①胎土 ②色調③焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
1	土師器 甕	口径　18.8 底径　― 器高　―	①黒色粒②橙色 ③酸化焔	胴部上半に最大径を持ち、頸部は直立する。口縁部は外反。頸部に輪積痕を残す。口縁部～頸部は横ナデ。胴部上半は横位の、胴部下半は縦位のヘラケズリ。胴部内面はヘラナデ。	
2	須恵器 皿	口径　(14.8) 底径　7.5 器高　3.0	①黒色粒②橙色 ③酸化焔	直線的に開き、口縁部はやや外反。ロクロ整形。底部は回転糸切り。高台は貼付。	
3	須恵器 埦	口径　― 底径　6.0 器高　―	①白色粒②黒褐色 ③還元焔	ロクロ整形。底部は回転糸切り。高台は貼付。吸炭により全体的に黒色化。	
4	土師器 坏	口径　11.6 底径　― 器高　―	①黒色粒②黄灰色 ③酸化焔	口縁部はやや外反。口縁部は横ナデ。体部はヘラケズリ。	

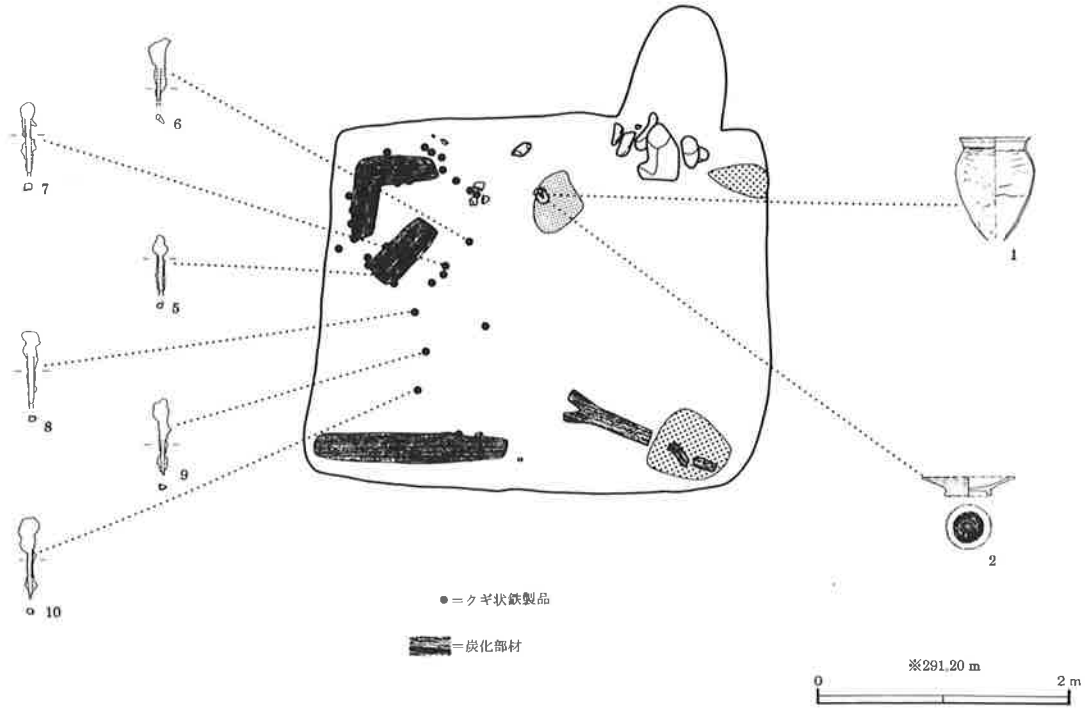
第42号住居址出土鉄製品観察表（第57図）

番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　考
5	釘	4.4cm	0.35cm	0.35cm	3.1g	断面方形。下端部欠損。
6	釘	5.0cm	0.25cm	0.35cm	7.1g	断面方形。下端部欠損。
7	釘	5.7cm	0.4cm	0.45cm	5.5g	断面方形。下端部欠損。
8	釘	6.2cm	0.5cm	0.45cm	6.5g	断面方形。下端部欠損。
9	釘	5.7cm	0.45cm	0.45cm	4.5g	断面方形。ほぼ完形。
10	釘	6.1cm	0.35cm	0.35cm	6.7g	断面方形。下端部欠損。

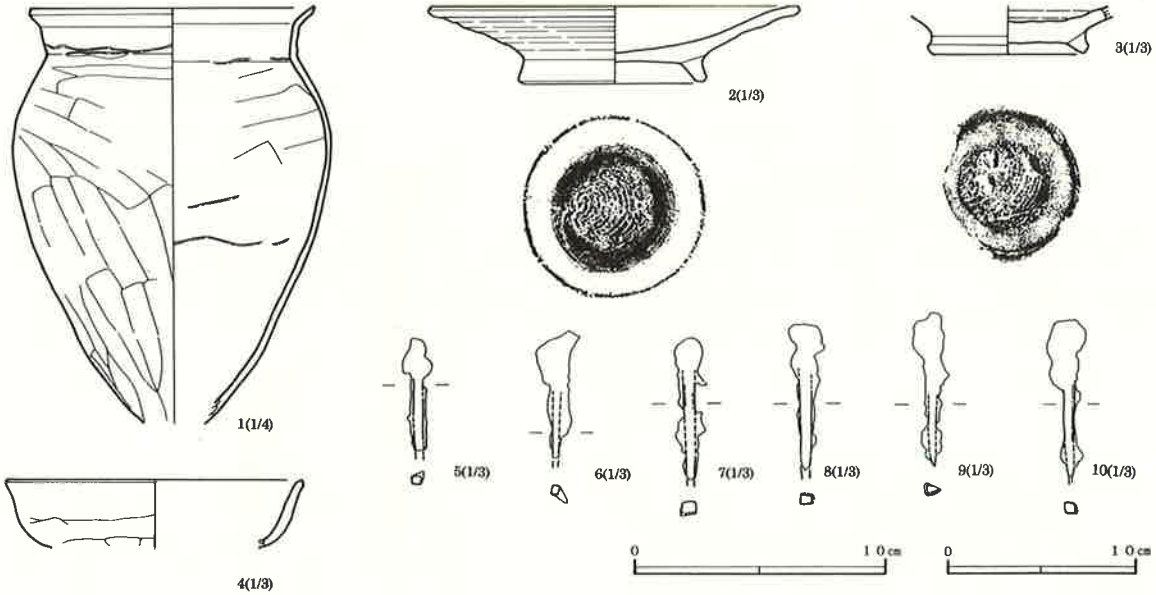


土層説明（A・A′）
1　暗褐色砂質土：浅間B軽石。
　　アッシュ層。
2　黒褐色土　　：浅間C多く混じる。
　　若干FP？
3　暗茶褐色土　：しまりなし。若干
　　焼土粒混じる。
4　暗茶褐色土　：軟質。しまりなし。
　　焼土・炭化物多量含む。
5　暗茶褐色土　：砂質。しまりなし。
6　暗褐色土　　：砂質。しまりあり。
7　暗褐色土　　：砂質。ややしまる。

土層説明（a・a′）
1　暗褐色土　：軟質。しまりなし。焼土・炭化物混じる（焚き口）。
2　黒褐色土　：しまりあり。若干焼土粒・浅間C軽石混じる。
3　褐色土　　：しまりあり。若干焼土粒・炭化物混じる。
4　暗茶褐色土：しまりあり。多量の焼土ブロック・生粘土、
　　若干の炭化物混じる（天井部）。
5　褐色土　　：やや砂質。しまりなし。若干焼土粒・炭化物混じる。
　　暗褐色土ブロック混じる（煙道部）。



第56図　第42号住居址・同遺物出土状況（S＝1/60）



第57図　第42号住居址出土遺物（S＝1/3・1/4）

3　中世・近世の遺構と遺物

本遺跡ではこの時代の所産とみられる住居址・掘立柱建物址・土坑・溝址・炭窯址・井戸等が検出された。本報告では土坑以外の該期の遺構・遺物を取り上げる。

A．住居址

第７号住居址（第58図）

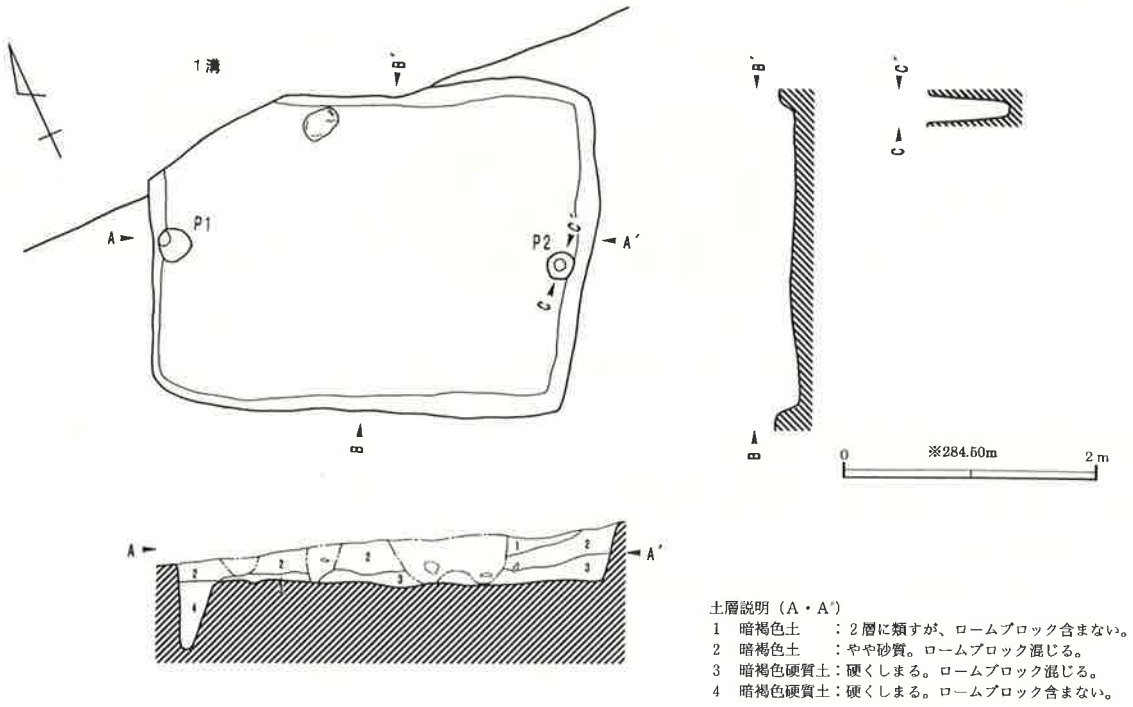
位　置―24―30グリッド　**規模・形状**―長軸3.5m・短軸2.6m・深さ10～53cmを測り、長方形プランを呈す。炉・周溝等は検出されなかった。 **柱　穴**―Ｐ１・Ｐ２の２本がそれぞれ東西壁の中央にて検出された。 **重　複**―第１号溝と重複する。

Pit番号	Ｐ１	Ｐ２
深さ(cm)	51.0	54.0

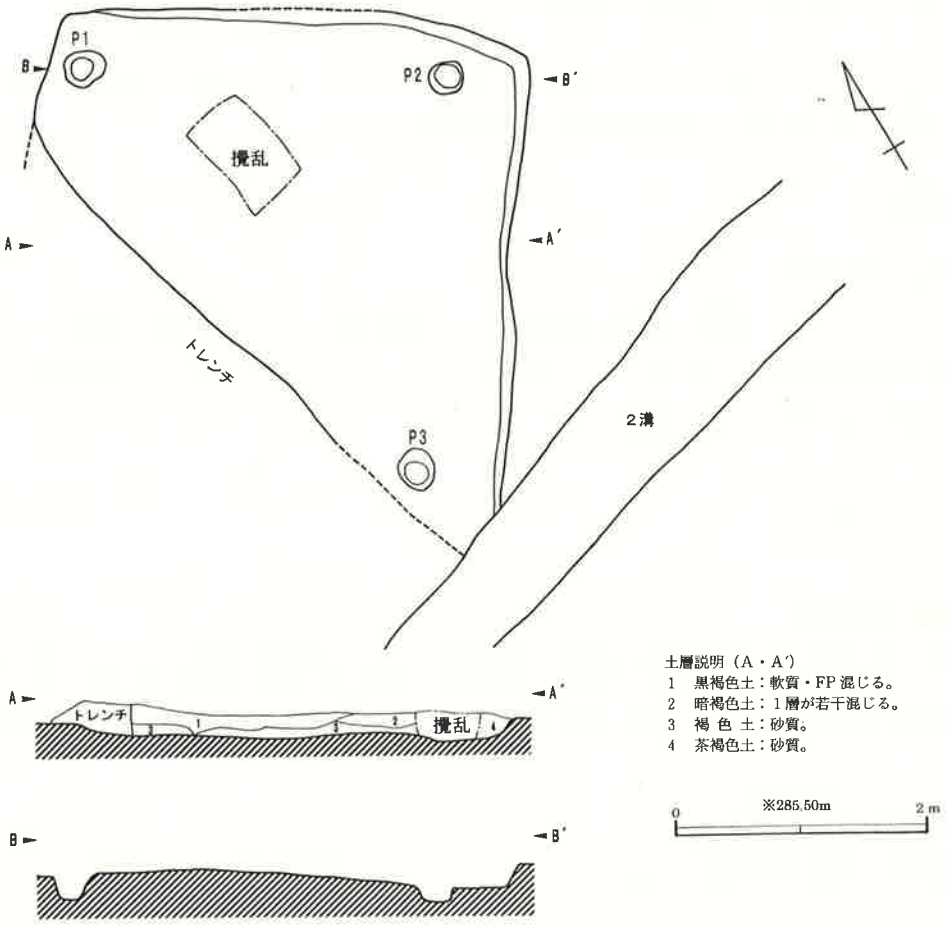
第15号住居址（第59図）

位　置―26―28・29グリッド　**規模・形状**―南西部をトレンチや第２号溝に切られ不明だが、方形ないし長方形プランと推定される。 **柱　穴**―Ｐ１～Ｐ３の３本が検出された。 **重　複**―第２号溝と重複する。

Pit番号	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３
深さ(cm)	20.0	11.5	13.5



第58図　第７号住居址（Ｓ＝１/60）



第59図　第15号住居址（S＝1/60）

第60図　第15号住居址出土遺物（S＝1/3・1/1）

第15号住居址出土土器観察表（第60図）

番号	種類 器種	法量(cm)	釉薬または①胎土 ②色調③焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
1	焼締陶器 甕	口径　— 底径　— 器高　—	①黒色粒子・小礫 ②褐灰色③焼締	甕の肩部破片。常滑系か。	

第15号住居址出土貨幣観察表（第60図）

番号	銭名	外径	重量	備考
2	元祐通宝	2.4cm	2.6g	

B．掘立柱建物址

第１号掘立柱建物址（第61・62図）

位　置―24～26―30・31グリッドの範囲　**規模・形状**―13.6m×7.0mの範囲に80基のピットが検出された。主軸方向は北東―南西方向にあるとみられるが柱穴配置は不明である。数度の建て替えがあったものと推察される。建物北側で素掘りの井戸址が２基検出された(第１・２号井戸址)。 **重　複**―なし。

第２号掘立柱建物址（第64図）

位　置―25～27―32・33グリッドの範囲　**規模・形状**―16.2m×9.9mの範囲に105基のピットが検出された。第１号掘立柱建物址と同じく主軸方向は北東―南西方向にあるとみられるが柱穴配置は不明である。第１号掘立柱建物址同様数度の建て替えがあったものと推察される。 **重　複**―なし。

第１号掘立柱建物址出土石製品観察表（第63図）

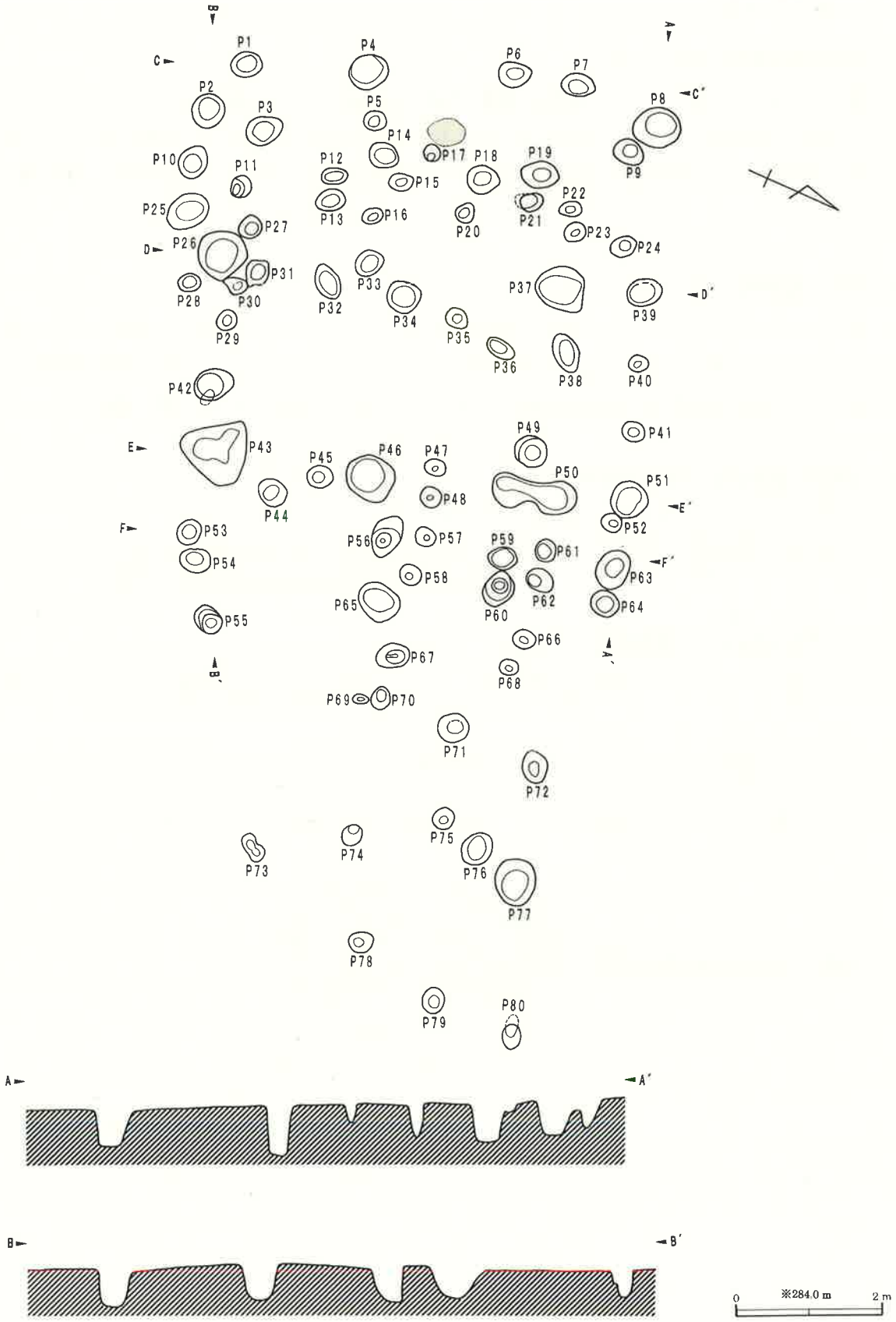
番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　　考
1	砥　石	14.0cm	3.0cm	1.9cm	88ｇ	２面使用。２面に製作調整痕のこる。

第２号掘立柱建物址出土土器観察表（第63図）

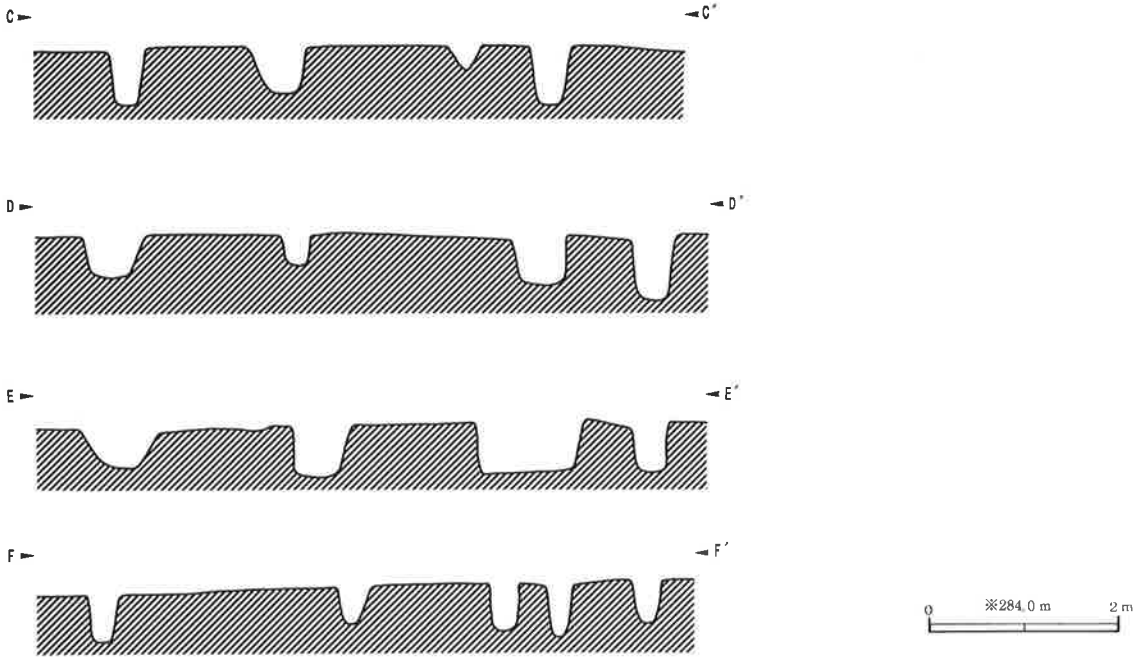
番号	種 類 器 種	法量(cm)	釉薬または①胎土 ②色調③焼成	形態・成形・技法の特徴	備 考
1	陶　器 皿	口径　11.2 底径　4.4 器高　3.8	青緑釉	見込蛇目釉はぎ。 肥前系。	
2	陶　器 灯 明 皿	口径　8.2 底径　3.6 器高　1.7	鉄釉	底部回転糸切り未調整。	

第２号掘立柱建物址出土石製品観察表（第63図）

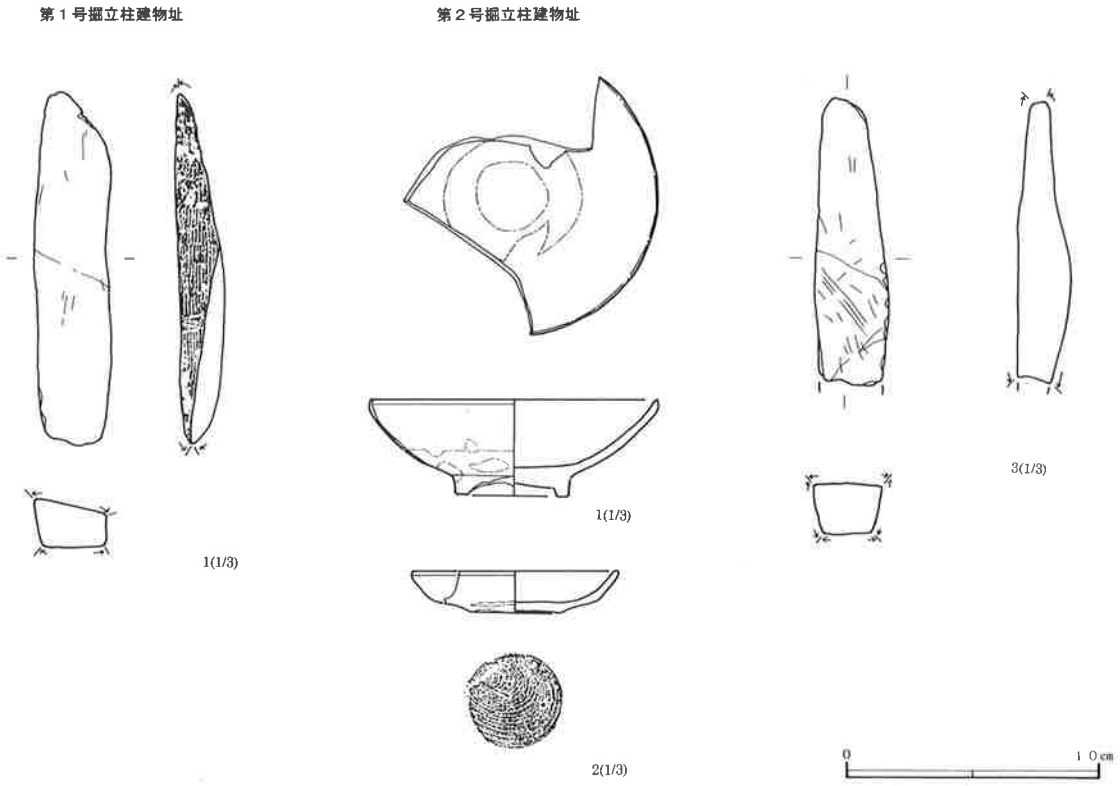
番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　　考
3	砥　石	11.4cm	2.9cm	2.0cm	80ｇ	４面使用。端部欠損。



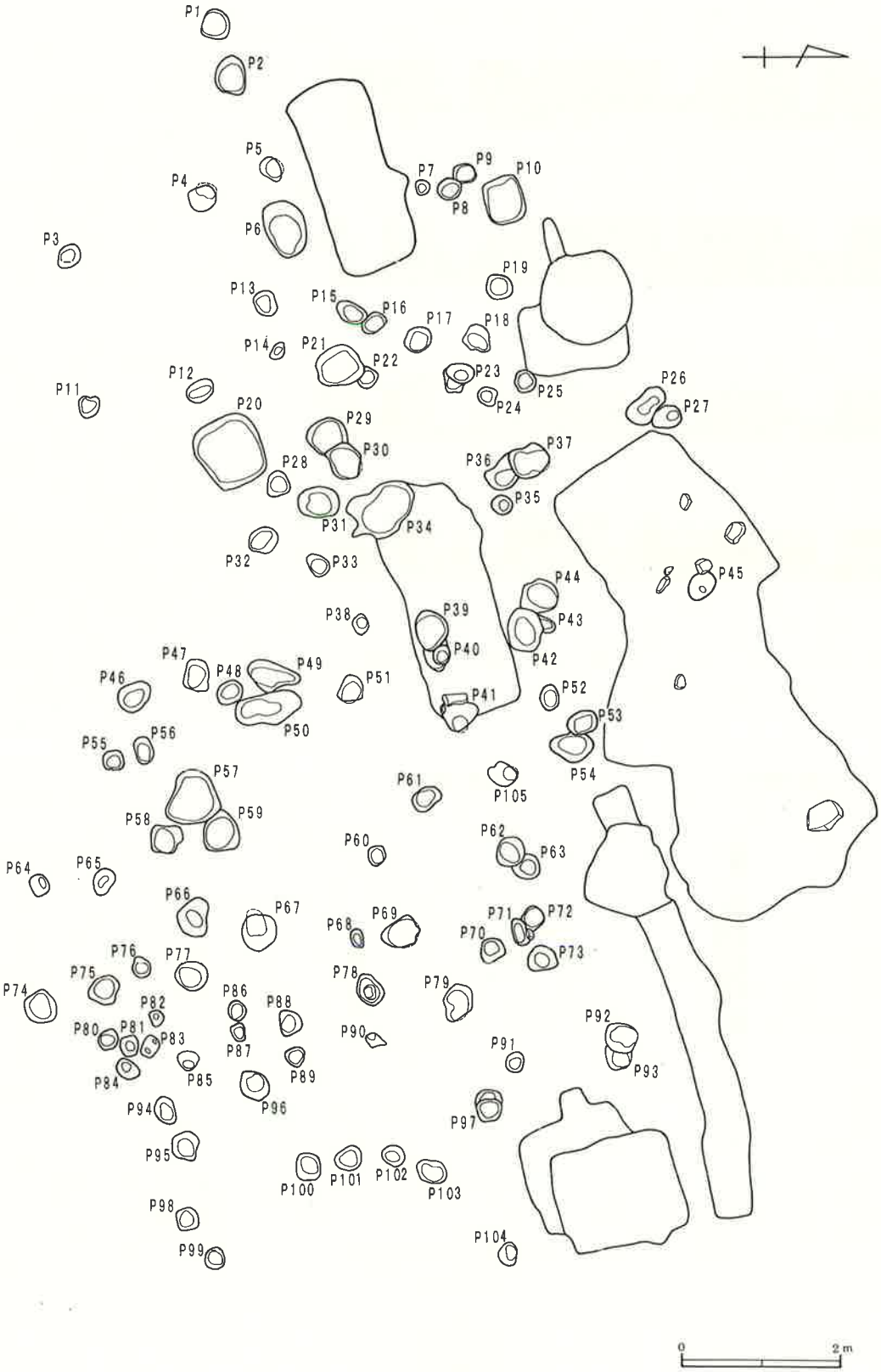
第61図　第１号掘立柱建物址①（S＝1/80）



第62図　第１号掘立柱建物址②（S＝1/80）



第63図　第１・２号掘立柱建物址出土遺物（S＝1/3）

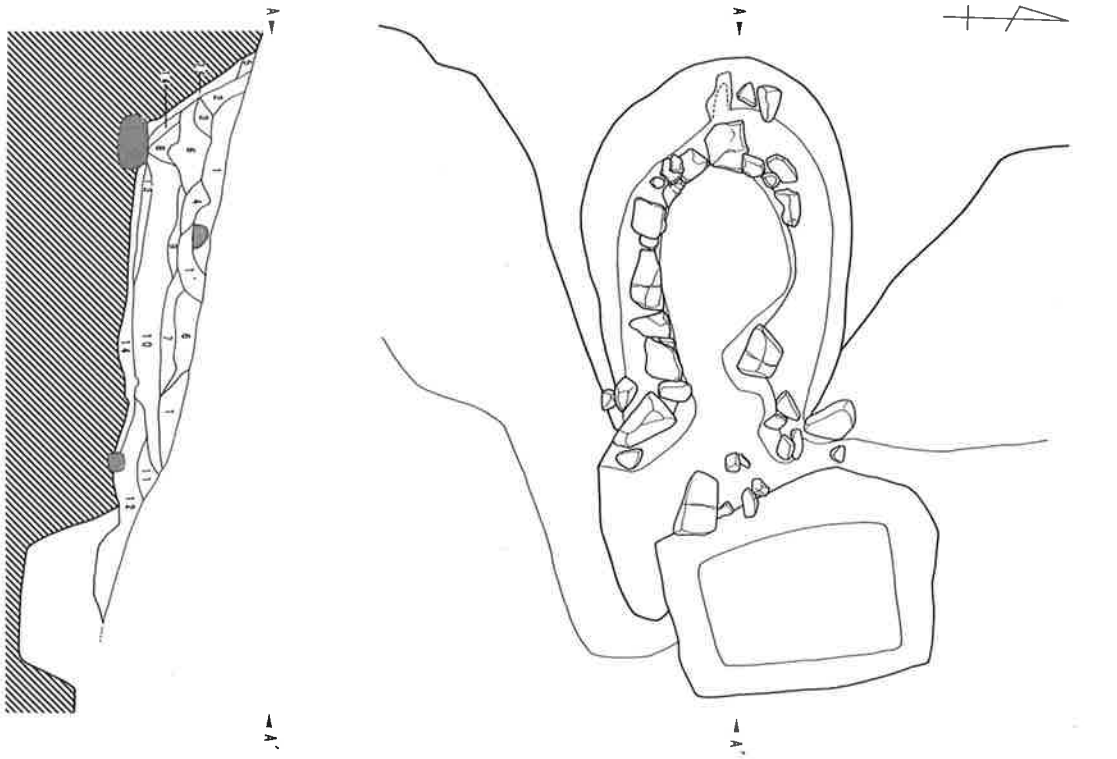


第64図　第２号掘立柱建物址（S＝1/80）

C．炭窯址

第１号炭窯址（第65図）

位　置―32―37グリッド　**規模・形状**―長軸3.3m・短軸2.1mの規模で楕円形を呈し、東に焚き口・西に煙道を持つ。焚き口は最大幅1.2mを測る。燃焼部は長軸0.8m・短軸0.5～1.2mで「ハ」字状を呈す。燃成部は長軸1.6m・短軸1.1mを測り、楕円形を呈す。焚き口・燃焼部・燃成部とも根石部分のみ残存する。焚き口東側の土坑は伴うものかどうか不明である。土層観察から焼土層の水平堆積が２面認められ、数度の操業が推察される。また炭化材が検出されていないことから、完成した炭はすべて持ち出されているようである。　**重　複**―第５号溝と重複する。



土層説明（A・A′）
1　黒褐色土：軟質。しまりなし。若干ローム粒・焼土粒含む。
1′　黒褐色土：ブロック状に硬くしまる。若干ローム粒・焼土粒含む。
2　赤褐色土：しまりあり。焼土粒を多く含む。
3　赤褐色土：２層に類す。砂質。若干しまりあり。
4　暗褐色土：ブロック状に硬くしまる。
5　褐 色 土：軟質。１層・ソフトローム含む。
6　赤褐色土：焼土ブロック主体。若干生粘土ブロックを含む。
7　赤褐色土：９層に類し、９層より色調暗い。
8　黒褐色土：軟質。しまりなし。焼土粒・生粘土ブロック混じる。
9　赤褐色土：焼土主体。若干生粘土ブロック含む。
10　明褐色土：しまりあり。ザラつく。生粘土ブロックを多量に含む。
11　暗褐色土：若干しまりあり。焼土・生粘土ブロック・礫混じる。
12　黒 色 土：軟質。しまりなし。焼土粒・ロームブロック混じる（焚き口）。
13　黒 色 土：軟質。しまりなし。焼土粒・生粘土ブロック混じる。
14　赤褐色土：焼土。
15　褐 色 土：軟質。しまりなし。

第65図　第１号炭窯址（S＝1/60）

D．溝　址

第１号溝（第66図）

位　置―23～32―29～33グリッドの範囲　**規模・形状**―23―30グリッド付近及び29―29グリッド付近で南折し、「冂」字状に台地を囲む。B-B'で上幅3.5m・下幅0.2m・深さ1.5mを測り、断面形は薬研堀に近い形状を呈す。第２号溝南辺、第２・３号溝とほぼ平行して走る。 **重　複**―第７・17・18号住居・第37・38・43号土坑・第３号井戸址と重複する。

第２・３号溝（第67図）

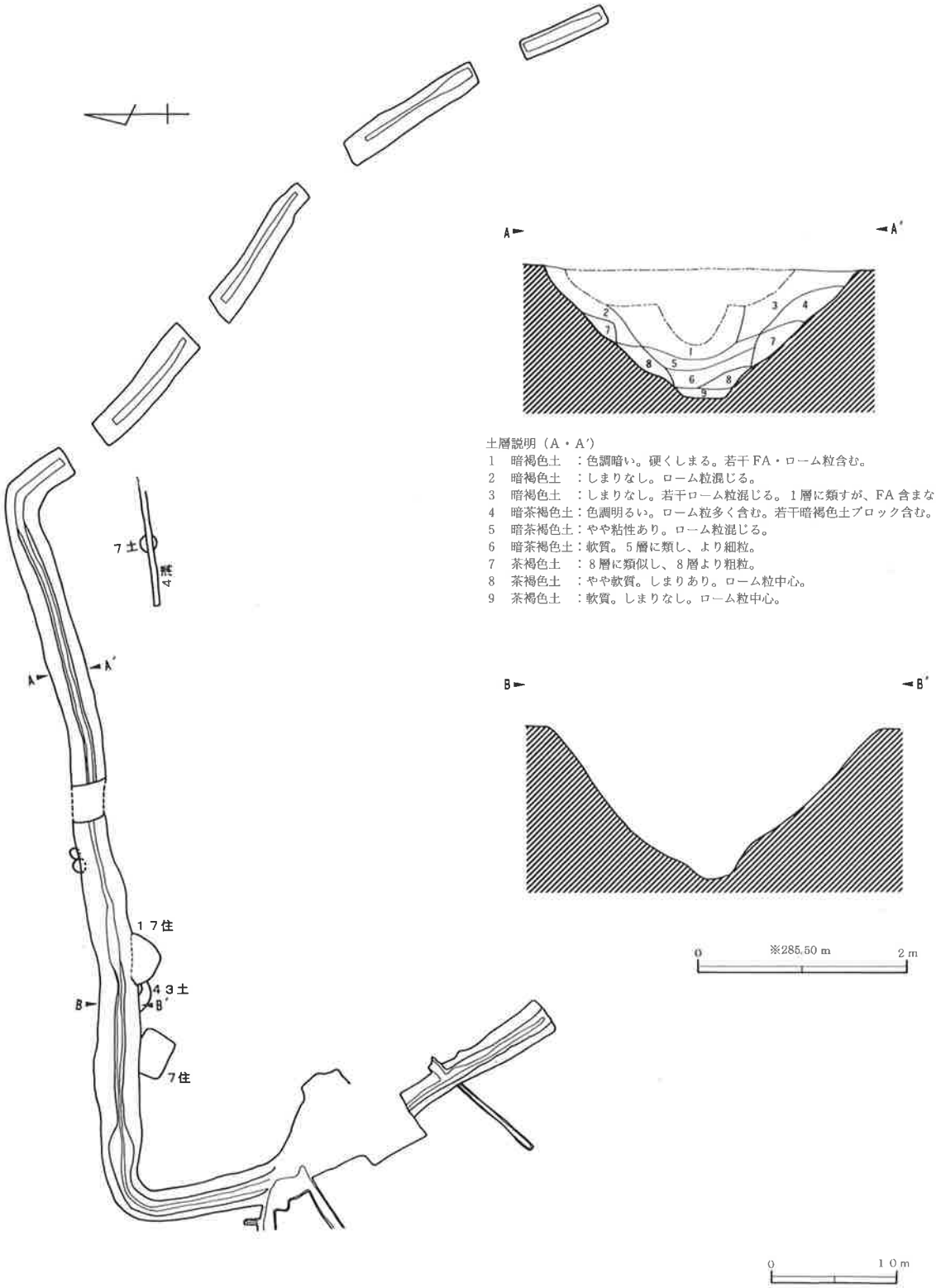
位　置―22～28―26～31グリッドの範囲　**規模・形状**―28―28グリッド付近で第２号溝と第３号溝が合流して西へのび、23―30グリッド付近で南折する。第２号溝南辺及び合流地点以西は第１号溝とほぼ平行する。E-E'地点では上幅1.6m・下幅0.3m・深さ55cmを測り、断面は段を持ってゆるやかに立ち上がる。第２号溝は第１号溝の北約２mのところで検出され、「コ」字状を呈す。上幅0.6～1.2m・下幅0.2～0.6m・深さ30～50cmを測り、断面形は箱状を呈す。第３号溝は調査区際で検出され、ほぼ等高線に沿って南下する。28―28グリッド付近で第２号溝と合流し西へのびる。上幅0.7～1.2m・下幅0.2～0.5m・深さ30～50cmを測り、断面形は箱状を呈す。 **重　複**―第２・４・５・10・12・13・14・15号住居址・第26・39号土坑と重複する。

第４号溝（第68図）

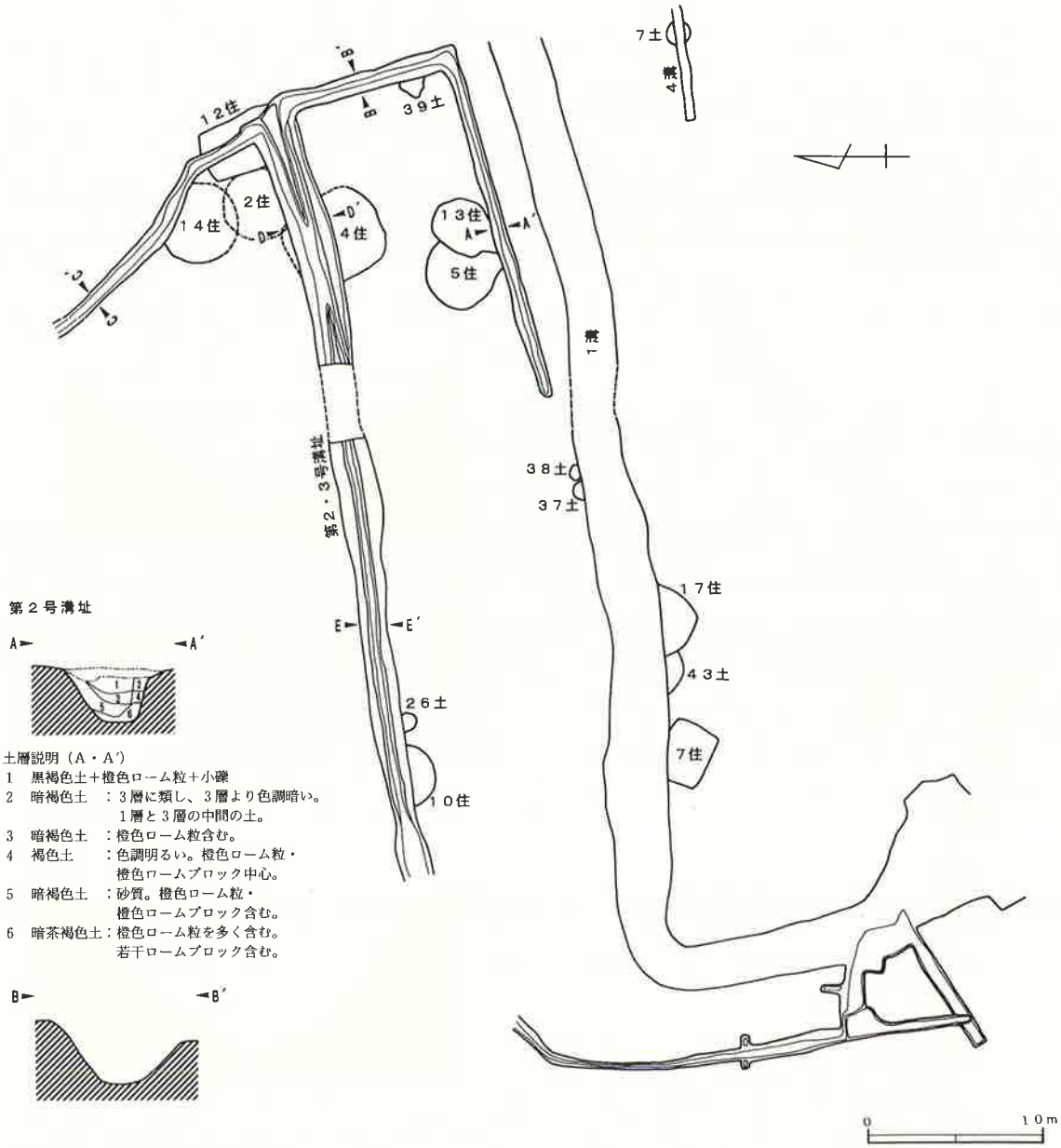
位　置―28・29―30グリッドの範囲　**規模・形状**―上幅0.5m前後・下幅0.3m前後・深さ20cm前後を測り、断面形は箱状を呈す。 **重　複**―第７号土坑と重複する。

第５号溝（第69図）

位　置―29～32―34～39グリッドの範囲　**規模・形状**―32―34グリッド付近で南折する。西側は調査区外のため不明だが、台地を囲むような形状と推定される。A-A'で上幅3.4m・下幅0.2m・深さ1.6mを測り、断面形は薬研堀に近い形状を呈す。 **重　複**―第１号炭窯址と重複する。

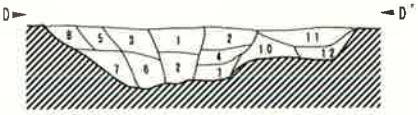


第66図　第1号溝（S＝1/500・1/60）



第3号溝址

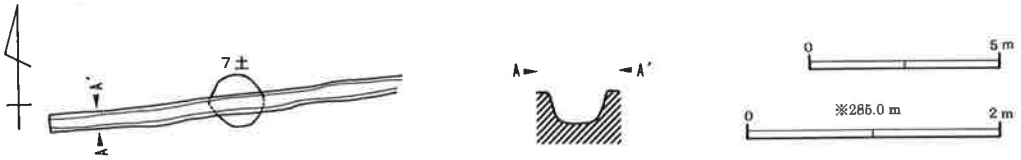
第2・3号溝址



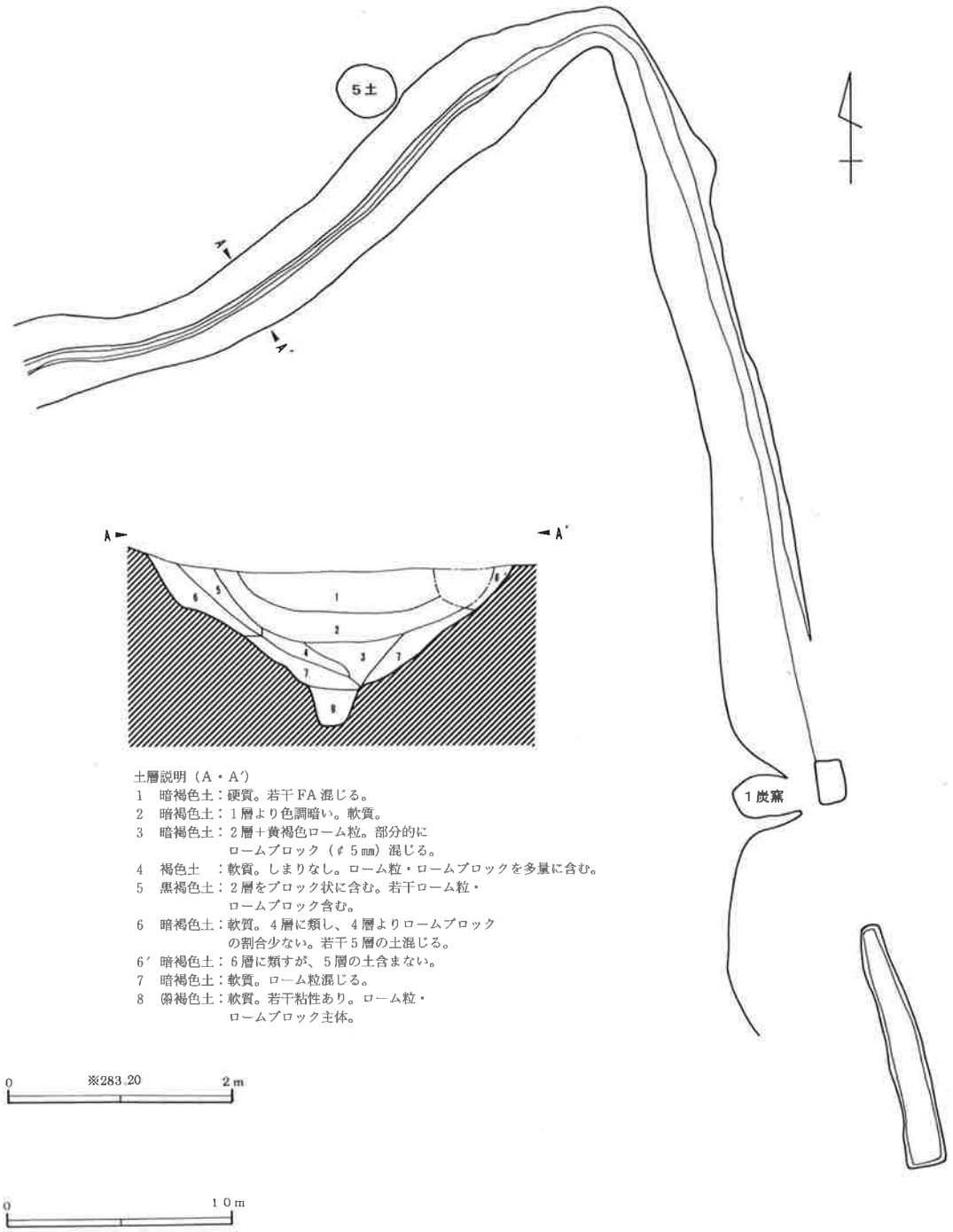
土層説明（D・D′）
1　暗橙色砂質土
2　暗褐色砂質土：1層よりしまりなし。
3　暗褐色砂質土：若干橙色ロームブロック混じる。
4　暗橙色砂質土：2層に類し、2層より色調暗い。
5　暗褐色砂質土：3層に類すが、3層よりしまりなし。
若干橙色ロームブロック混じる。
6　暗褐色砂質土：しまりあり。
7　暗褐色土　：色調明るい。ロームブロック混じる。
8　暗褐色砂質土：しまりあり。橙色ロームブロックを30％程含む。
9　暗褐色砂質土：5層に類し、5層よりしまりなし。

0　※285.50 m　2 m

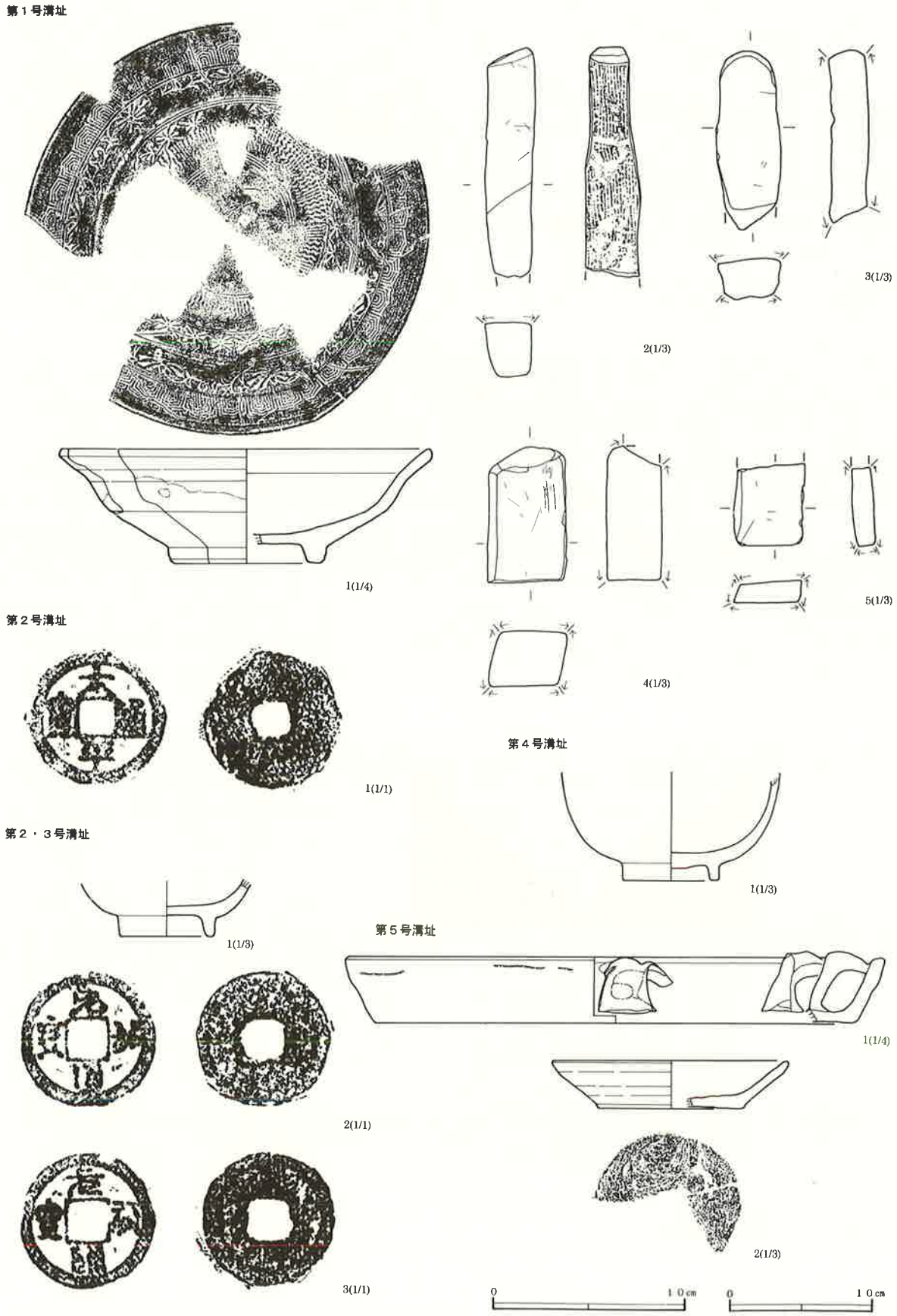
第67図　第2・3号溝（S＝1/400・1/60）



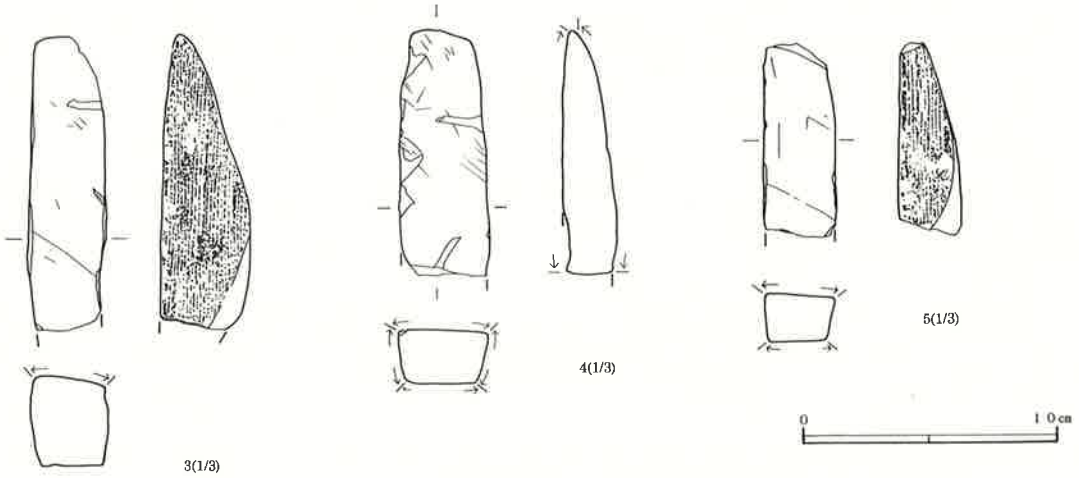
第68図　第４号溝（S＝1/200・1/60）



第69図　第５号溝（S＝1/300・1/60）



第70図　溝址出土遺物①（S＝1／3・1／4・1／1）



第71図　溝址出土遺物②（S＝1／3）

第1号溝出土土器観察表（第70図）

番号	種類 器種	法量(cm)	釉薬または①胎土 ②色調③焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
1	陶器 鉢	口径　25.8 底径　10.0 器高　8.0	二彩三島手	見込砂目。 肥前系。	

第1号溝出土石製品観察表（第70図）

番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
2	砥石	12.0cm	2.5cm	1.8cm	129g	1面使用。3面に製作調整痕のこる。両端欠損。
3	砥石	9.0cm	3.3cm	2.1cm	107g	2面使用。端部欠損。
4	砥石	7.1cm	3.6cm	2.9cm	164g	4面使用。端部欠損。
5	砥石	4.3cm	3.4cm	1.1cm	30g	4面使用。端部欠損。

第2号溝出土貨幣観察表（第70図）

番号	銭名	外径	重量	備考
1	太平通宝	2.4cm	2.4g	

第2・3号溝出土土器観察表（第70図）

番号	種類 器種	法量(cm)	釉薬または①胎土 ②色調③焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
1	陶器 碗	口径　— 底径　4.8 器高　—	刷毛ぬり	唐津系。	

第2・3号溝出土貨幣観察表（第70図）

番号	銭名	外径	重量	備考
2	元祐通宝	2.4cm	2.2g	
3	元祐通宝	2.4cm	1.7g	

第４号溝出土土器観察表（第70図）

番号	種類 器種	法量(cm)	釉薬または①胎土 ②色調③焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
1	陶器 碗	口径 — 底径 4.9 器高 —	灰釉	瀬戸美濃系。	

第５号溝出土土器観察表（第70図）

番号	種類 器種	法量(cm)	釉薬または①胎土 ②色調③焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
1	土器 焙烙	口径 37.2 底径 33.6 器高 4.6	①黒色粒②灰白色 ③瓦質	体部外面スス付着。	
2	土器 かわらけ	口径 (12.2) 底径 7.6 器高 2.5	①黒色粒②橙色 ③普通	体部外面横ナデ。 底部回転糸切り未調整。 内外面やや磨滅。	

第５号溝出土遺物出土石製品観察表（第71図）

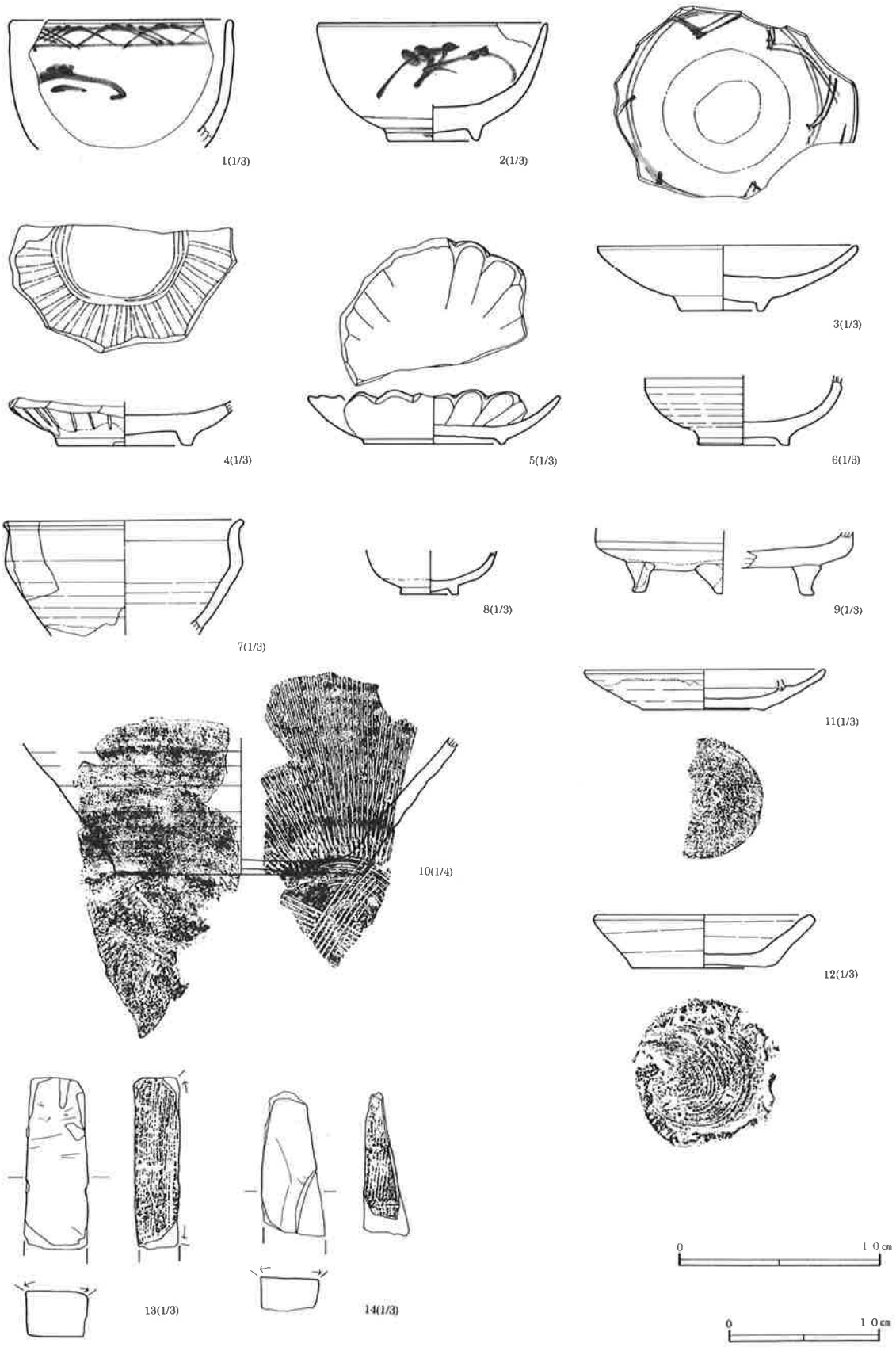
番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
3	砥石	11.6cm	3.0cm	3.6cm	168g	1面使用。3面に製作調整痕のこる。端部欠損。
4	砥石	9.7cm	3.5cm	2.2cm	113g	4面使用。3面に製作調整痕のこる。端部欠損。
5	砥石	7.6cm	2.8cm	1.9cm	68g	1面使用。3面に製作調整痕のこる。端部欠損。

E．井戸址

本遺跡では３基の井戸址が検出され、２基は素掘の井戸址（第１号井戸址・第２号井戸址）であり、１基は石組みの井戸址（第３号井戸址）である。第１号井戸址は24・25—30グリッドに位置し、長軸0.9m・短軸0.8m・深さ2.0mを測る。第２号井戸址は25—30グリッドに位置する。楕円形を呈し、長軸1.4m・短軸1.2m・深さ1.4mを測る。第１号井戸址よりやや大きい。両井戸は第１号掘立柱建物址北側で並列して検出された。第３号井戸址は23—31グリッドに位置する石組みの井戸址である。径1.7mの不整円形を呈すとみられる。本井戸址の東西にそれぞれ集石が検出されていることから、周囲に石敷きの水場遺構が存在した可能性がある。本井戸址内及び周辺より近世の陶磁器等が検出された（第79図参照）。

第３号井戸址出土土器観察表（第72図）

番号	種類 器種	法量(cm)	釉薬または①胎土 ②色調③焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
1	陶器 碗	口径 (10.9) 底径 — 器高 —	陶胎染付	肥前系。 四方襷文。山水絵。	
2	磁器 碗	口径 11.4 底径 5.8 器高 4.4	染付	肥前系。 草花文。	



第72図　第３号井戸址出土遺物（Ｓ＝１／３・１／４）

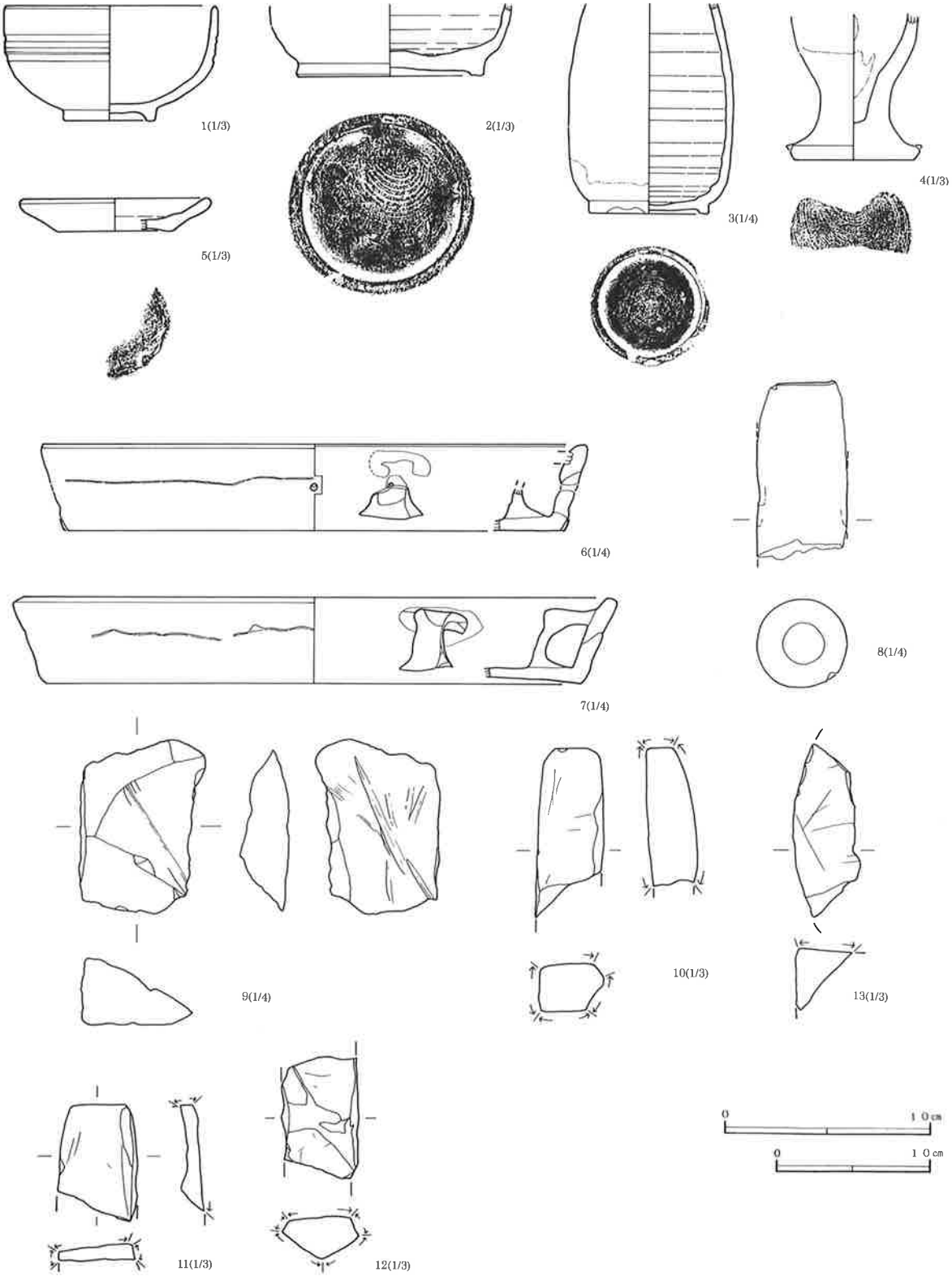
3	磁　器 皿	口径　(12.8) 底径　4.2 器高　3.3	染付	見込蛇目釉はぎ 格子目文。	
4	陶　器 菊　皿	口径　— 底径　6.7 器高　—	灰釉	瀬戸美濃系。	
5	陶　器 菊　皿	口径　(12.6) 底径　7.0 器高　2.7	長石系の釉	瀬戸美濃系。 二次的な被熱を受ける。	
6	陶　器 腰錆碗	口径　— 底径　4.4 器高　—	掛分け	瀬戸美濃系。	
7	陶　器 天目碗	口径　12.0 底径　— 器高　—	黒色釉	瀬戸美濃系。	
8	陶　器 小　碗	口径　— 底径　2.9 器高　—	灰釉	体部下半は無釉。 内面に被熱痕。	
9	陶　器 香炉？	口径　— 底径　9.6 器高　—	鉄釉	底部付近及び脚は無釉。	
10	陶　器 擂　鉢	口径　— 底径　16.7 器高　—	鉄釉	砂粒を多く含む。丹波信楽系か。	
11	陶　器 灯明皿	口径　(12.0) 底径　6.0 器高　2.0	鉄釉	内面は全面、外面は体部中位まで施釉。	
12	土　器 かわらけ	口径　10.6 底径　6.9 器高　2.7	①黒色粒②にぶい黄橙色③良好	内面ロクロ調整。 外面ナデ調整。 底部回転糸切り未調整。	

第3号井戸址出土石製品観察表（第72図）

番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　　考
13	砥　石	8.6cm	3.1cm	2.3cm	120g	1面使用。4面に製作調整痕のこる。端部欠損。
14	砥　石	7.0cm	3.0cm	2.1cm	50g	1面使用。3面に製作調整痕のこる。端部欠損。

F．阿弥陀畑地区

本遺跡では西側の調査区を中心に多くの石造物が検出された。特に14～22—22～29グリッドの範囲では特に多量の石造物や近世遺物が検出された。また近世のものとみられる暗渠も検出された（第78・79図、PL．7－1～3参照）。



第73図　阿弥陀畑地区出土遺物（S＝1/3・1/4）

阿弥陀畑地区出土土器観察表（第73図）

番号	種類 器種	法量(cm)	釉薬または①胎土②色調③焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
1	陶器 腰錆碗	口径 10.2 底径 4.4 器高 5.6	掛分け	瀬戸美濃系。	
2	陶器 徳利	口径 — 底径 9.0 器高 —	灰釉	底部付近は釉をふき取る。 底部回転糸切り後回転ヘラケズリ。	
3	陶器 徳利	口径 — 底径 7.7 器高 —	灰釉	底部付近は釉をふき取る。 底部回転糸切り後回転ヘラケズリ。	
4	陶器 仏花瓶	口径 — 底径 (5.8) 器高 —	掛分け	底部回転糸切り未調整。	
5	土器 かわらけ	口径 9.0 底径 5.4 器高 1.6	①黒色粒②浅黄橙色③良好	内面ロクロ調整。 外面ナデ調整。 底部回転糸切り未調整。	
6	土器 焙烙	口径 35.4 底径 32.6 器高 5.7	①黒色粒②褐灰色③瓦質	外面横にスス付着。 焼成後体部中位に穿孔。	
7	土器 焙烙	口径 39.6 底径 35.0 器高 5.7	①黒色粒②褐灰色③瓦質	外面横スス付着。	

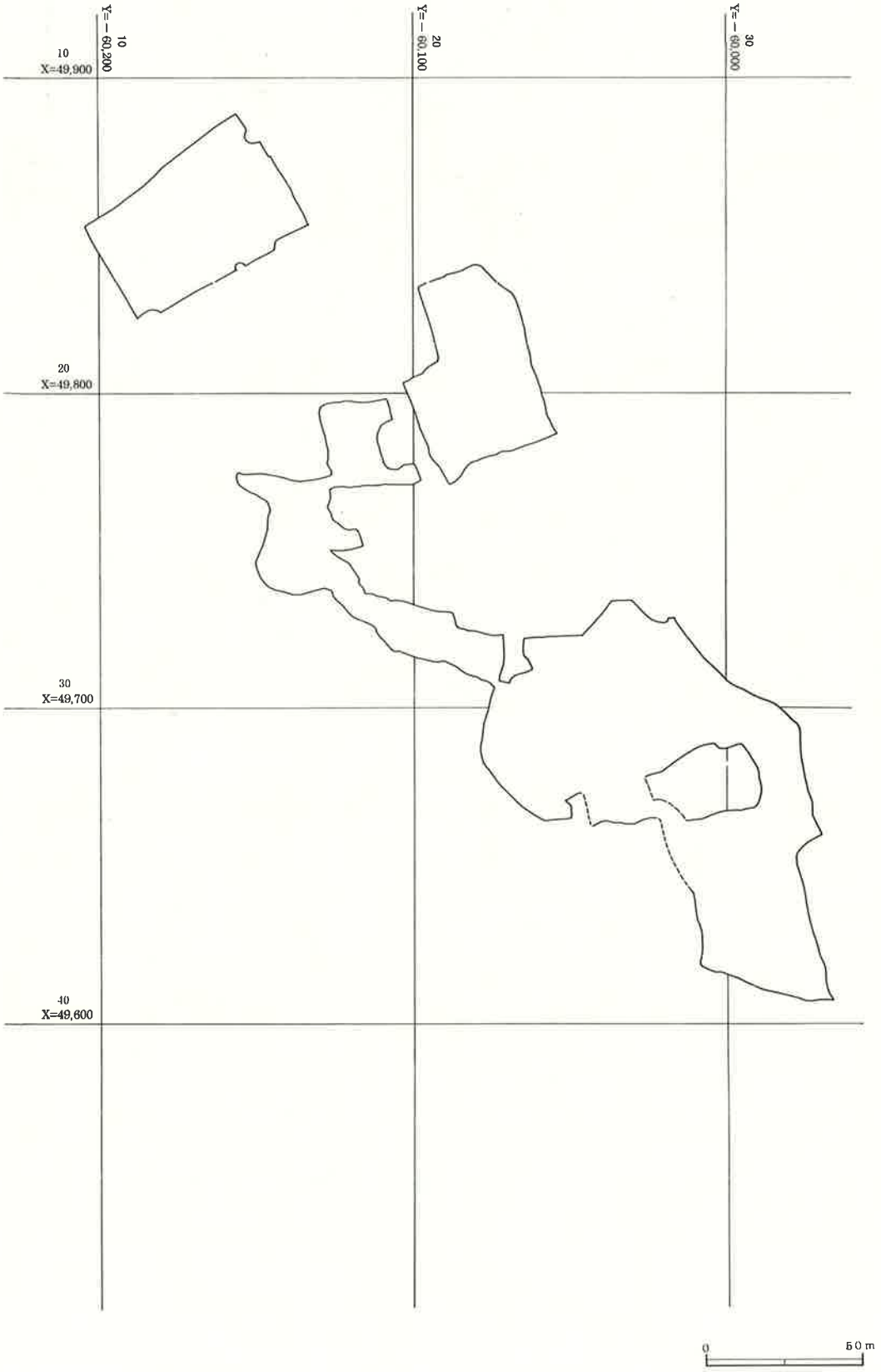
阿弥陀畑地区出土土製品観察表（第73図）

番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
8	羽口	11.4cm	5.8cm	5.8cm	231g	端部欠損。

阿弥陀畑地区出土石製品観察表（第73図）

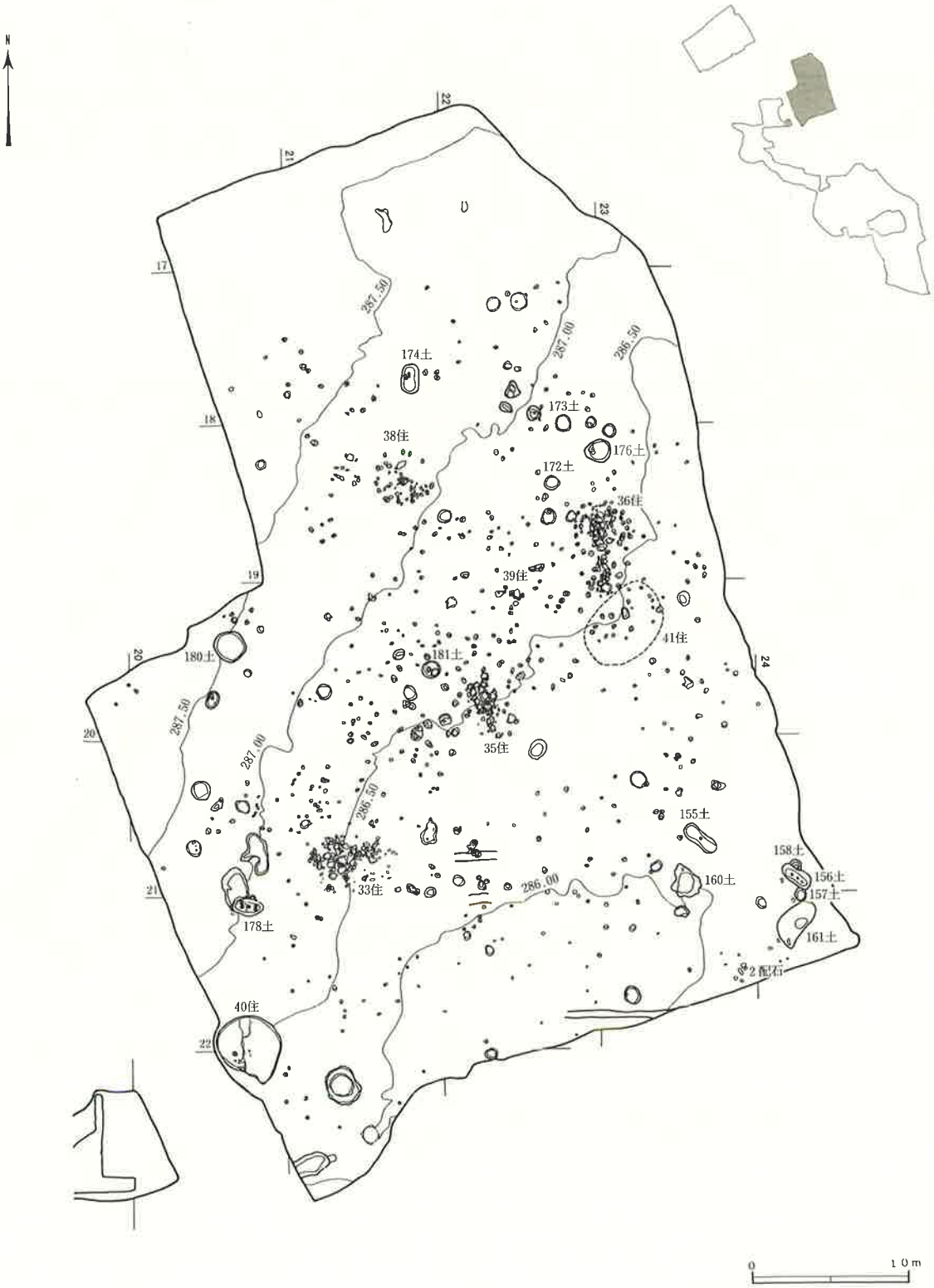
番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
9	砥石	11.3cm	8.2cm	4.3cm	296g	2面使用。
10	砥石	6.7cm	3.1cm	2.4cm	91g	5面使用。端部欠損。
11	砥石	5.7cm	3.8cm	1.2cm	30g	4面使用。端部・背面欠損。
12	砥石	5.9cm	3.7cm	2.1cm	53g	5面使用。両端部欠損。
13	茶臼	8.5cm	3.0cm	3.0cm	62g	

第74図　遺跡周辺図（S＝1/4,000）

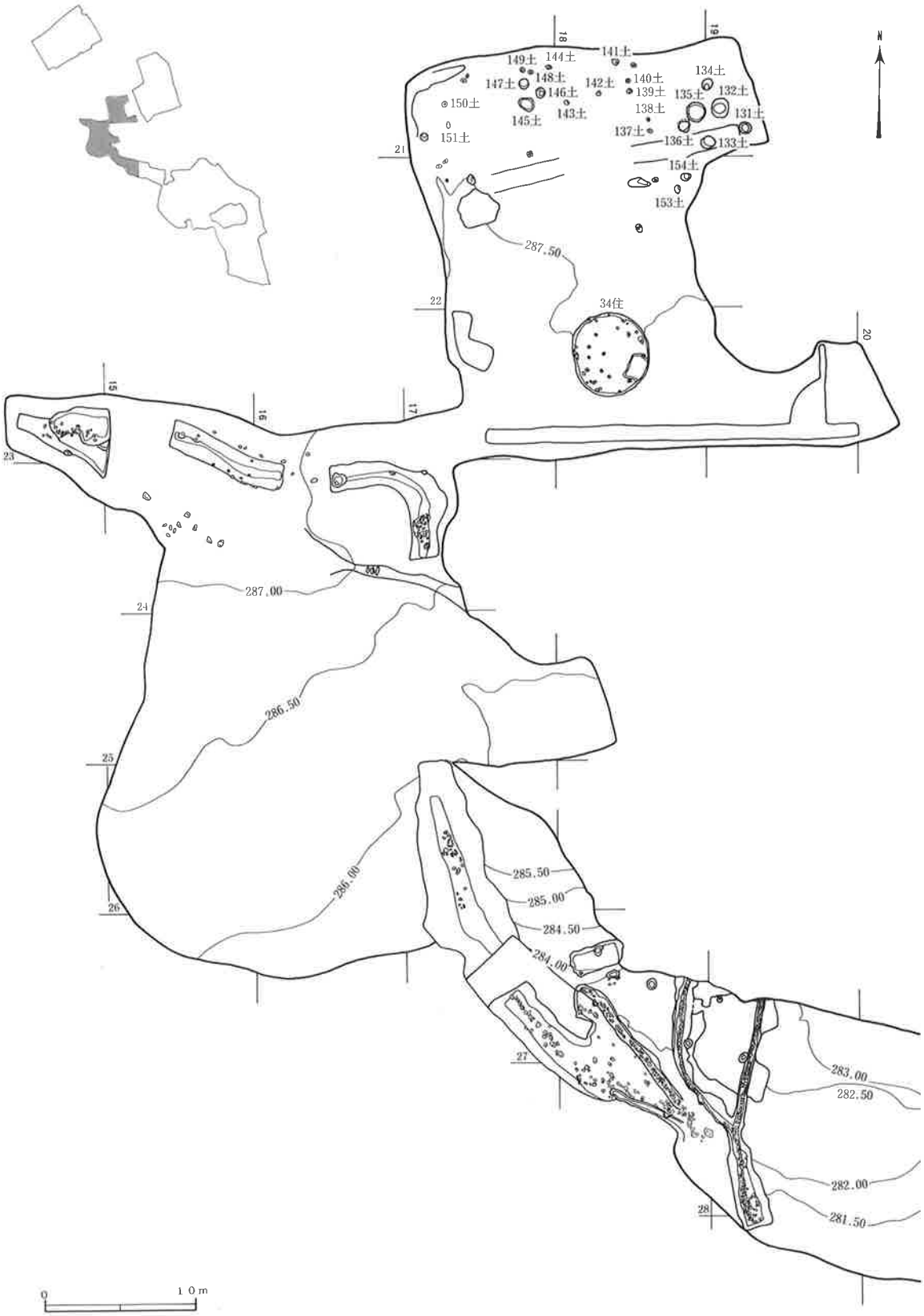


第75図　調査区全体図（S＝1/2,000）

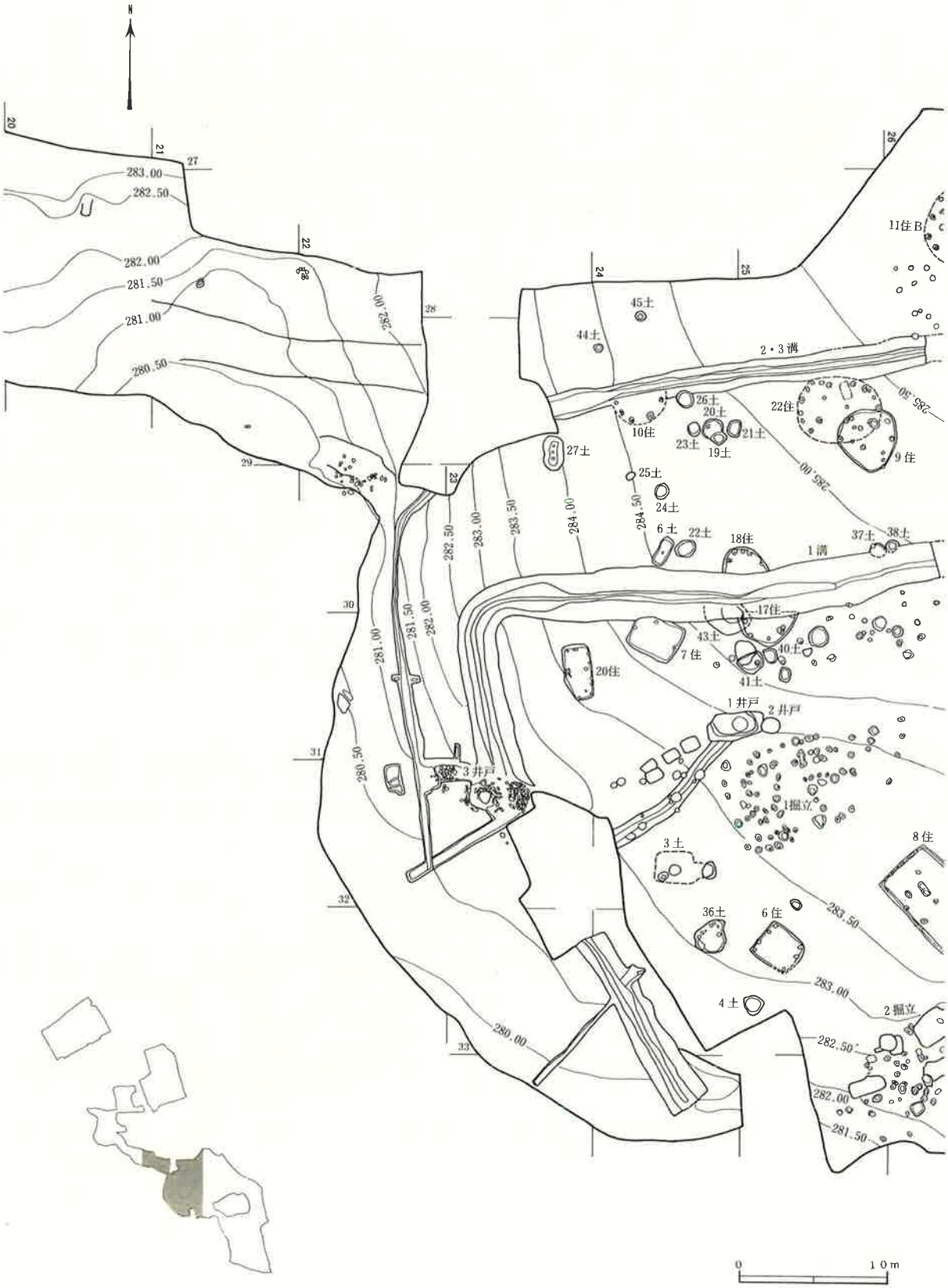
第76図　遺構全体図Ⅰ（S＝1/400）



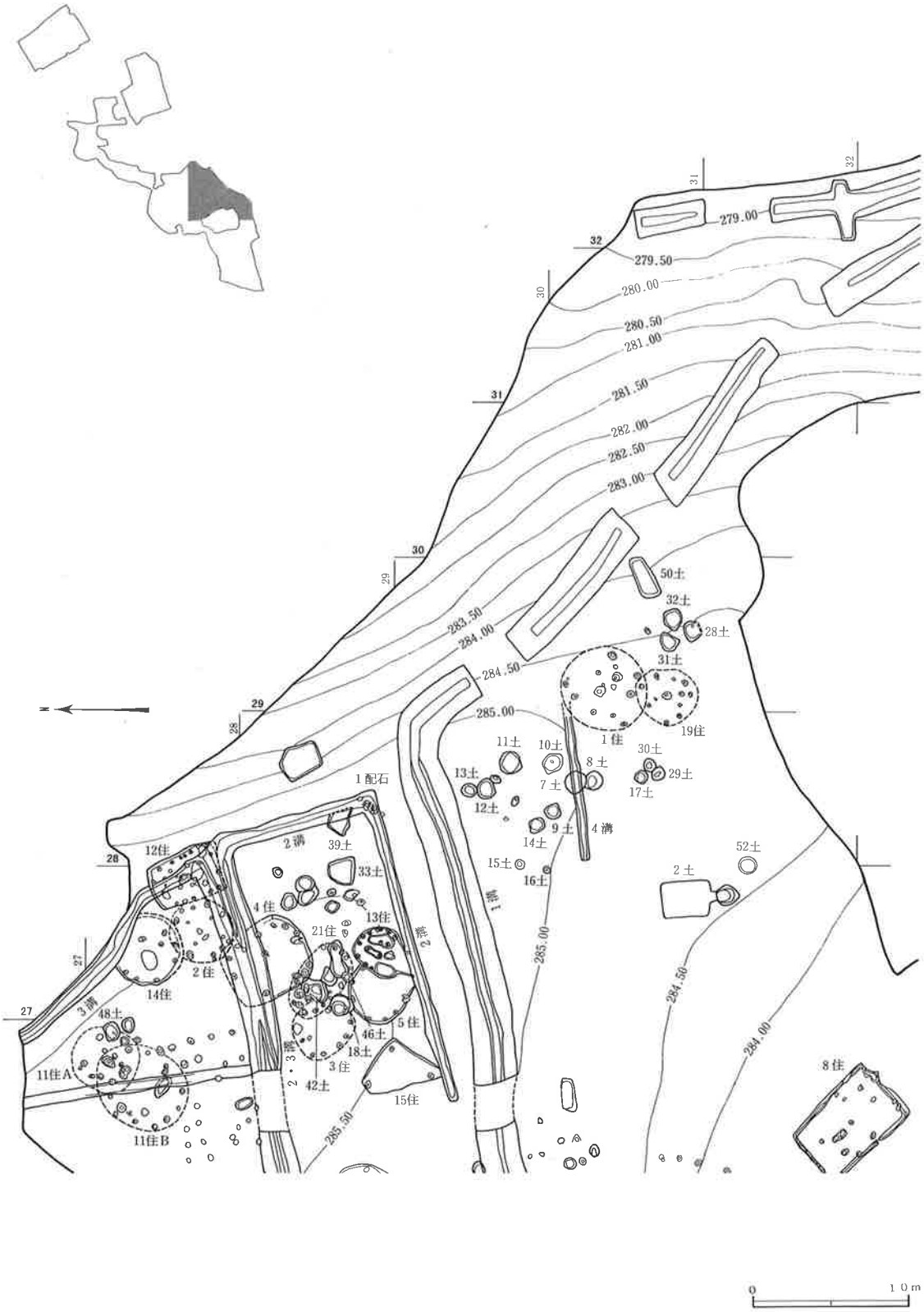
第77図　遺構全体図II（S＝1/400）



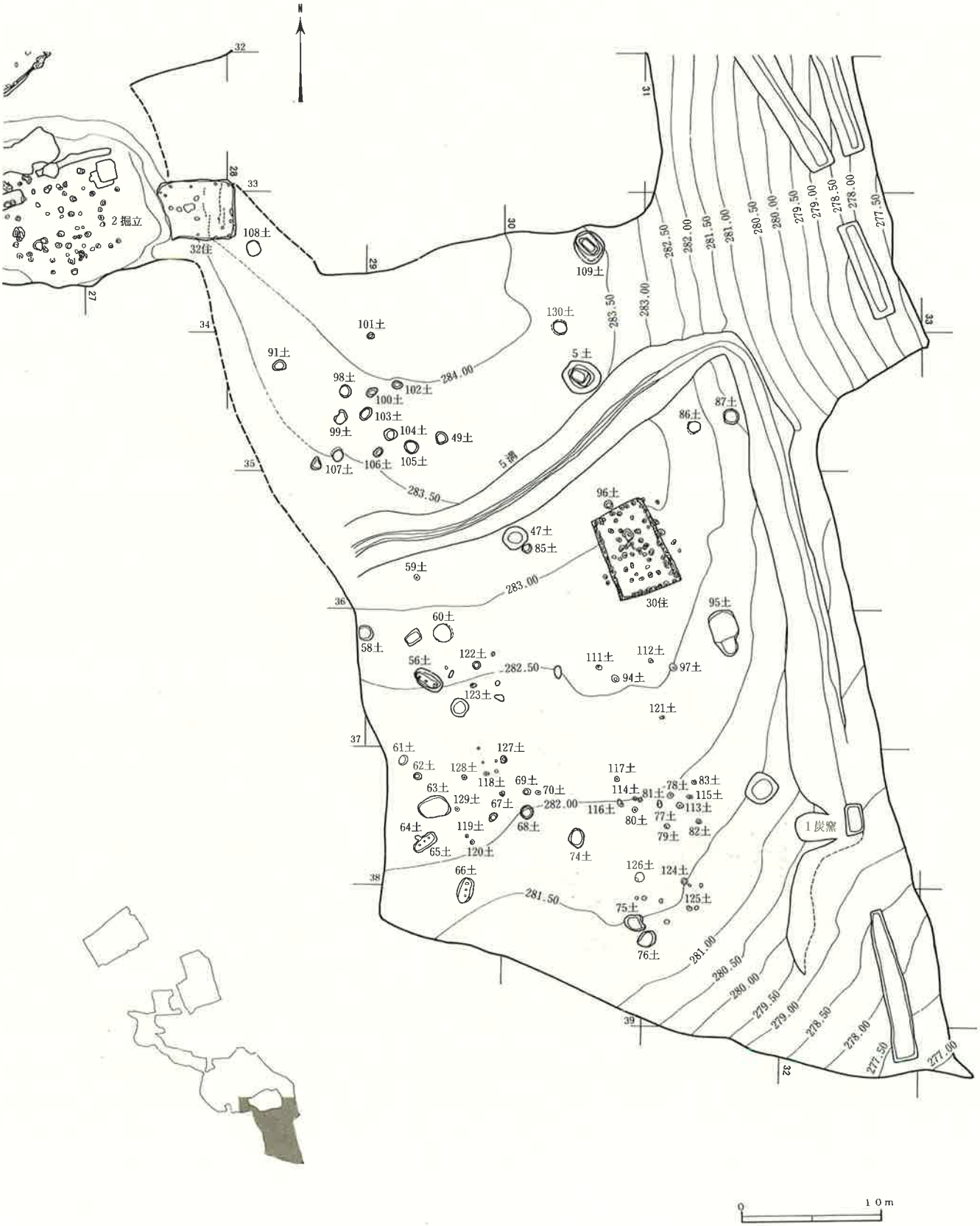
第78図　遺構全体図Ⅲ（S＝1/400）



第79図　遺構全体図Ⅳ（S＝1/400）



第80図　遺構全体図Ⅴ（S＝1/400）



第81図　遺構全体図Ⅵ（S＝1/400）

写真図版

1．第２号住居址炉址完掘状況

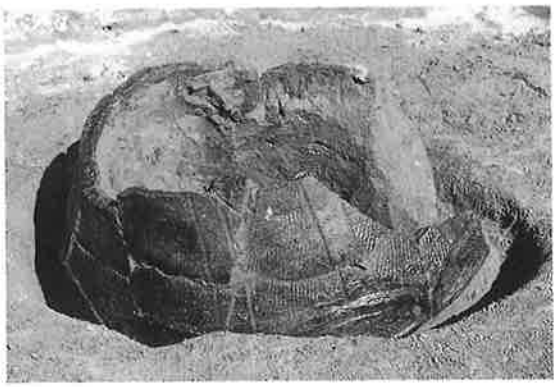
2．第３号住居址完掘状況

3．第４号住居址完掘状況

4．同炉址検出状況

5．第５号住居址完掘状況

6．第９号住居址遺物出土状況①



7．第９号住居址遺物出土状況②

8．第11号住居址Ａ埋甕検出状況

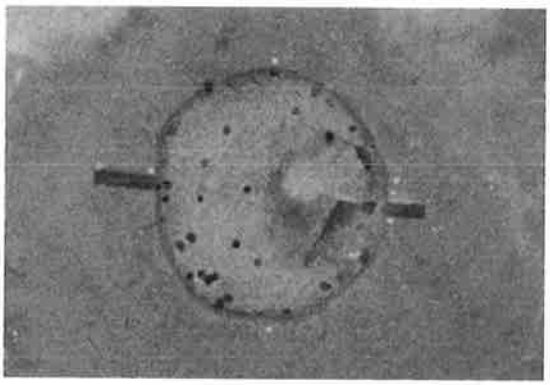
1．第13号住居址敷石状況

2．同炉址完掘状況

4．同炉址完掘状況

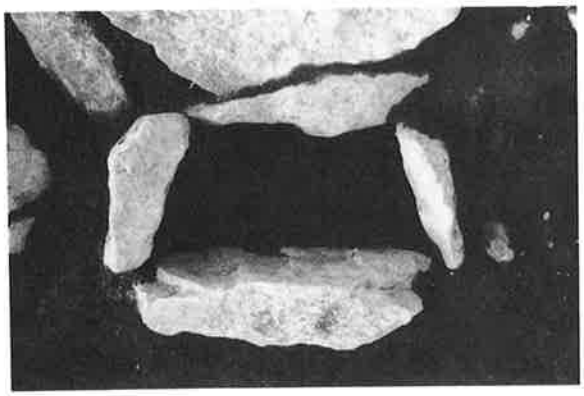
3．第33号住居址敷石状況

5．同炉内遺物検出状況



6．第34号住居址完掘状況

1．第35号住居址敷石状況



2．同石囲部完掘状況

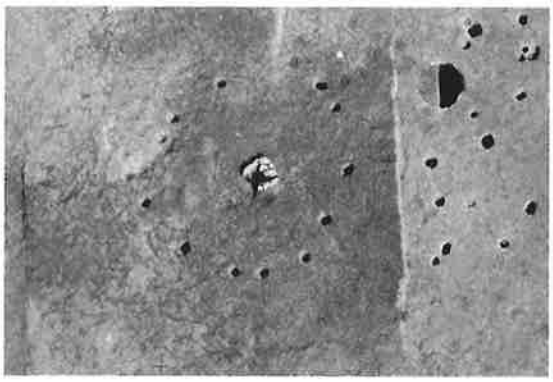
3．第36号住居址敷石状況

4．同炉址完掘状況

5．同1号埋甕検出状況

6．同2号埋甕検出状況

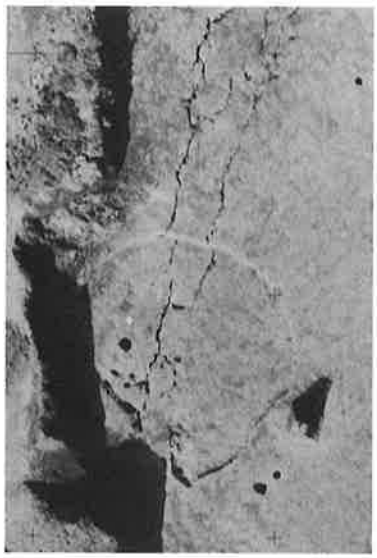
PL.4



1．第38号住居址完掘状況

2．同敷石・遺物検出状況

3．同炉址完掘状況



4．第40号住居址完掘状況

5．同住居址付近地割れ痕検出状況

6．第41号住居址完掘状況

1．第１号配石遺構検出状況

2．第２号配石遺構検出状況

3．第42号住居址完掘状況

4．同カマド完掘状況

5．第７号住居址完掘状況

6．第15号住居址土層観察状況

7．第１号掘立柱建物址完掘状況

8．第２号掘立柱建物址完掘状況

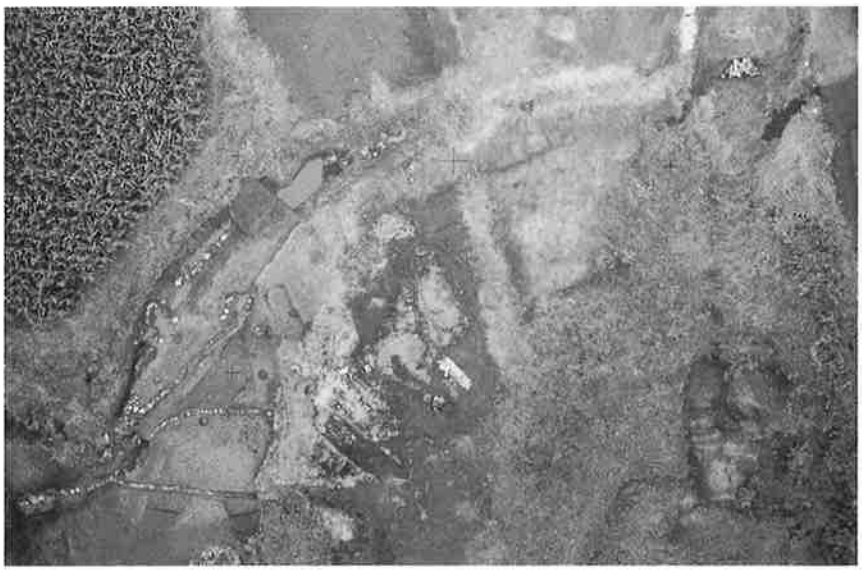
1．第１号炭窯址土層観察状況

2．第１号溝完掘状況①

3．第１号溝完掘状況②

4．第５号溝完掘状況①

5．第５号溝完掘状況②

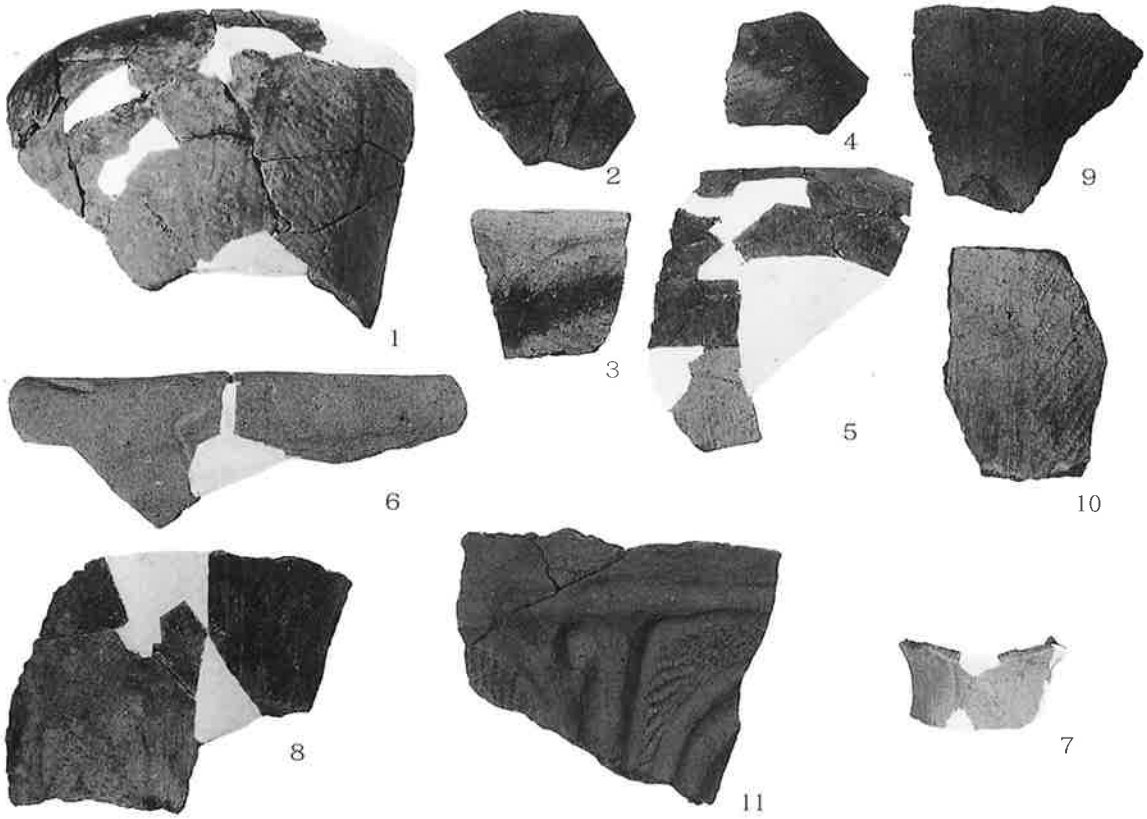


1．阿弥陀畑地区暗渠等検出状況

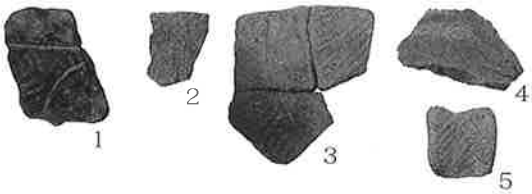
2．阿弥陀畑地区石造物集中部①

3．阿弥陀畑地区石造物集中部②

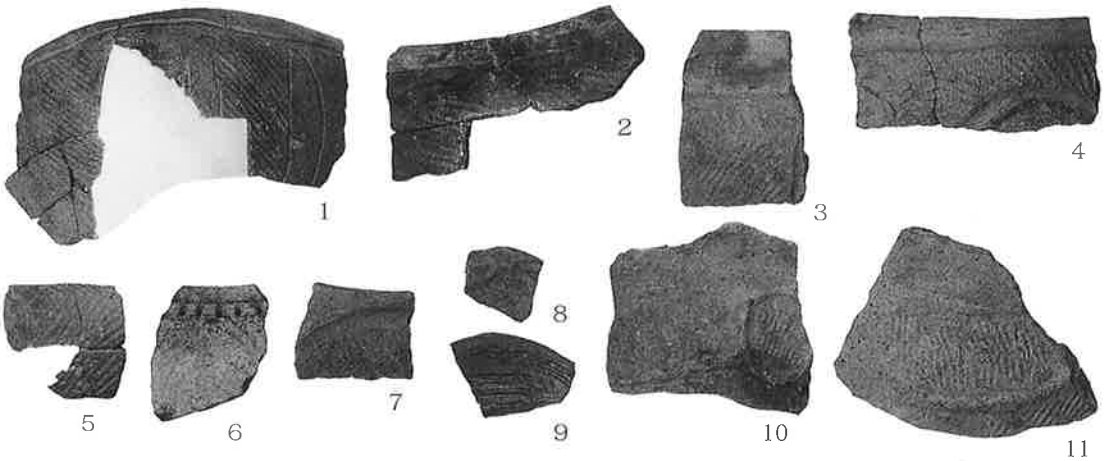
4．第３号井戸址完掘状況



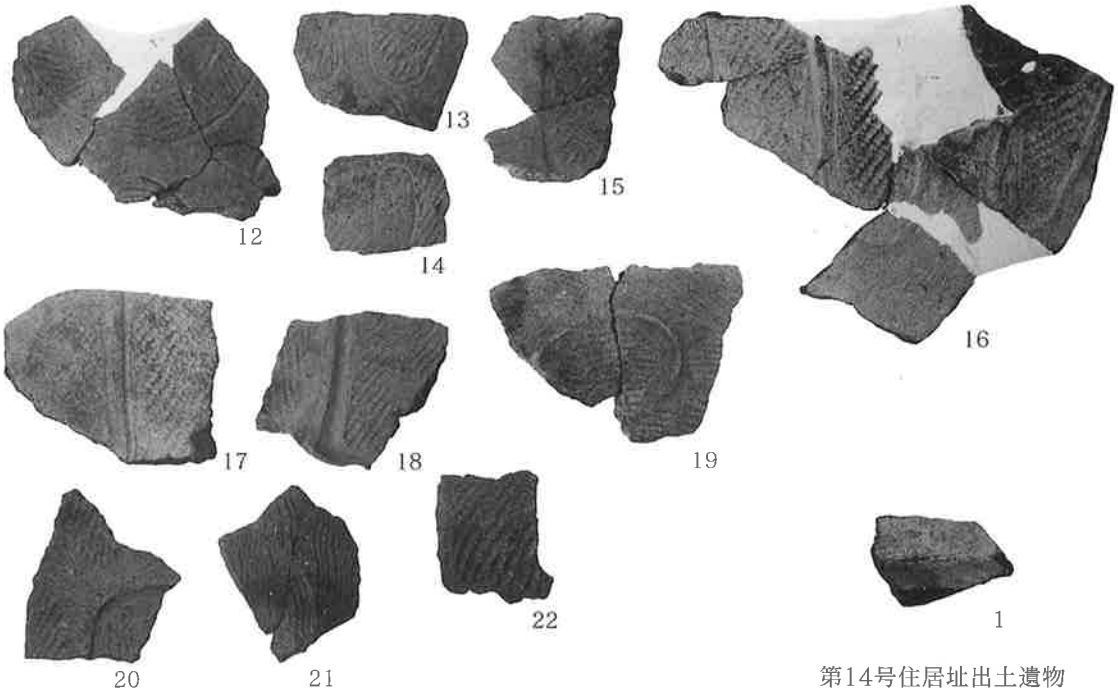
第１号住居址出土遺物



第19号住居址出土遺物

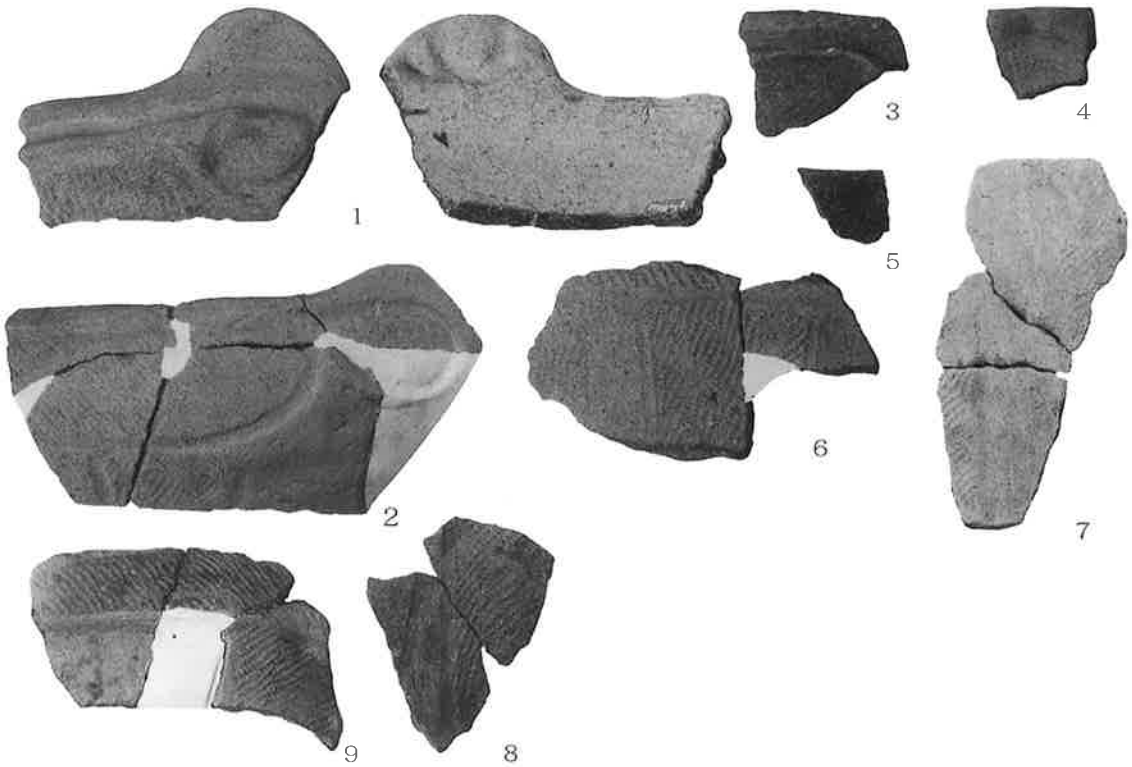


第２号住居址出土遺物①

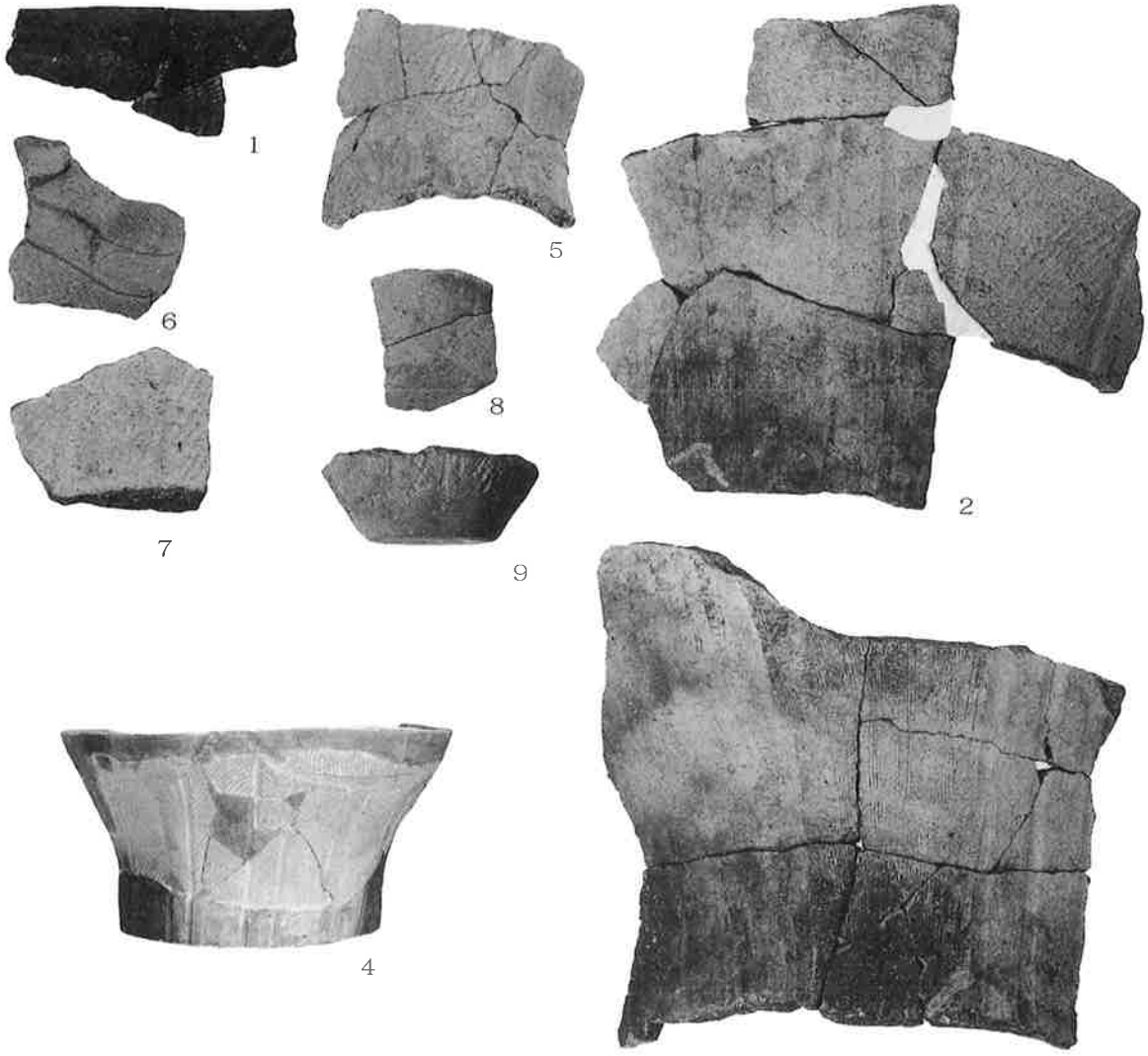


第２号住居址出土遺物②

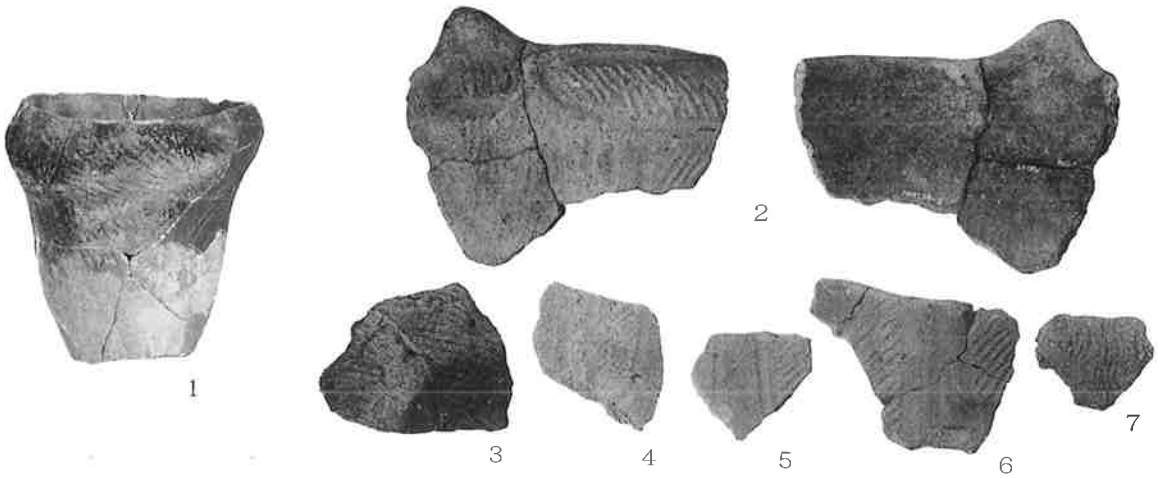
第14号住居址出土遺物



第３号住居址出土遺物

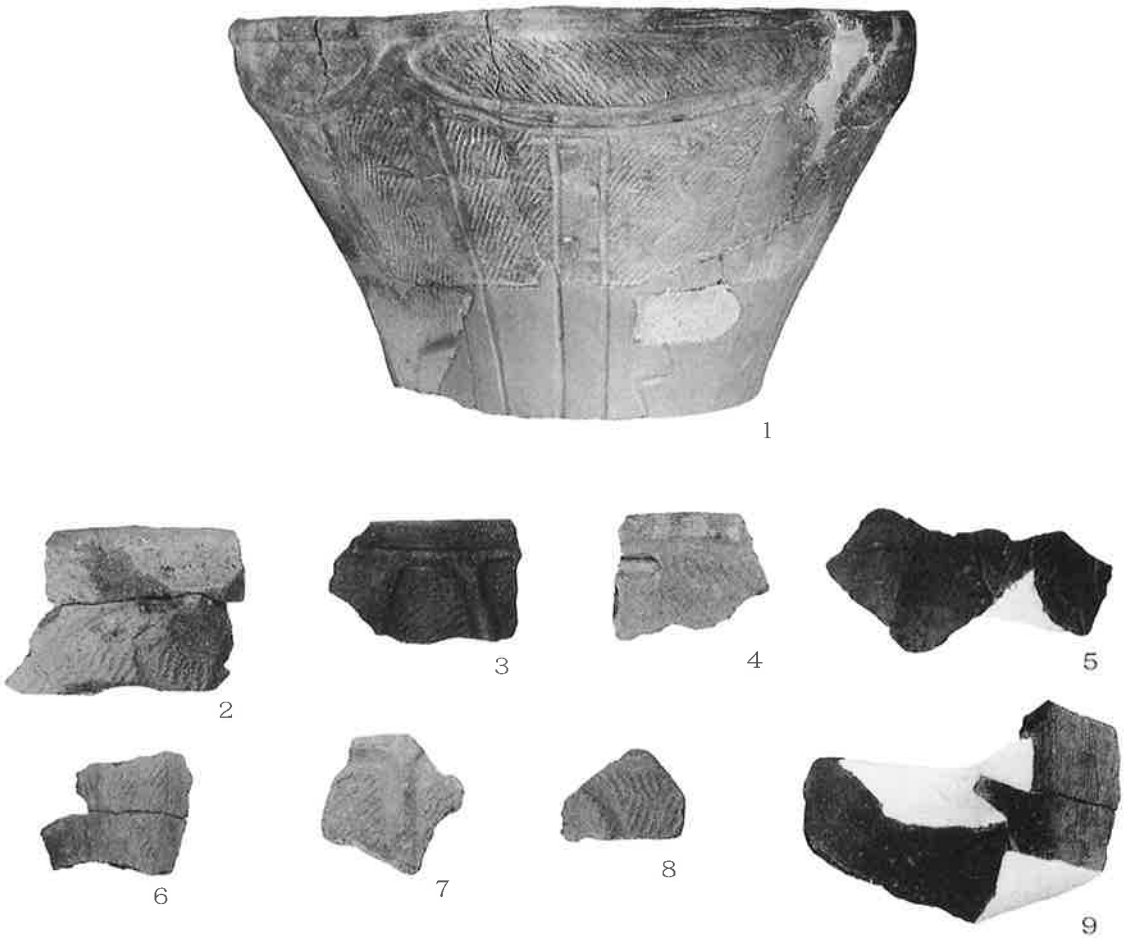


第21号住居址出土遺物



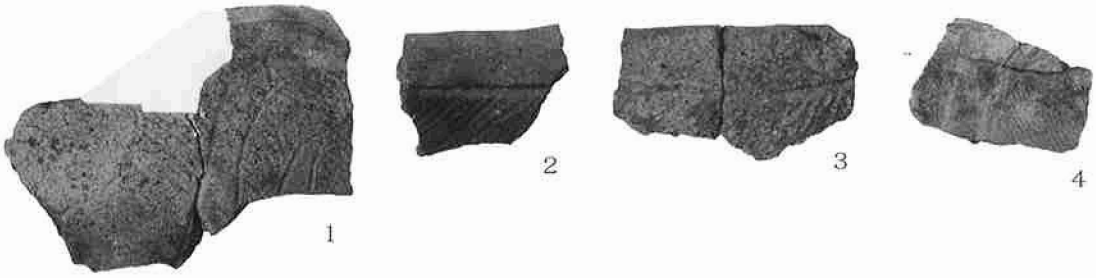
第4号住居址出土遺物

第５号住居址出土遺物

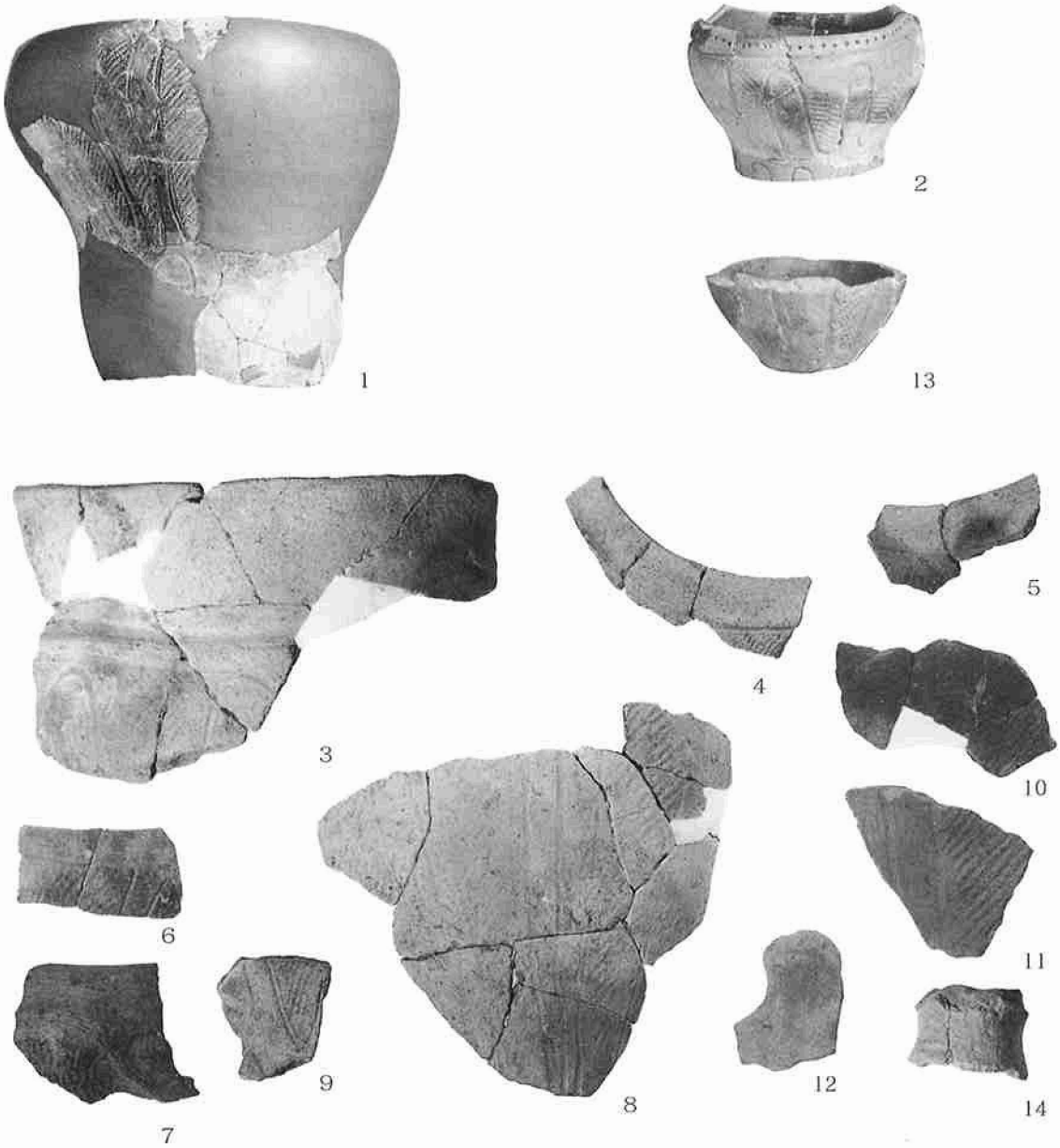


第９号住居址出土遺物

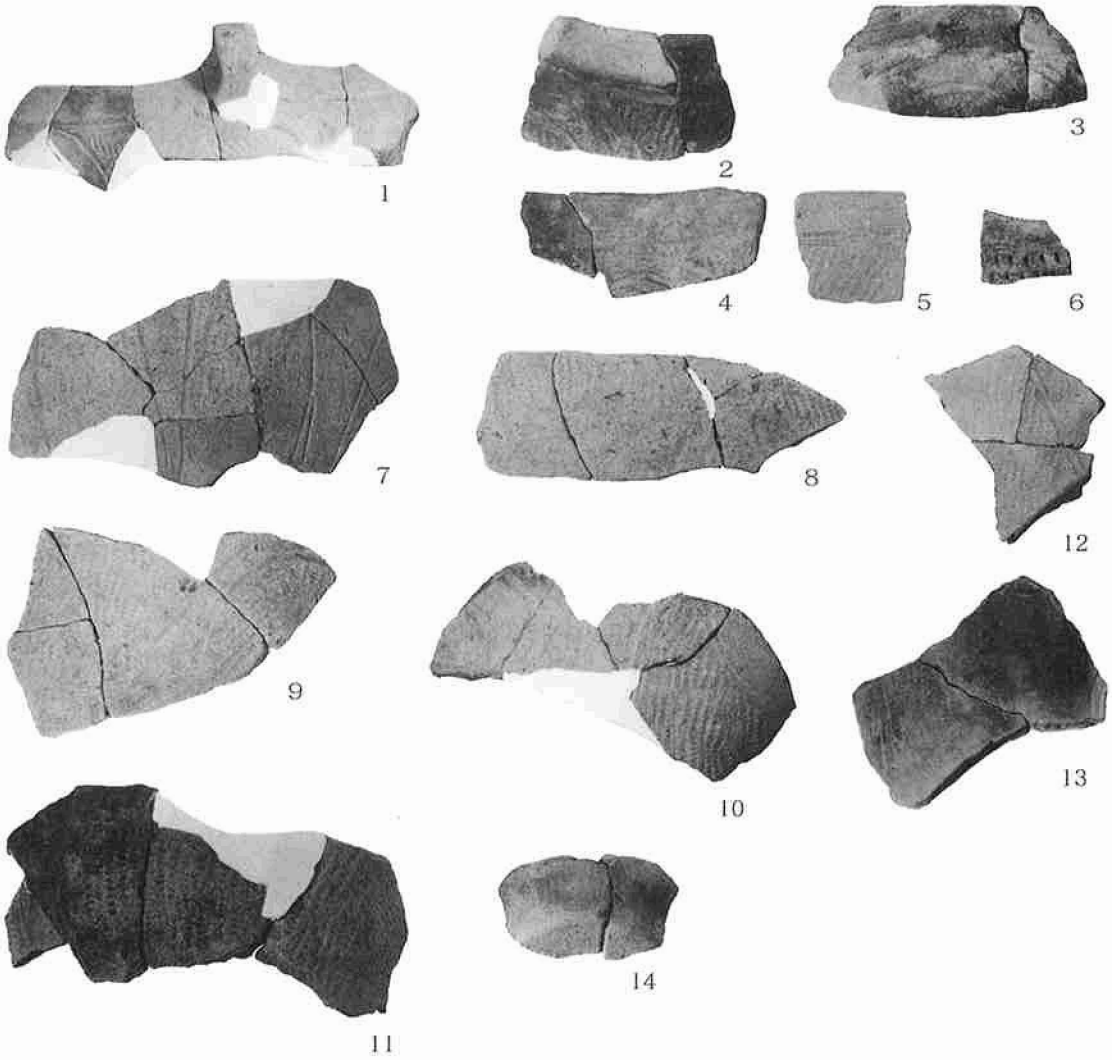
第22号住居址出土遺物



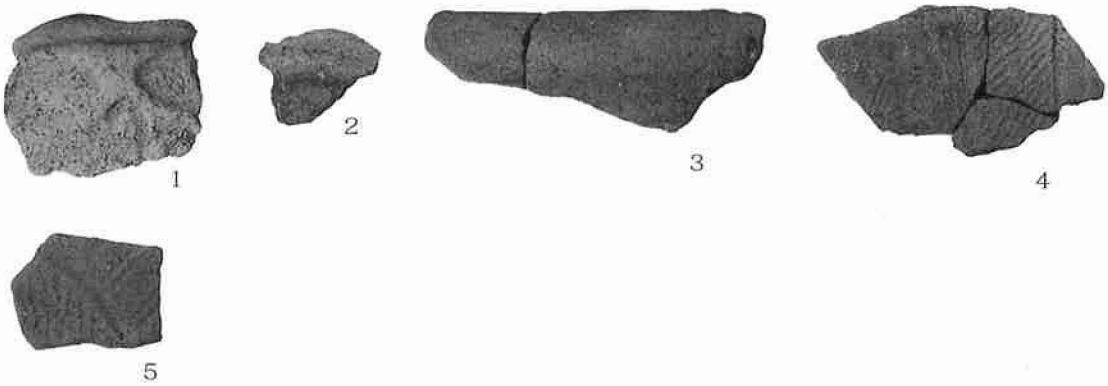
第10号住居址出土遺物



第11号住居址A・B出土遺物

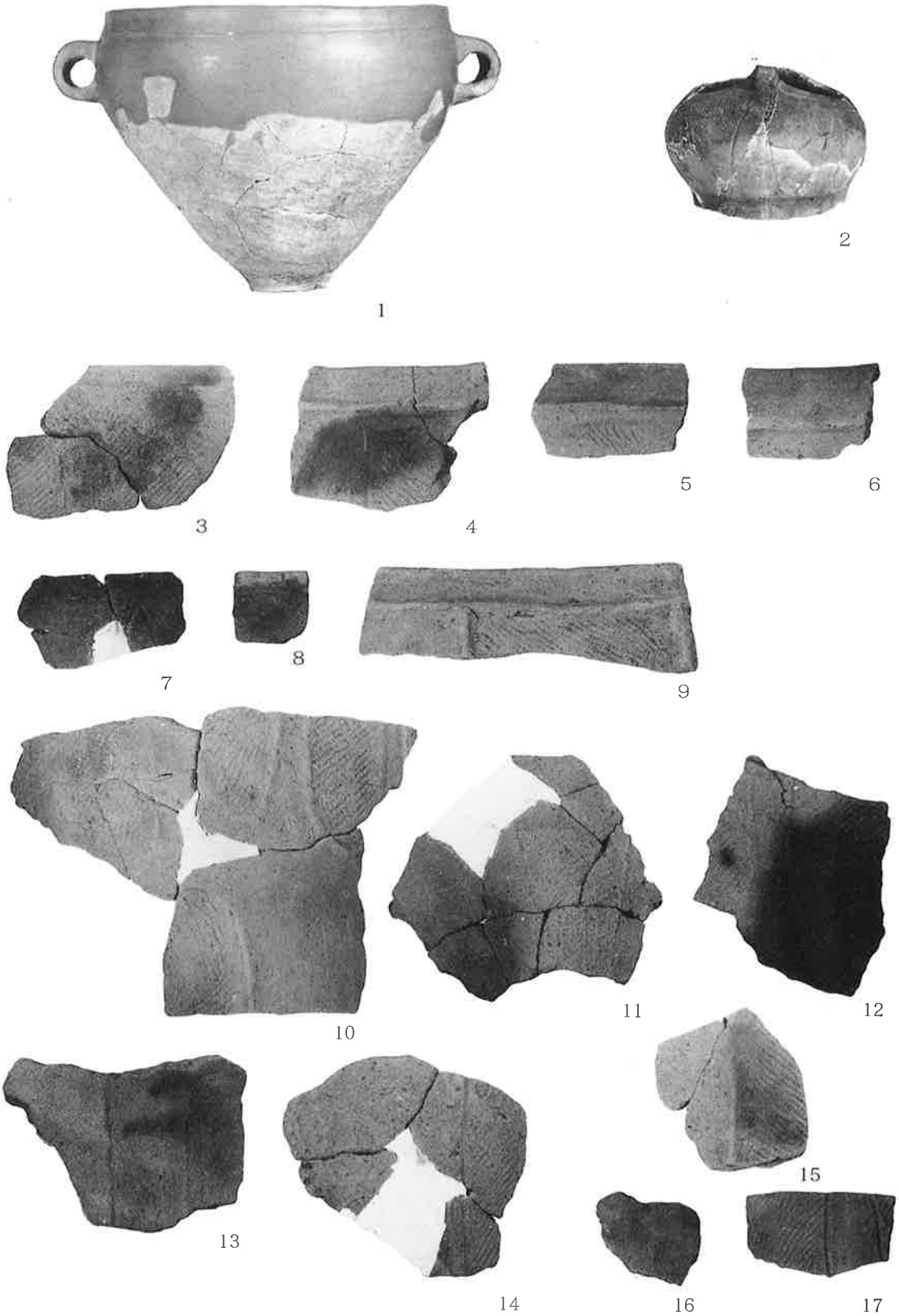


第13号住居址出土遺物

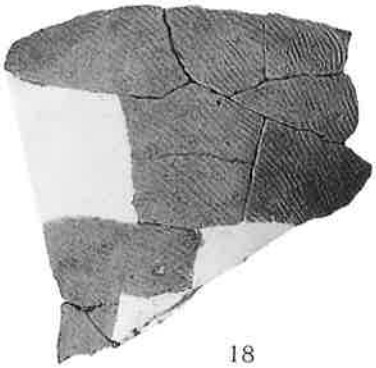


第17号住居址出土遺物

第33号住居址出土遺物



第35号住居址出土遺物①


18

19

20

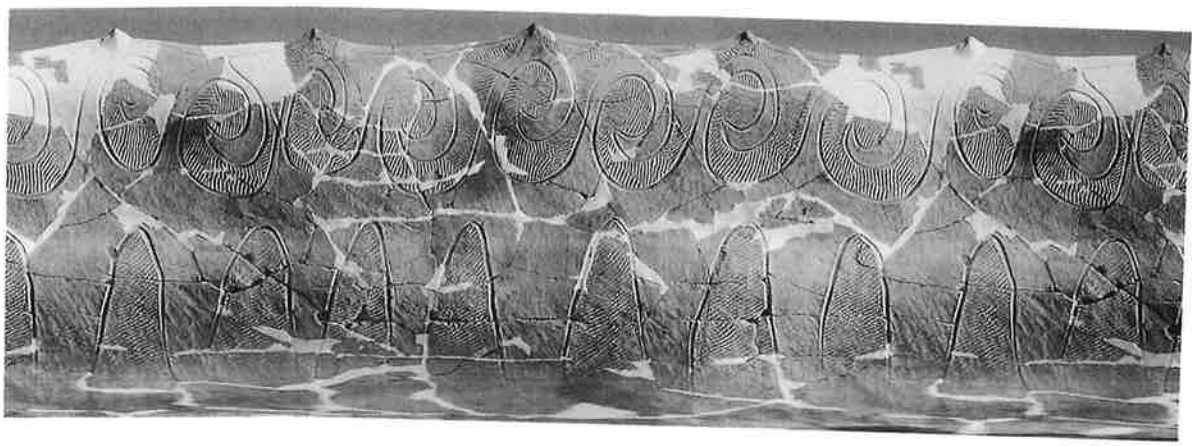
21

第35号住居址出土遺物②

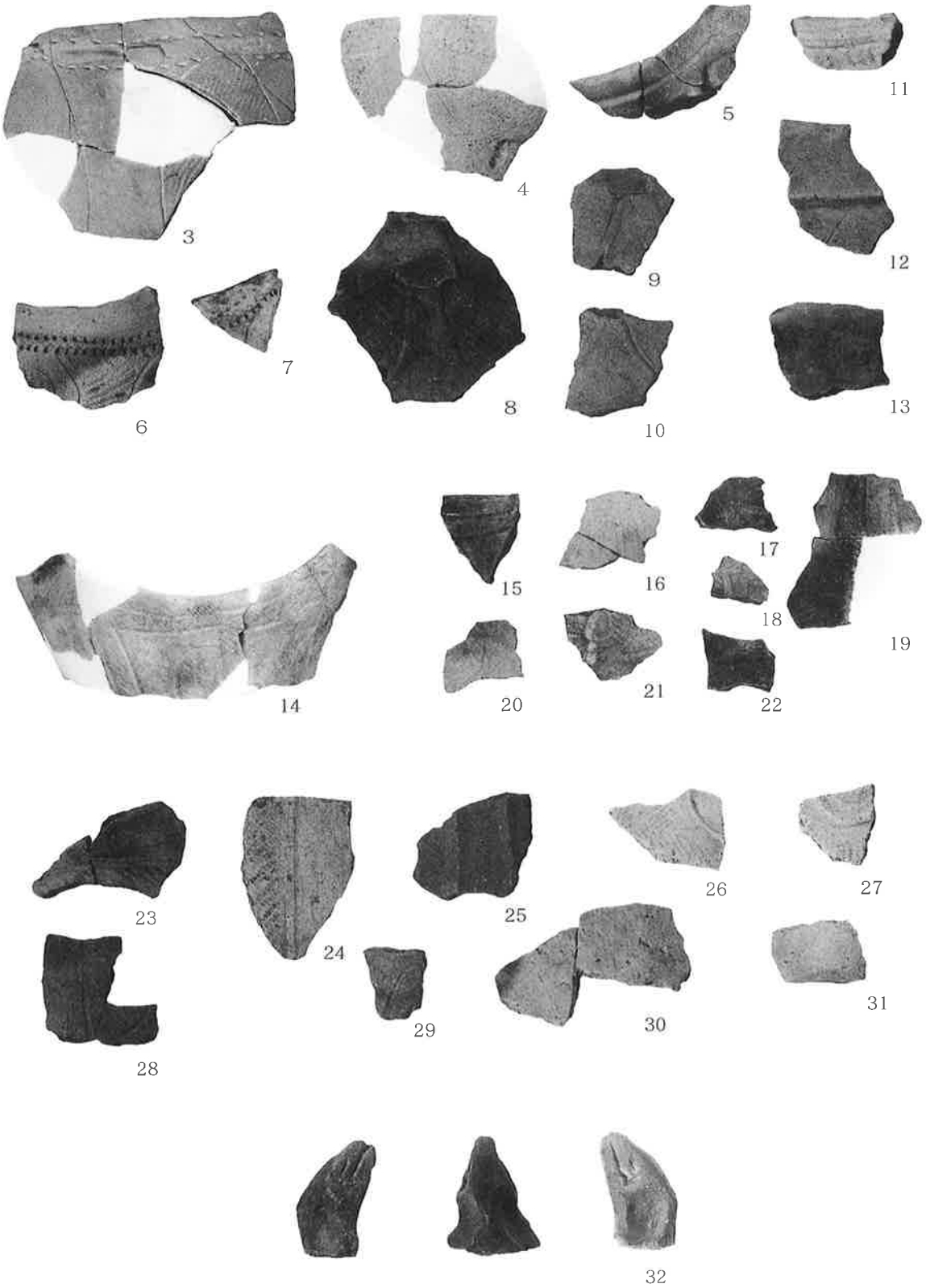
1

2

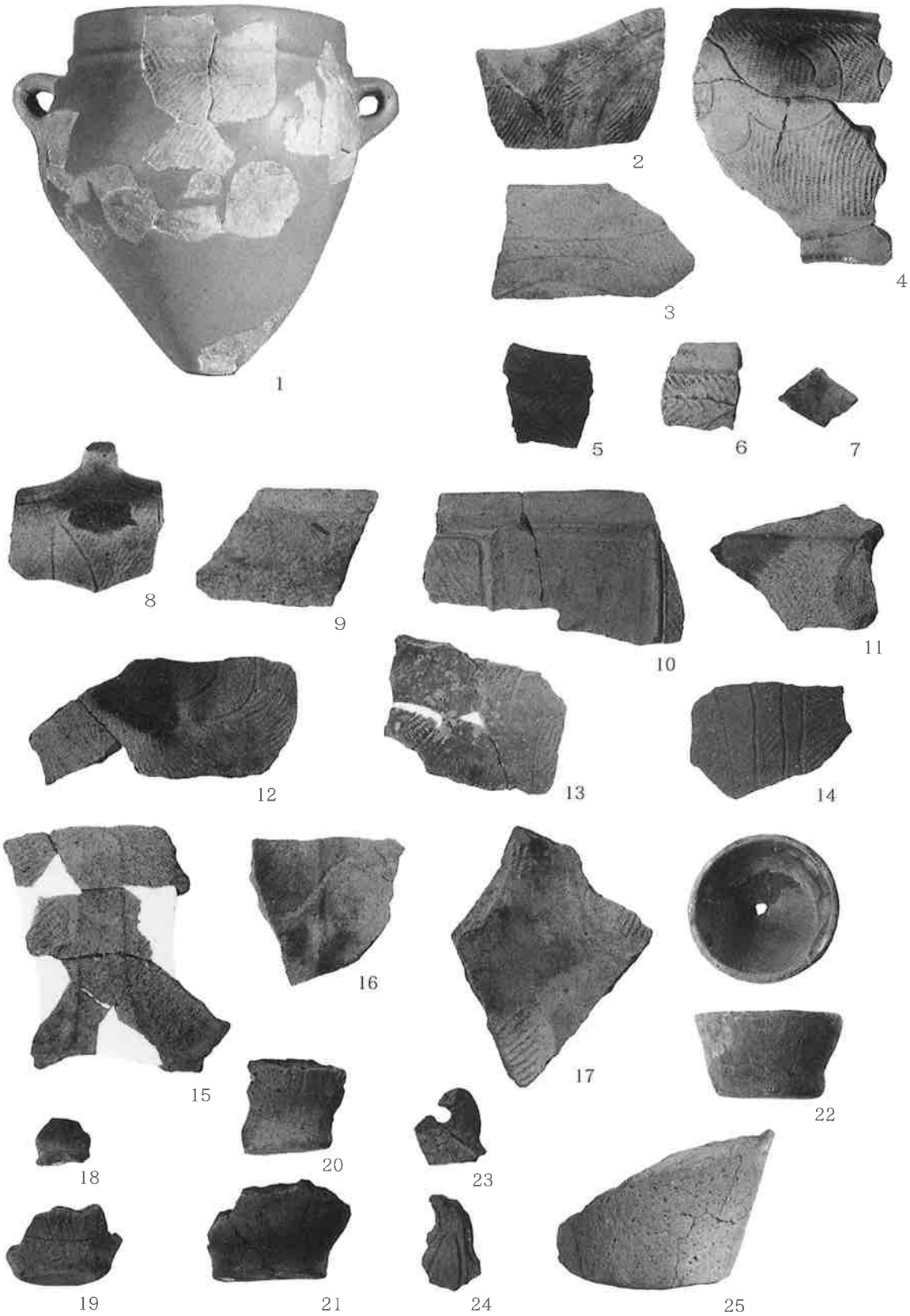
第36号住居址出土遺物①



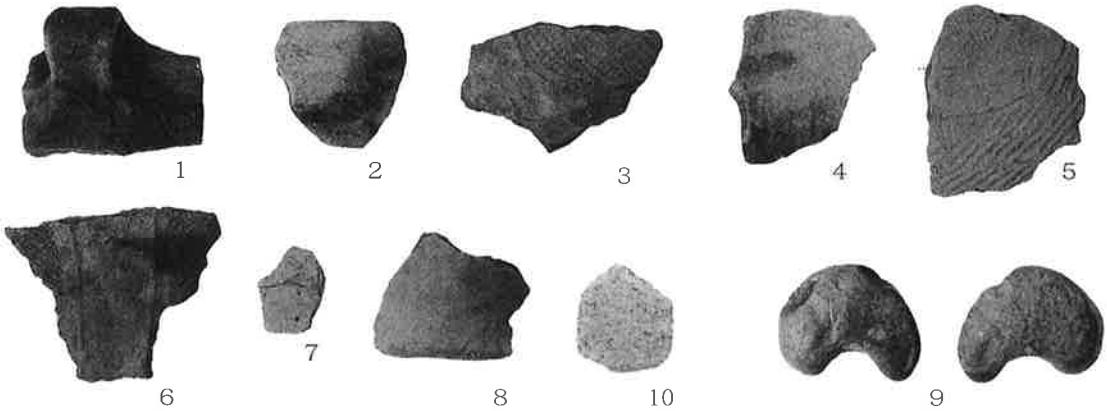
１の展開写真



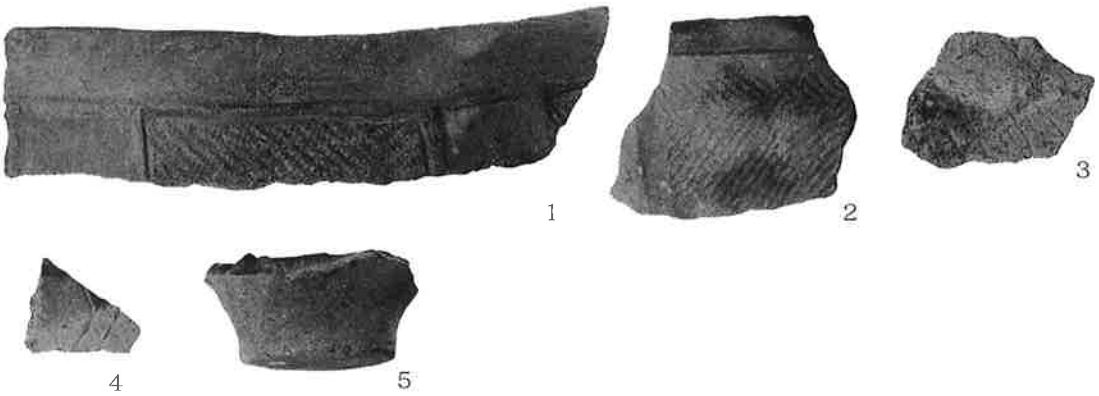
第36号住居址出土遺物②



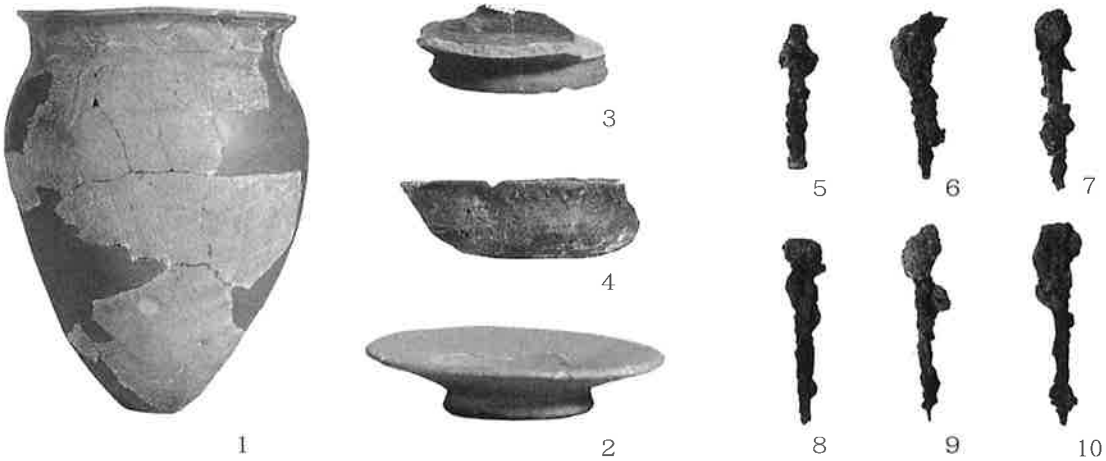
第38号住居址出土遺物



第39号住居址出土遺物



第41号住居址出土遺物



第42号住居址出土遺物

第15号住居址出土遺物

2掘立－1

2掘立－2

1掘立－1

2掘立－3

第1・2号掘立柱建物址出土遺物

1溝－1

2・3溝－1

4溝－1

5溝－1

5溝－2

2・3溝－2

2溝－1

2・3溝－3

1溝－2

－3

－4

－5

5溝－3

－4

－5

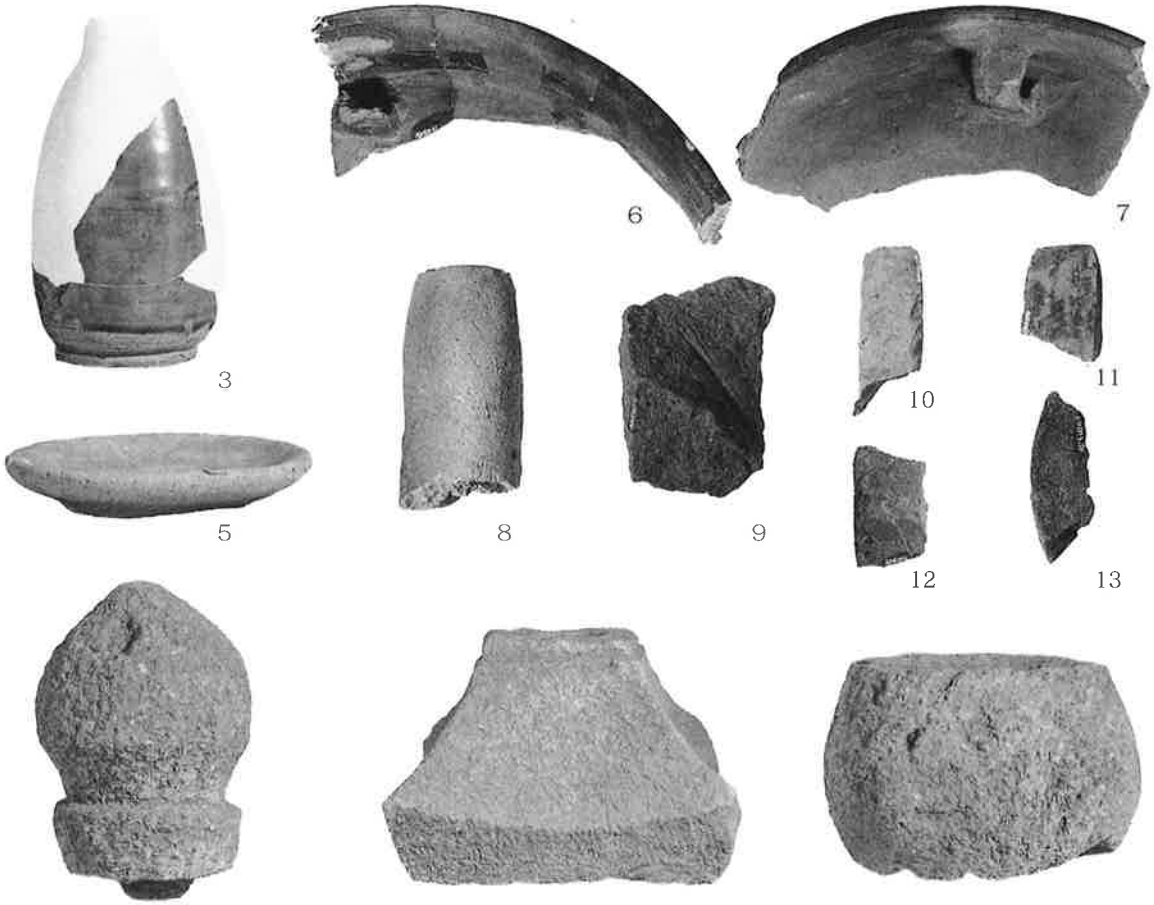
溝址出土遺物

1

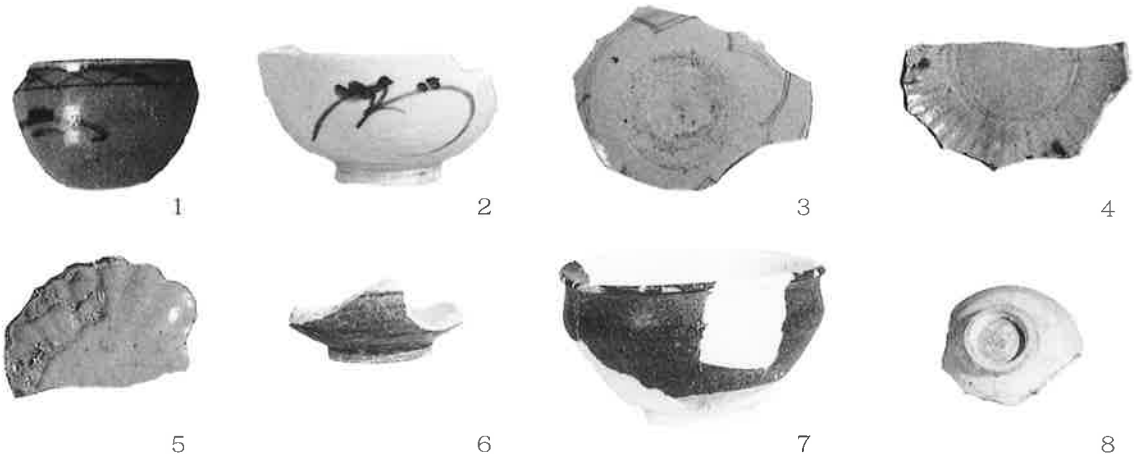
2

4

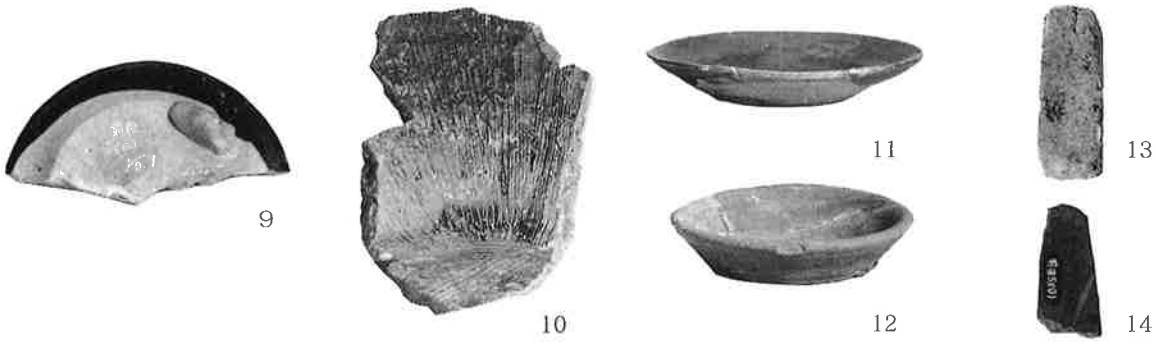
阿弥陀畑地区出土遺物①



阿弥陀畑地区出土遺物②



第３号井戸址出土遺物①



第３号井戸址出土遺物②

市之関前田遺跡Ⅲ発掘調査報告書

1992年３月15日印刷
1992年３月25日発行

編集発行　宮城村教育委員会
群馬県勢多郡宮城村鼻毛石1711－８
〒371-02　電話0272－83－6886

印刷　朝日印刷工業株式会社